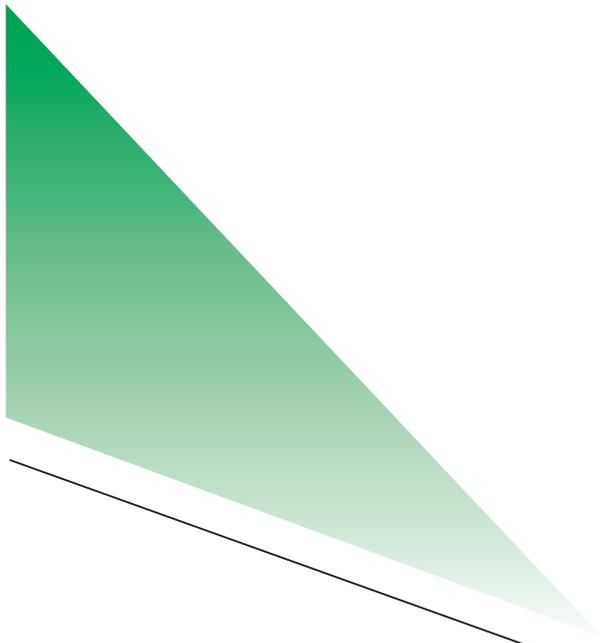
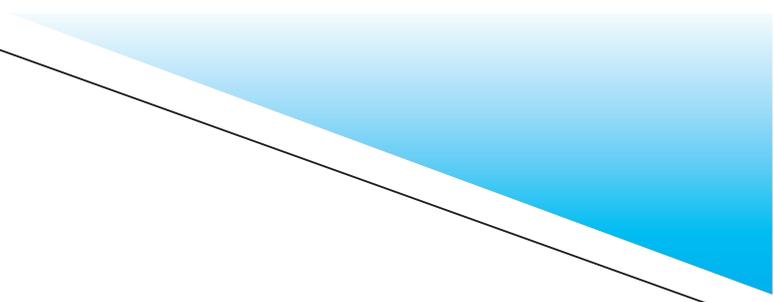


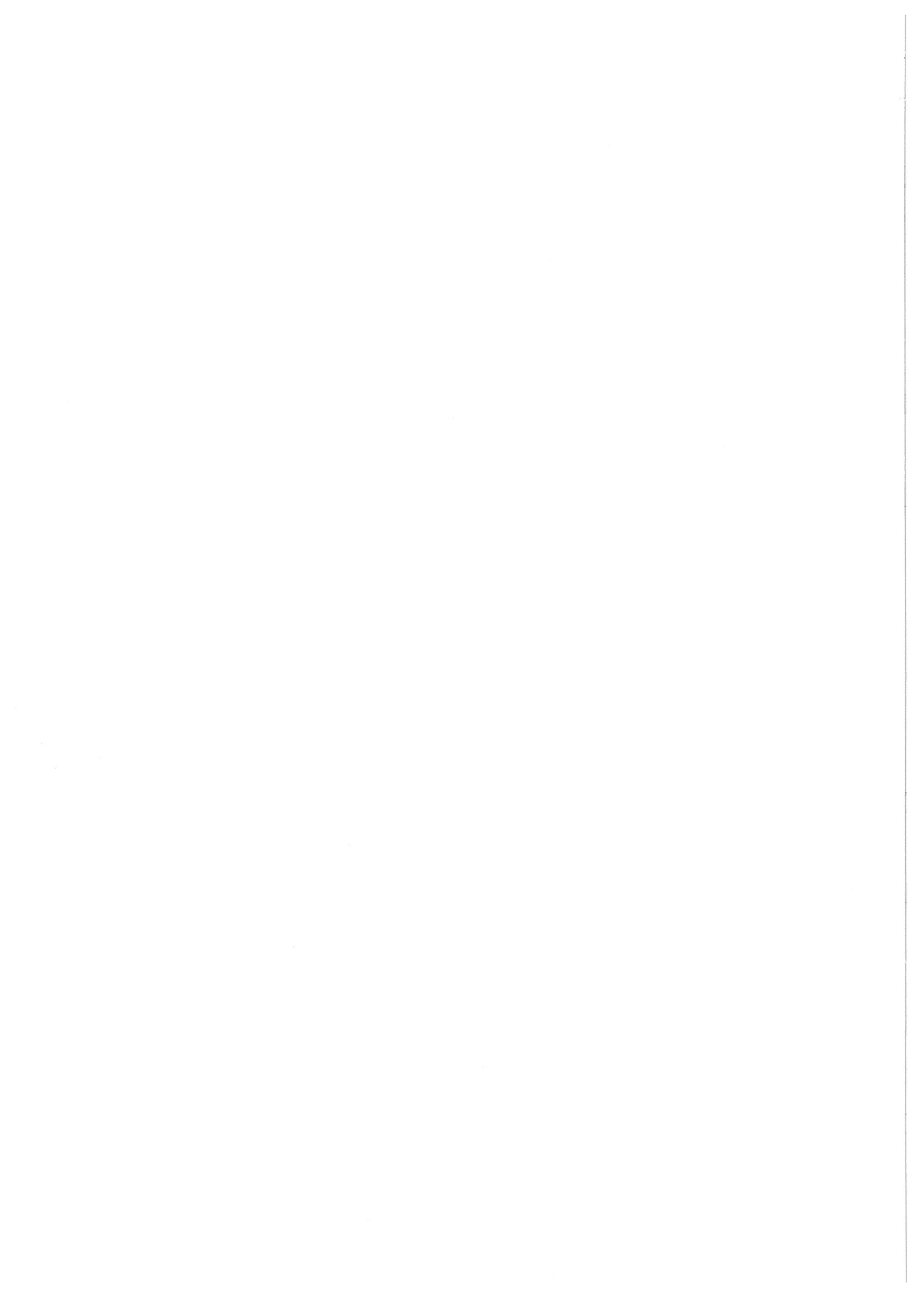
愛媛大学 沿岸環境科学研究センター年報



CMES
CENTER FOR MARINE ENVIRONMENTAL STUDIES



第3号 2002年



**愛媛大学沿岸環境科学研究センター
年 報**

(第3号)

2002年

まえがき

沿岸環境科学研究センター年報第3号がまとまりました。この年報は、同センター (CMES) の歩みを点検すると共に外部からのご指導ご批判を頂くための基礎資料として、過去1年間のCMESにおける研究、教育活動や社会的活動のほぼ全容をまとめたものです。本号では、過去の号に比べ大幅に頁が増加しましたが、これは主に研究員・客員研究員の方々の名簿と業績を掲載したことによるものです。これらの研究員の制度は、学際的な沿岸環境科学の推進のため学内外の協力体制を強化するために昨年度整備したもので、現在21名の学内研究者の方々が研究員として、また62名の学外研究者の方々が客員研究員として委嘱され、CMESのスタッフと連携して研究を進めています。

CMESの目的はまず第1に学術研究の推進であり、この点で着実に成果を上げつつあることは本年報においてご覧いただけることと思いますが、もう一つの目的である地域貢献においても昨年度はいくつかの大きな成果がありました。その中のいくつかを以下にご紹介します。

まず一つは「アジアの環境問題」をテーマに愛媛県環境創造センターと共同で開催した「国際地球市民シンポジウム in えひめ」です。この国際シンポジウムは、健全な地球環境を維持・管理するために地球人として果たすべき役割と責任について地域住民や専門家がともに学ぶことを趣旨に開催されたもので、環境ホルモン問題の名著「奪われし未来」の著者ジョン・ピーターソン・マイヤース博士 (米国Wアルトン・ジョーンズ財団代表) の基調講演「地球市民へのメッセージー環境ホルモンの教訓:社会統治への挑戦」のほか、タイ、ベトナム、カンボジア、韓国、日本から招へいた6人の講師によりアジアの環境問題の現状と課題が紹介されました。このシンポジウムは大きな成果を収め、環境先進県を目指す愛媛の人たちが地球市民として前進するきっかけとなりました。

二つめは、CMESの研究活動を中心に構成された番組「瀬戸内海ー豊かさのメカニズムを探る」がNHKスペシャルで全国に放送されたことです。この番組は、瀬戸内海の独特な地形によって起こる強い潮流が栄養塩の循環や浅場の形成に大きな役割を果たし、瀬戸内海を世界に誇れる恵み豊かな海にしていることを明らかにしたものです。この番組自体は環境問題に警鐘を鳴らす趣旨のものではありませんが、後日愛媛新聞に「瀬戸内海が優れた海であることを実感して瀬戸内海に誇りと愛情を持つとともに、心の底から瀬戸内海を大切にしたいという気持ちを持った」という意味の、視聴者からの投書が掲載されました。この投書は、環境問題を指摘し警鐘を鳴らすことばかりではなく、自然の恵みのメカニズムを理解し、自然に対する愛情や感謝の気持ちを持つことが、環境保全や環境回復の大きな推進力となることを教えてくれるもので、CMESの研究の意義を再認識させてくれるとともに、今後への大きな励みともなるものでした。

そのほか、CMESが愛媛県水産試験場、愛媛県中予水産試験場と共同で運用している沿岸海

況情報システムも昨年度から本格的な稼働を始めました。このシステムは、宇和海沿岸に配置した水温計から衛星経由でデータを送信し、インターネットで公開して養殖漁業の管理などに利用していただくもので、現在5基の水温計が稼働しています。これまでに利用者の方々から、多くのお礼や励ましの mail を頂いています。これらの諸活動を通じて、CMES は地域社会にも広く認知されるとともにその研究成果に大きな期待が寄せられるようになってきています。

CMES が発足してはや3年余が経ちました。CMES は10年時限の組織であり、すでにその3分の1が経過したことになります。この間の大学を巡る情勢の変化はめまぐるしく、これからも独立法人化へ向けた大きなうねりの中で、CMES の果たす役割は益々重要になるものと考えられます。幸いにして、本年度中に CMES の建物が完成する運びとなり、これまで過去に所属していた学部に分散していたスタッフが日常的に顔を合わせることができるようになる予定です。我々はこれを新たな契機として学際的研究協力体制をさらに強化し、中・終盤の活動をいっそう充実させていきたいと考えています。関係各位には、今後一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年6月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター
センター長 武岡 英隆

目 次

まえがき	1
1. 総説	4
1. 1 組織	4
1. 2 各分野の概要	5
2. 研究者要覧	7
3. 研究プロジェクト	13
3. 1 科学研究費等	13
3. 2 学内研究費	15
3. 3 共同研究	15
3. 4 受託研究	16
3. 5 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等	17
4. 研究成果	19
4. 1 著書	19
4. 2 学協会誌等	19
4. 3 学内、所内誌等	23
4. 4 一般誌等	24
4. 5 報告書等	24
4. 6 学会発表等	26
5. 学会及び社会における活動	36
5. 1 併任・委員会委員等	36
5. 2 学協会委員等	37
5. 3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催）	38
5. 4 学会、講演会などの開催（個人）	41
5. 5 学会賞等	41
6. 国際的活動	42
6. 1 国際研究プロジェクト	42
6. 2 在外研究等	43
6. 3 海外調査・国際学会等	43
6. 4 外国人客員研究員等	45
6. 5 海外からの訪問者	45
6. 6 招聘研究員	45
6. 7 留学生	46
7. 教育活動	47
7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	47
7. 2 講義・集中講義	49
8. 設 備	52
9. 広 報	55
9. 1 CMES ニュース	55
9. 2 報道関係	55
9. 3 講座、講演会等	57
10. 中島マリンステーション利用状況	59
11. 研究員名簿および業績	61
11. 1 研究員名簿	61
11. 2 研究員業績	62
12. 客員研究員名簿および業績	65
12. 1 客員研究員名簿	65
12. 2 客員研究員業績	67
13. 運営委員会	82
14. センター規程および運営委員会規程	83

1. 総説

中島マリンステーション

ステーション長：上田 拓史
技能補佐員：木田 彰（船長・船舶関係）
臨時用務員：木田 悦子

事務組織

総務部研究協力課

* 課長：仲田 昇（～平成14年3月）
課長：小坂 吉美（平成14年4月～）
専門員：鎌井 諄一
* 研究施設係長：川上 章二（～平成14年3月）
専門職員（研究拠点第一）：中川 庄八（平成14年4月～）
事務補佐員：家久 恒美

※ *は転任または退職した職員を示す。

1. 2 各分野の概要

環境動態解析分野

研究内容：潮流や密度流などの沿岸海域の流れの実態と、これらと生物生産機構や海洋汚染の機構の関わりを解明することを中心的課題とする分野である。貧酸素水塊や赤潮などの発生機構の解析、養殖漁場の物質循環と環境変動の解析、沿岸域開発に伴う環境影響の解析等に加え、沿岸域の環境変動の長期的モニタリングを行って、地球環境変動に伴う沿岸海域の環境変動の実態や原因の究明と将来予測などを行う。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、養殖漁場の物質循環と環境保全。

生態環境計測分野

研究内容：内分泌攪乱物質（環境ホルモン）など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質を対象に、海洋汚染の現状と推移、海洋環境における挙動とゆくえ、海洋生態系における蓄積の特徴、生物濃縮機構、毒性影響および毒性発現の機序とその影響評価などについて地域的・地球的視点で研究をすすめ、化学物質のリスクから海洋生態系をまもるための方途を提言する。

主な研究テーマ：地球規模での大気および水質汚染、途上国（とくにアジア）の沿岸海洋汚染、養殖魚場の化学汚染、低次生態系（プランクトンや魚介類）の汚染と生物濃縮の機構、高等動物（鳥類や哺乳類）の汚染と生物濃縮の機構、汚染物質の暴露に反応する生体内分子の検索、毒性発現の分子レベルでの機序解明（内分泌系、免疫系、薬物代謝酵素系）、水産資源がもたらす人体の汚染と健康影響評価、海洋汚染の過去復元と将来予測。

生態系解析分野

研究内容：海洋物質循環における微生物機能に関する研究、海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究、海洋・湖沼の浮遊性カイアシ類を主な対象生物としたプランクトンの環境指標に関する研究と指標種の分類学的研究、海洋における細菌や原生動物などの微生物の食物連鎖およびこれにともなう有機物伝達に関する研究、魚類と藻場の生態学的研究。

主な研究テーマ：海洋微生物の物質代謝に関する研究、海洋微生物間での遺伝子伝播の研究、魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態、微生物食物連鎖における生物間相互作用と物質循環、微生物食物連鎖と古典的食物連鎖との相互作用、カイアシ類の分布と分類に関する研究、ナメクジウオの生態学的研究、アイナメ科魚類の生態学、藻場の経時的変化。

環境影響評価予測分野

研究内容：海底及び海底境界層の解析，海底堆積物を研究の主な対象とし，堆積物の分析による過去の環境変遷史の復元と，それに基づいた将来の環境変動による沿岸環境変動の予測，底棲生物を含めた堆積物中の物質循環過程の解明，堆積物の底棲生物への影響，藻場や干潟などの堆積環境の変遷とその生物生産に対する役割の解明及び将来予測等に関する研究。

主な研究テーマ：瀬戸内海の砂堆の生態系に関する総合研究，宇和海の環境変遷史解明，中国内モンゴル自治区岱海の環境変遷史解明，バイカル湖の環境変遷史解明，浅海域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究。

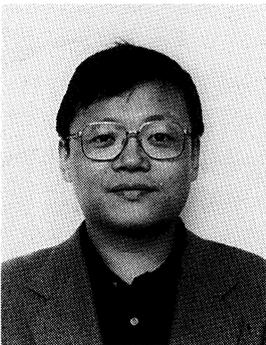
2. 研究者要覧

環境動態解析分野



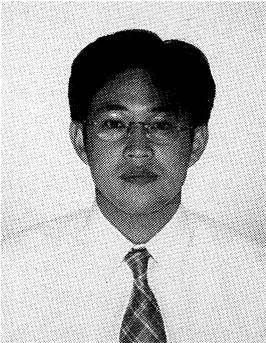
武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

【生年月日】昭和25年10月22日 【職名】教授 沿岸環境科学研究センター長 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9833 【FAX】089-927-9846 【E-mail】takeoka@dpc.ehime-uac.jp 【学歴】昭和49年3月京都大学理学部卒業,昭和51年3月京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了 【学位】昭和59年3月京都大学理学博士 【所属学会】1.日本海洋学会, 2.日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3.土木学会,4.海洋気象学会, 5.水産海洋学会,6.日本沿岸域学会 【専門分野】1.沿岸海洋学,2.海洋物理学 【主な研究テーマ】1.沿岸海域の流動と物質輸送,2.豊後水道の急潮と底入り潮,3.瀬戸内海の物質循環と生物生産機構,4.養殖場の物質循環と環境保全,5.地球環境変動の沿岸域への影響 【受賞歴】1999年日本海洋学会日高論文賞



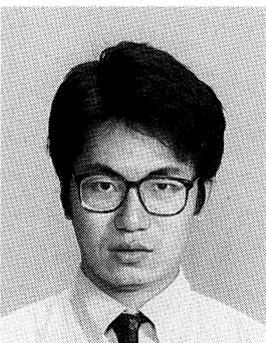
郭 新宇 Guo Xinyu

【生年月日】昭和43年1月22日 【職名】助教授 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9824 【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@dpc.ehime-uac.jp 【学歴】昭和63年7月中国天津大学海洋船舶工学科卒業,平成3年1月中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了,平成9年3月愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月博士(工学)愛媛大学 【所属学会】1.日本海洋学会, 2.日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. American Geophysical Union 【専門分野】1.海洋物理学,2.沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1.黒潮と沿岸海域の相互作用,2.瀬戸内海の海洋環境予測に関する基礎研究



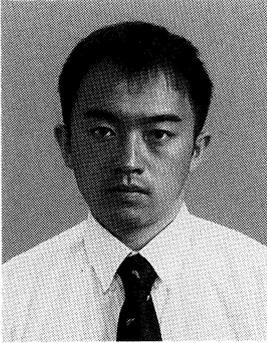
兼田 淳史 Kaneda Atsushi

【生年月日】昭和46年8月7日 【職名】助手 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kaneda@dpc.ehime-uac.jp 【学歴】平成6年3月愛媛大学工学部海洋工学科卒業,平成8年3月愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻修了 【学位】平成8年3月修士(工学)愛媛大学 【所属学会】1.日本海洋学会, 2.日本海洋学会沿岸海洋研究部 【専門分野】1.沿岸海洋学, 2.海洋物理学 【主な研究テーマ】1.宇和海の底入り潮に関する研究, 2.栄養塩モニタリング



速水 祐一 Hayami Yuichi

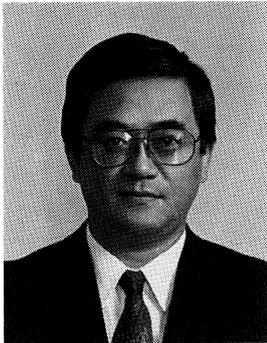
【生年月日】昭和42年3月5日 【職名】教務職員 工学部環境建設工学科 【電話】089-927-8997 【FAX】089-927-9846 【E-mail】hayami@dpc.ehime-uac.jp 【学歴】平成3年3月京都大学農学部水産学科卒業 平成5年3月 京都大学大学院農学研究科修士課程(水産学専攻)修了,平成9年3月 京都大学大学院農学研究科博士後期課程 【学位】平成9年3月 京都大学博士(農学) 【所属学会】1.日本陸水学会, 2.日本海洋学会, 3.日本水環境学会 【専門分野】1.陸水学,2.沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1.湖沼・沿岸海域における流動と物質輸送,2.瀬戸内海における栄養塩の分布と時間変動に関する研究,3.気候変動が湖沼生態系に与える影響に関する研究 【受賞歴】1999年日本陸水学会賞吉村賞



小濱 剛 Kohama Takeshi

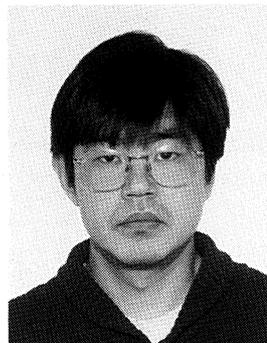
【生年月日】昭和47年2月26日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-9846 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kohama@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成8年3月水産大学校増殖学科卒業,平成10年3月香川大学大学院農学研究科生物資源科学専攻修了,平成13年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成13年3月香川大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本水産学会 【専門分野】1. 海洋環境学, 2. 海洋生化学 【主な研究テーマ】1. 沿岸域における親生物元素の物質循環過程に対する付着動物の役割, 2. 付着動物の生態機能の評価とその環境修復への応用, 3. 豊後水道における窒素, リンの輸送

生態環境計測分野



田辺 信介 Tanabe Shinsuke

【生年月日】昭和26年2月21日 【職名】教授 農学部生物環境保全学専門教育コース兼務 【電話】089-946-9904 【FAX】089-946-9904 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月名古屋大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本水産学会, 4. 日本農芸化学会, 5. 日本極地研究振興会, 6. 日本薬学会, 7. 日本環境科学会, 8. 日本生態学会, 9. 日本地球化学会, 10. 日本環境化学会, 11. 日本比較生理生化学会, 12. 日本環境毒性学会, 13. 日本BICER協議会, 14. 日本鳥学会, 15. 日本哺乳類学会, 16. 内分泌攪乱化学物質学会, 17. 日本化学会, 18. 日本微量元素学会, 19. 日本海セトロジー研究会, 20. 東南アジア国際農学会, 21. The Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 22. The Society for Marine Mammalogy, 23. American Chemical Society 【専門分野】環境化学, 生態毒性学【主な研究テーマ】1. 有害物質による地球規模の海洋汚染と生態系への蓄積および毒性影響に関する環境化学的研究, 2. 内分泌攪乱物質による海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究, 3. 内分泌攪乱物質によるカスピ海の汚染とカスピカイアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, 4. 新しい内分泌攪乱物質 TCP メタンおよび TCP メタノールによるヒトおよび野生生物の汚染に関する研究, 5. 内分泌攪乱物質によるアジア産渡り鳥の汚染と毒性影響に関する研究, 6. 内分泌攪乱物質によるアホウドリの汚染と毒性影響に関する研究, 7. 内分泌攪乱物質による深海生物の汚染と毒性影響に関する研究, 8. マッセルウオッチ：ニ枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング, 9. 環境化学物質をトレーサーとしたミンククジラの生態解明手法の開発, 10. カツオを指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発, 11. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究, 12. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究, 13. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究, 14. 内分泌攪乱化学物質による養殖魚場環境の汚染に関する研究, 15. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク管理に関する研究, 16. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類, 農薬, 重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究 【受賞歴】1985年4月日本海洋学会岡田賞, 1999年3月日産科学賞, 2000年10月 ISI 引用最高栄誉賞

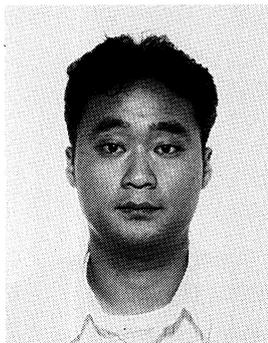


岩田 久人 Iwata Hisato

【生年月日】昭和39年6月2日 【職名】助教授 農学部生物環境保全学専門教育コース兼務 【電話】089-946-9973【FAX】089-946-9973 【E-mail】iwatah@agrehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了【学位】平成6年3月愛媛大学博士(学術)【所属学会】 1. 日本海洋学会, 2. 日本水産学会, 3. 日本環境科学会, 4. 日本環境会議, 5. 日本環境化学会, 6. 日本 BICER 協議会, 7. 日本環境毒性学会, 8. 日本獣医学会, 9. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 10. Society of Environmental Toxicology and

2. 研究者要覧

Chemistry【専門分野】1. 環境毒性学【主な研究テーマ】1. 内分泌攪乱物質による海洋生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 内分泌攪乱物質の暴露に反応する生体内分子の検索, 3. 内分泌攪乱物質による毒性影響の種特異的感受性を決定する生体分子機構の解明.



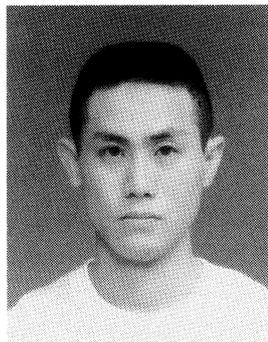
國頭 恭 Kunito Takashi

【生年月日】昭和45年4月25日【職名】助手 農学部生物環境保全学専門教育コース兼務【電話】089-927-8553【FAX】089-927-8553【E-mail】kunito@agr.ehime-u.ac.jp【学歴】平成10年3月東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了【学位】平成10年3月東京大学博士(農学)【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本環境毒性学会, 4. 日本微量元素学会, 5. 日本農芸化学会, 6. 日本土壌肥料学会, 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry【専門分野】1. 環境無機化学【主な研究テーマ】1. 微量元素による環境汚染の実態解明, 2. 海棲生物における重金属解毒機構の解明.



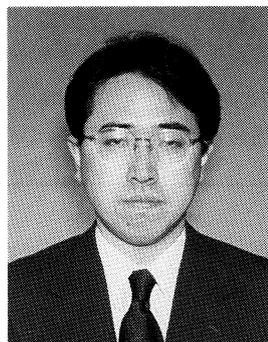
金 恩英 Kim Eun-Young

【生年月日】昭和43年8月17日【職名】研究機関研究員【電話】089-946-3204【FAX】089-946-9973【E-mail】eykim@agr.ehime-u.ac.jp【学歴】平成9年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了【学位】平成9年3月愛媛大学博士(学術)【所属学会】1. 国際鳥類学会, 2. 環境化学会, 3. 日本鳥類学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 5. 環境科学会, 6. 日本環境毒性学会, 7. 日本内分泌攪乱化学物質学会【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境毒性学【主な研究テーマ】1. 環境化学物質による毒性影響の種特異的感受性を決定する遺伝子の分子機構の解明, 2. 環境汚染物質の暴露に反応する野生動物のBiomarkerの開発



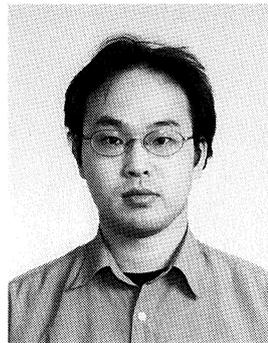
上野 大介 Ueno Daisuke

【生年月日】昭和50年3月25日【職名】研究機関研究員【電話】089-946-3204【FAX】089-946-9904【E-mail】ueno@agr.ehime-u.ac.jp【学歴】平成14年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了【学位】平成14年愛媛大学博士(農学)【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry【専門分野】1. 環境化学【主な研究テーマ】1. 魚介類を生物指標とした海洋汚染モニタリング手法の開発, 2. ダイオキシン類における外洋生態系の汚染と影響に関する環境科学的研究



高橋 真 Takahashi Shin

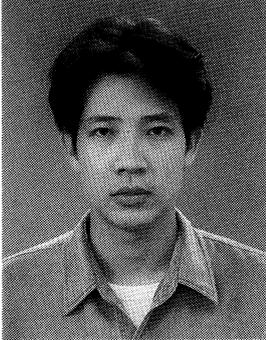
【生年月日】昭和45年5月21日【職名】日本学術振興会特別研究員PD【電話】089-946-3204【FAX】089-946-9904【E-mail】shint@agr.ehime-u.ac.jp【学歴】平成12年9月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了【学位】平成12年9月愛媛大学博士(農学)【所属学会】1. 日本水産学会, 2. 日本環境科学会, 3. 日本環境毒性学会, 4. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 5. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)【専門分野】1. 環境化学【主な研究テーマ】1. 有機スズ化合物による海洋および陸上生態系の汚染とその蓄積特性に関する環境化学的研究, 2. 人為起源有害汚染物質による深海生態系の汚染と影響に関する環境化学的研究



渡部 真文 Watanabe Mafumi

【生年月日】昭和47年12月7日【職名】研究支援推進員(平成13年4月より日本学術振興会特別研究員PD)【電話】089-946-3204【FAX】089-946-9904【E-mail】mafumi@agr.ehime-u.ac.jp【学歴】平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了【学位】平成12年3月愛媛大学博士(農学)【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境毒性学会,

3. 日本鳥学会, 4. 日本環境化学会, 5. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 6. The Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 7. American Chemical Society 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 熱帯・亜熱帯アジアにおけるダイオキシン類の汚染と野生動物の影響に関する環境化学的研究, 2. TCPメタン・メタノールによるヒトおよび野生動物の汚染とその蓄積特性に関する環境化学的研究, 3. 野生鳥類におけるダイオキシン類の汚染とその蓄積特性に関する研究



ツ・ビン・ミン Tu Binh Minh 【生年月日】1972年4月11日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-946-3204 【FAX】089-946-9904 【E-mail】minh@agr.hime-u.ac.jp 【学歴】平成12年9月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年9月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. The Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. TCPMe および TCPMOH によるヒトの汚染, 2. 途上国の都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響, 3. 有機塩素化合物によるアジアの渡り鳥の汚染

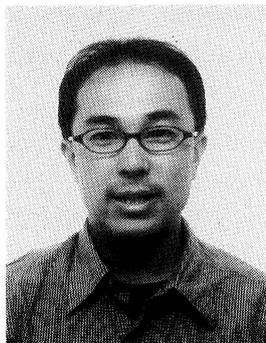
生態系解析分野



鈴木 聡 Suzuki Satoru 【生年月日】昭和31年6月24日 【職名】教授 農学部生物環境保全学専門教育コース兼務 【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-mail】ssuzuki@agrehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月 薬学博士 北海道大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本魚病学会, 3. 日本海洋学会, 4. バイオテクノロジー学会, 5. 日本水産学会, 6. 日本生化学会, 7. 米国微生物学会, 8. 国際微生物生態学会 【専門分野】1. 微生物学, 2. 生態系生化学, 3. 環境分子生物学 【主な研究テーマ】1. 海洋微生物由来高分子の溶存態への移行過程に関する研究, 2. 微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究, 3. 海洋コア中の微生物の機能, 4. 有機スズ耐性遺伝子の研究, 5. 魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態



上田 拓史 Ueda Hiroshi 【生年月日】昭和25年11月25日 【職名】助教授, 中島マリンステーション長, 理学部生物地球圏科学科兼務 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8905 【E-mail】hueda@dpcehime-u.ac.jp 【学歴】昭和54年4月 京都大学農学研究科大学院水産学専攻博士課程単位修得退学 【学位】平成5年2月 博士(農学) 京都大学 【所属学会】1. 日本プランクトン学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本陸水学会, 4. 日本動物分類学会, 5. 日本生物地理学会, 6. Crustacean Society, 7. World Association of Copepoda 【専門分野】1. プランクトン生態学, 2. カイアシ類分類学 【主な研究テーマ】1. 沿岸・内湾・汽水域におけるカイアシ類群集の分布解析, 2. カイアシ類の分類, 3. ナメクジウオの再生産と着底に関する生態 【受賞歴】1999年日本動物学会論文賞



中野 伸一 Nakano Shin-ichi 【生年月日】昭和41年8月1日 【職名】助教授 農学部生物環境保全学専門教育コース兼務 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8552 【E-mail】shin@agrehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程動物学専攻単位取得退学 【学位】平成6年7月 博士(理学) 京都大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本陸水学会, 3. 日本生態学会, 4. 日本微生物生態学会, 5. American Society of Limnology and Oceanography 【専門分野】1. 海洋学, 2. 陸水学, 3. 生態学, 4. 微生物学 【主な研究テーマ】1. 微生物食物連鎖における生物間相

2. 研究者要覧

相互作用と物質循環, 2. 微生物食物連鎖と古典的食物連鎖との相互作用, 3. 養殖漁場における浮遊生物群集の食物連鎖の特性, 4. 水域の富栄養化にともなう生物変遷, 5. 生物多様性の形成および維持機構, 6. 河川生態系における微生物食物連鎖

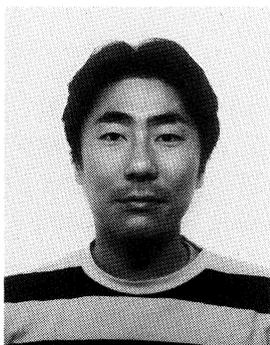


金本 自由生 Kanamoto Ziyusei

【生年月日】昭和22年6月20日 【職名】助手 理学部生物地球圏科学科兼務 【電話】089-997-1019 【FAX】089-997-1696 【E-mail】ziyusei@sci.hime-uac.jp 【学歴】昭和49年3月東北大学大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了【学位】昭和61年2月農学博士東北大学【所属学会】1. 日本水産学会, 2. 日本水産増殖学会, 3. 日本魚類学会, 4. 日本ベントス研究会, 5. 稚魚研究会, 6. 沖縄生物学会, 7. American Society of Herpetologist and Ichthyologist【専門分野】海洋生態学【主な研究テーマ】1. アイナメ科魚類の分布生態, 2. アイナメ科魚類の繁殖生態, 3. アイナメ科魚類の生活史, 4. 海草の分布生態, 5. 海草藻場の経時的変化の研究

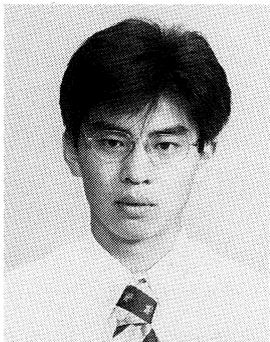
生地 暢 Onji Masashi

【生年月日】昭和44年4月3日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8851 【FAX】089-927-8552 【E-mail】atamonji@agrehime-uac.jp 【学歴】平成11年12月 北海道大学大学院水産学研究科博士課程水産食品学専攻修了【学位】平成11年12月 博士(水産学)北海道大学【所属学会】1. 日本水産学会, 2. 日本微生物生態学会【専門分野】1. 海洋環境微生物学【主な研究テーマ】1. 宇和海および伊予灘における海産微細藻類感染ウイルスの探索及びその生態,



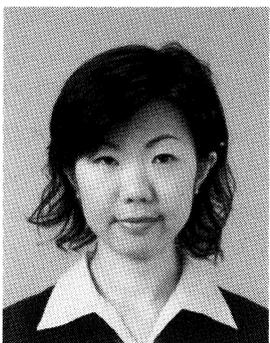
片野 俊也 Katano Toshiya

【生年月日】昭和45年9月24日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8552 【E-mail】katano@agr.hime-uac.jp 【学歴】平成13年9月 東京都立大学大学院理学研究科博士課程生物科学専攻修了【学位】平成13年9月 博士(理学)東京都立大学【所属学会】1. 日本陸水学会, 2. 日本微生物生態学会【専門分野】1. 微生物生態学【主な研究テーマ】1. 海洋沿岸域におけるピコ植物プランクトンの群集構造と環境要因の関係, 2. 湖沼から単離されたピコシアノバクテリアの栄養塩要求



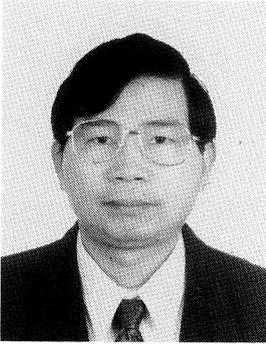
北村 真一 Kitamura Shin-Ichi

【生年月日】昭和49年4月27日 【職名】研究支援推進員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8552 【E-mail】kitamura@agr.hime-uac.jp 【学歴】平成11年3月高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了【学位】修士(農学)高知大学【所属学会】1. 日本魚病学会, 2. 日本微生物生態学会【専門分野】1. 微生物学, 2. 魚病学【主な研究テーマ】1. 魚介類の日和見感染ウイルスの生態学, 2. 有機スズ分解海洋細菌の分解遺伝子に関する研究



野中 里佐 Nonaka Lisa

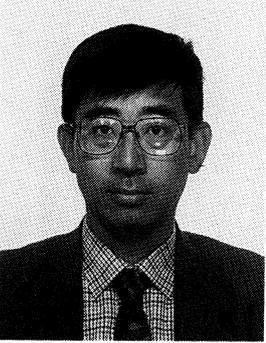
【生年月日】昭和48年8月8日 【職名】日本学術振興会特別研究員 PD 【電話】089-927-8554 【FAX】089-927-8552 【E-mail】lisa@agr.hime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月愛媛大学大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了【学位】博士(農学)【専門分野】1. 微生物分子生態学【主な研究テーマ】1. 環境中での薬剤耐性遺伝子の動態, 2. 新規オキシテトラサイクリン耐性機構の解明



張 伝溪 Zhang Chuanxi

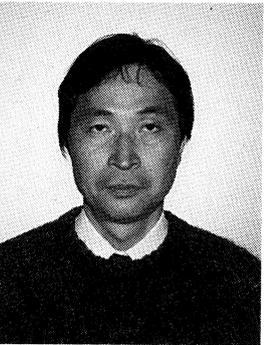
【生年月日】1960年1月3日【職名】日本学術振興会外国人特別研究員【電話】089-927-8551【FAX】089-927-8552【E-mail】chxzhang@agr.ehime-u.ac.jp【学歴】平成9年7月浙江大学(中国科学院上海生物化学研究所)ウイルス分子生物学専攻博士課程修了【学位】理学博士(浙江大学)【専門分野】1. ウイルス分子生物学, 2. 昆虫分子生物学【主な研究テーマ】1. マリノンビルナウイルスのゲノム解析, 2. アクアビルナウイルスに対する DNA ワクチン開発

環境影響評価予測分野



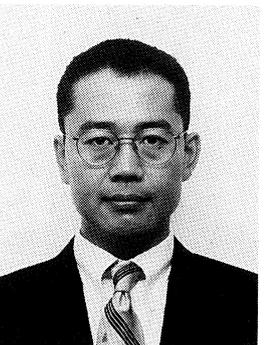
井内 美郎 Inouchi Yoshio

【生年月日】昭和24年7月11日【職名】教授 理学部生物地球圏科学科兼務【電話】089-927-9674【FAX】089-927-9674【E-mail】yinouchi@sci.ehime-u.ac.jp【学歴】昭和49年3月京都大学理学部地質学鉱物学教室【学位】昭和59年5月理学博士京都大学【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会, 3. 日本陸水学会, 4. 堆積学研究会, 5. 日本沿岸域学会, 6. American Geophysical Union, 7. Geological Society of America【専門分野】1. 環境地質学, 2. 堆積学, 3. 第四紀学【主な研究テーマ】1. 瀬戸内海の砂堆の形成機構と資源量評価, 2. ロシアバイカル湖における長期環境変遷に関する研究, 3. 中国内蒙古自治区岱海における環境変遷史解明, 4. 愛媛県下宇和海における環境変遷史解明, 5. 瀬戸内海各地における環境変遷史解明, 6. 美保湾における堆積作用の研究



大森 浩二 Omori Koji

【生年月日】昭和30年2月6日【職名】助教授 理学部生物地球圏科学科兼務【電話】089-927-9643【FAX】089-927-9630【E-mail】ohmori@sci.ehime-u.ac.jp【学歴】昭和58年3月九州大学理学研究科修士課程修了【学位】昭和60年1月理学博士九州大学【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析



奈良 正和 Nara Masakazu

【生年月日】昭和44年2月7日【職名】助手【電話】089-927-9654【FAX】089-927-9640【E-mail】nara@sci.ehime-u.ac.jp【学歴】平成8年3月京都大学大学院理学研究科博士後期課程地質学鉱物学専攻修了【学位】平成8年3月京都大学博士(理学)【所属学会】1. 日本古生物学会, 2. 日本地質学会, 3. 堆積学研究会, 4. 日本ベントス学会, 5. 東京地学協会, 6. 石油技術協会, 7. Society for Sedimentary Geology【専門分野】1. 生痕学, 2. 古生態学, 3. 堆積学【主な研究テーマ】1. 新生代後期の急激な海水準変動が沿岸生態系に及ぼしてきた影響の解析, 2. 新生代の浅海環境における生痕ファブリック解析, 3. 浅海域の堆積物・堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究, 4. 生痕化石の古生態学的研究

永尾 次郎 Nagao Jiro

【生年月日】昭和44年8月18日【職名】研究機関研究員【電話】089-927-9622【FAX】089-927-9630【E-mail】njiro@sci.ehime-u.ac.jp【学歴】平成11年3月北海道大学大学院水産学研究科水産増殖学専攻博士後期課程修了【学位】平成11年3月博士(水産学)北海道大学【所属学会】1. 日本水産学会, 2. 日本甲殻類学会【専門分野】水産増殖学【主な研究テーマ】1. ケガニの生殖周期, 2. クリガニの成長と繁殖に関する研究, 3. クリガニ科カニ類の配偶システムに関する実験生態学的研究

3. 研究プロジェクト

3. 1 科学研究費等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆 (代表), 基盤研究 (A) (2) 「瀬戸内海における環境の長期変動の監視と将来予測に関する研究」, 7,400千円, (分担者に CMES 全メンバーを含む)
概要: CMES は, 平成11年度に四国西端の佐田岬先端部に栄養塩自動監視システムを設置し, 数10年の時間スケールで瀬戸内海の栄養塩環境の変動を監視することを主目的としてデータの取得を始めている。この目的のためには, 水質の短期変動機構を解明して短期変動成分を除去する必要があるほか, 佐田岬は瀬戸内海と太平洋の接合域であるため, これらの影響を分離することが必要である。本研究は, 伊予灘から豊後水道に至る海域の総合的調査を行い, 栄養塩濃度等の短期的変動の原因を解明すると共に, 内海起源の栄養塩と太平洋起源の栄養塩の寄与を明らかにすること, 栄養塩濃度の監視と同時に過去のデータの解析によりこれまでの変動の実態を明らかにすることや高精度の数値モデルによる将来予測を行うこと等を目的としたものである。
- 2) 武岡英隆 (分担), 基盤研究 (B) (1) 「クラゲ類の大量発生メカニズムの解明とクラゲ害軽減化に関する環境科学的研究」, 1,300千円,
概要: 近年瀬戸内海や世界の海でしばしばクラゲ類が大量に発生し, 漁獲量の減少や臨海発電所の取水口を塞ぐ等の様々な被害を与えている。本研究では, 宇和海や伊予灘でのクラゲ大量発生の実態と海況変動の関連, クラゲの移動・集積機構などを解明する。
- 3) 武岡英隆 (分担), 革新的技術開発研究推進費 「沿海・内海の環境変動の革新的計測と変動予測」, 1,000千円,
概要: 海の流れを広範囲に計測する革新的技術である海洋音響トモグラフィ装置を用いて豊後水道の潮流や急潮を計測し, 本装置が沿海・内海での環境モニターに有効であることを実証する。
- 4) 郭新宇 (分担), 特定領域研究 (B), 「縁辺海の家況予報のための海洋環境モニタリングの研究」, 500千円,
概要: 東シナ海の海洋循環モデルを用いて, トレーサー実験により, 対馬暖流の起源を定量的に評価できた。
- 5) 郭新宇 (分担), 革新的技術開発研究推進費補助金, 「沿海・内海の環境変動の革新的計測と変動予測」, 500千円,
概要: 瀬戸内海全域と来島海峡を対象とした潮汐・潮流モデルを開発し, 分潮間の相互作用と来島海峡における潮汐の減衰現象に関する解析を行った。

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介 (計画研究代表), 特定領域研究 (A) (1) 「野生生物における内分泌攪乱物質の汚染とそのリスク評価」, 21,200千円,
概要: 生物を指標にして内分泌攪乱物質による環境汚染の実態を地球規模で明らかにするとともに, 薬物代謝酵素誘導や免疫機能の阻害など毒性影響の一端を示唆した。
- 2) 田辺信介 (代表), 基盤研究 (A) (2) 「生物蓄積性内分泌かく乱物質による野生高等動物の汚染と影響に関する環境化学的研究」, 19,400千円,
概要: ダイオキシン類による生態系の汚染実態を地球規模で調査し, 北半球の汚染が顕在化していることを明らかにした。
- 3) 田辺信介 (分担), 基盤研究 (A) (1) 「有害化学物質への胎児期複合曝露によるクレチン症発症のリスク評価」, 10,000千円,
概要: 有機塩素化合物およびダイオキシン類による日本人患者の母乳汚染について明らかにした。
- 4) 田辺信介 (分担), ダイオキシン類・PCB の分解処理とバイオアッセイモニタリングー薬物代謝酵素誘導を用いたバイオアッセイの環境研究への適用, 文部科学省革新的技術開発研究推進費補助金, 国立環境研究所,

3,000千円,

概要: バイカルアザラシを対象に有機塩素化合物による薬物代謝酵素の誘導について検証し, その毒性影響を評価した.

- 5) 岩田久人 (代表), 基盤研究 (B) (2) 「Ah レセプター介在型ダイオキシン毒性の種特異的リスク評価法の開発」, 6,800千円,

概要: 野生生物を対象に, そのダイオキシン類汚染の実態を明らかにするとともに, Ah レセプターの遺伝子情報を解析した.

- 6) 高橋 真 (代表), 特別研究員奨励費 「外洋深海生態系における有害物質の蓄積と影響に関する環境化学的研究」, 1,200千円,

概要: 外洋性の深海生物を指標にして有機塩素化合物および有機スズ化合物の鉛直輸送を解析した.

- 7) 渡部真文 (代表), 特別研究員奨励費 「ダイオキシン類による途上国の汚染と影響に関する環境化学的研究」, 1,200千円,

概要: 都市ゴミ集積場の土壌を中心にダイオキシン類を分析し, 途上国にもダイオキシンの発生源が存在することを明らかにした.

- 8) 田辺信介 (代表)・Tu Binh Minh (分担), 特別研究員奨励費 「生物蓄積性内分泌攪乱物質によるアジア途上国のヒトおよび野生生物汚染」, 800千円,

概要: ベトナム, インド, フィリピン, カンボジアの都市ゴミ集積場周辺住民の母乳からダイオキシン類を検出し, この問題が途上国にまで拡大していることを指摘した.

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡 (分担), 基盤研究 (A) (1) 「海洋における生体高分子の溶存コロイド有機物への移行・変質過程の解明」 900千円,

概要: 海洋表層で生産される生体高分子が, 海水中で生物代謝と物理化学的過程との相互作用によって分解変質してゆくなかで比較的難分解性の溶存・コロイド態有機物に変質してゆく過程に着目する. 本年度は光合成細菌の膜タンパク質の分解過程を明らかにした. 代表は小池勲夫 (東大).

- 2) 鈴木 聡 (分担), 日本学術振興会日韓科学協力事業, 「日本と韓国に共通な魚介類病原微生物の特性と疫学に関する調査研究」, 100千円,

概要: 韓国で養殖されているマボヤのウイルス性疾病の調査を行った. 代表は川合研兒 (高知大).

- 3) 鈴木 聡 (分担), 特別研究推進費 (I), 「水圏環境における複合有機コロイド系の生物複雑性に関する日米共同研究」, 2,000千円 (総額),

概要: 米国 NSF の Biocomplexity プロジェクトに対応する日本側研究チームの構築を行い, 米国チームとの合同シンポジウムを行った. 代表は永田俊 (京大).

- 4) 上田拓史 (分担), 基盤研究 (B) (2), 「交雑個体群有明海スズキの遺伝的集団構造と両側回遊性」, 9,500千円,

概要: 遡行時のスズキ稚魚の主要な餌となるカイアシ類 *Sinocalanus sinensis* の筑後川での分布を調査した.

- 5) 中野伸一 (代表), 萌芽的研究 「河川の超マイクロハビタットにおける微生物ループ」, 800千円,

概要: 河川の石の表面から数十マイクロンほどの厚さの水層では, 流速がゼロとなる, 本研究では, この層に浮遊性および付着力の弱い微生物 (細菌, 原生生物) が生息していることを明らかにし, これら生物間の食物連鎖 (微生物ループ) の存在を示唆した.

環境影響評価予測分野

- 1) 奈良正和 (代表), 奨励研究 (A) 「新生代後期の急速な海進時における海底生態系の古生態学的手法に基づく高精度復元」, 700千円,

概要: 海進期の陸棚砂堆における化石底生群集とその成立に関する制限要因を明らかにした.

3. 2 学内研究費

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆・郭 新宇・兼田淳史・速水祐一, 宇和海水温情報システムの構築とその活用, 愛媛大学, 1,500千円,
概要: 愛媛県水産試験場と協力して宇和海一帯に水温計測ブイを設置し、ORBCOM 衛星経由で送信されるデータを沿岸環境科学研究センターのホームページ上にリアルタイムで公開するとともに、水温変動の予測などの技術開発を行う。

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介, 環境保全型養殖漁業による養殖魚ブランド化の新しい試み, 愛媛大学, 1,840千円,
概要: 環境ホルモンによる養殖漁場汚染の実態を明らかにし、安全で安心な養殖魚生産のための指針を提示した。
- 2) 田辺信介, 第1回えひめ国際地球市民セミナー: アジアの環境問題, 愛媛大学, 650千円,
概要: アジアの環境問題をテーマに地球環境問題の専門家による国際セミナーを開催し、約500人の一般市民の参加があった。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡 (分担), 残留性有機汚染物質 (POPs) の環境動態, 影響評価, および処理技術に関する総合的研究, 愛媛大学, 4,000千円,
概要: 海洋細菌の有機スズ耐性を調査した。また、有機スズ処理後のヒラメの感染症発症促進について調べた。
- 2) 鈴木 聡, 環境分子生物学実験教育システム, 1,300千円,
概要: 環境保全学学生実験への分子生物学的実験手法の導入を行った。
- 3) 中野伸一, 宇和海沿岸海域における微細植物プランクトンの季節的動態, 沿岸環境科学研究センター, 1,000千円,
概要: 宇和海における微細植物プランクトンの水平的・鉛直的現存量の季節変化, および急潮など物理的な水の動きを調査し、急潮により微細植物プランクトンが宇和海沿岸に輸送されることを解明した。
- 4) 中野伸一, 宇和海における植物プランクトンの組成と現存量の動態解明, 農学部, 500千円,
概要: 宇和海内海湾において、Prochlorococcus や Synechococcus などのピコ植物プランクトンは全クロロフィル濃度の31%を占め、ピコ植物プランクトンの現存量は水温、溶存態無機窒素濃度、溶存態無機リン濃度と高い相関関係があることを明らかにした。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎, 芸予地震に伴う液状化現象に関するジオスライサー調査・研究, 愛媛大学, 1,000千円,
概要: 2001年3月に発生した芸予地震の際に生じた地盤液状化に関して、ジオスライサーを用いた柱状試料採取を行い、液状化した層準を明らかにし、液状化発生のメカニズムを研究した。

3. 3 共同研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆, 漁場環境等調査検討, 津島町, 500千円,
概要: 津島町海域において、養殖による汚染の実態, 真珠貝の餌である植物プランクトン分布の実態等に関する現地調査を行い、適正な放養量を算定するための基礎資料を得ると共に改善策を検討する。
- 2) 武岡英隆, 伊方原子力発電所温排水影響調査, 愛媛県, 1,019千円,
概要: 伊方原子力発電所から排出される冷却用の温排水が付近漁場に与える影響の有無を判断するために、隣接する海域の環境及び漁業の実態を把握することを目的とした現地調査及び漁獲資料の収集を行う。
- 3) 武岡英隆, 瀬戸内海西部の海洋環境とその長期変動に関する研究, 四国電力株式会社, 820千円,
概要: 伊方原子力発電所から排出される温排水の環境への影響をモニターするために四国電力が定期的に行っている総合的環境調査のデータを解析し、同海域の栄養塩濃度が太平洋からの栄養塩供給の経年変動に連動

して変動していることを明らかにした。

- 4) 郭新宇, 黒潮の流系変動とその予測手法の開発に関する研究, 九州大学応用力学研究所, 研究協力者, 50千円,
概要: 黒潮の流系変動が沿岸海況へ与える影響評価を行う数値モデルの開発。
- 5) 郭新宇, 瀬戸内海の低次栄養段階をめぐる物質循環に関する研究, 九州大学応用力学研究所, 研究協力者, 35千円,
概要: 燧灘の残差流に関する研究。
- 6) 郭新宇, 大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究, 東京大学気候システム研究センター, 共同研究者, CPU1000時間,
概要: 潮汐フロントに関する数値的な研究。
- 7) 兼田淳史, 豊後水道における黒潮の変動に対する応答, 九州大学応用力学研究所, 研究代表者, 55千円,
概要: 沿岸域の水温, 水位データと人工衛星データを用いて, 黒潮の変動が豊後水道に与える影響について検討する。

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介, 宇和海の底泥に含まれる有機スズ化合物の分析, 愛媛県水産試験場, 449千円,
概要: ダイオキシン類, PCB, 有機スズ化合物による宇和海の堆積物の汚染実態を調査し, 昨年度と同等の汚染レベルであること, すなわち汚染の低減が遅いことを明らかにした。

生態系解析分野

- 1) 上田拓史, 伊方原発温排水影響調査, 愛媛県, 700千円,
概要: 伊方原子力発電所から排出される温排水の影響の有無を調べるために, 毎月周辺海域でプランクトンを採集し, 沈殿量および乾重量を継続的に測定している。
- 2) 金本自由生, 伊方原発温排水影響調査, 愛媛県, 1,048千円,
概要: 伊方原子力発電所から排出される温排水が付着生物に及ぼす影響を調べるために, 排水口近辺から順次定点を定め, 付着生物を調べた。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎, 瀬戸内海の高砂利資源採取による広域的環境影響評価と管理に関する研究, 中国工業技術研究所, 併任, 1,500千円,
概要: 瀬戸内海における高砂利採取が海域環境に与える影響について, 総合的に研究を実施する。この研究では, 地形・底質に対する影響を評価する。

3. 4 受託研究

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介, 指標生物による有害物質海洋汚染の監視手法の高度化に関する研究—指標生物による有機塩素化合物の蓄積特性, 環境省一括計上・国立機関公害防止等試験研究費, 瀬戸内海区水産研究所, 408千円,
概要: 海洋汚染モニタリング指標としてのイカの有効性と限界について明らかにした。
- 2) 田辺信介, 環境中の複合化学物質による次世代影響リスクの評価とリスク対応支援に関する研究—環境データの解析と環境中生物影響評価, 環境省環境研究総合推進費, 厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所, 5,452千円,
概要: 有機塩素化合物によるヒトの汚染実態と蓄積および排泄特性について明らかにし, そのリスクを評価した。
- 3) 田辺信介, 有害化学物質の地球規模での時空間変動機構および分解過程に関する研究—有機塩素化合物による海洋汚染の実態と長距離輸送等動態解析に関する研究, 環境省地球環境研究総合推進費, 国立環境研究所, 2,865千円,
概要: 外洋大気および海水中の有機塩素化合物濃度を測定し, その汚染分布の実態を明らかにした。
- 4) 田辺信介, 非制御燃焼過程におけるダイオキシン類等の残留性有機汚染物質の生成と挙動—途上国都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響, 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金, 国立環境研究所, 8,000千円,

3. 研究プロジェクト

概要：インド、カンボジア、ベトナム、フィリピンの都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類、有機塩素化合物、の汚染実態を明らかにし、ヒトへの影響を評価した。また、有機塩素化合物汚染の歴史的トレンドを海棲哺乳動物を用いて明らかにした。

5) 田辺信介, 内分泌攪乱物質の小児、成人等の汚染実態および暴露に関する調査研究—ヒト血中に残留する有機塩素化合物—, 厚生省厚生科学研究費補助金 (生活安全総合研究事業), 慶應義塾大学医学部, 4,000千円,
概要：ヒトの血液に残留する有機塩素化合物を測定し、その地域的な残留特性を明らかにした。

6) 田辺信介, 平成13年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究—環日本海におけるダイオキシン類の魚介類等への蓄積状況について—, 国立環境研究所, 1,580千円,
概要：韓国沿岸で採取したムラサキガイを指標生物にして、ダイオキシン類の汚染実態を明らかにした。

生態系解析分野

1) 中野伸一, 内海村沿岸海域環境調査, 内海村, 800千円,

概要：内海村のアコヤガイ真珠母貝養殖漁場において、アコヤガイの餌資源となる浮遊生物各種の現存量および養殖漁場の非生物環境要因を調査し、本漁場のアコヤガイ養殖についての適性を評価する。

3. 5 各種研究助成金 (民間・財団等), 奨学寄付金等

環境動態解析分野

1) 武岡英隆, 沿岸海洋学に関する研究, 四電技術コンサルタント, 4,000千円。

生態環境計測分野

1) 田辺信介 (分担), 地球環境基金助成「カンボジア王国における水系、大気汚染等調査、および持続可能な技術移転」、環境事業団, 1,200千円,

概要：有機塩素化合物によるカンボジアのゴミ集積場汚染の実態について明らかにした。

2) 田辺信介 (分担), トヨタ財団研究助成「メコン川流域各国の経済発展にともなう生態系への影響評価およびその保全に関する研究」、トヨタ財団, 460千円

概要：重金属類によるカンボジアとベトナムのゴミ集積場汚染の実態について明らかにした。

3) 田辺信介 (分担), 環境研究助成「東南アジアに対する日本の環境技術支援のあり方に関する研究-ベトナムを例にして—」, 住友財団, 430千円,

概要：有機塩素化合物, 有機スズ化合物, 重金属類など内分泌攪乱物質によるベトナムの人体汚染および土壌汚染の現状を明らかにした。

4) 田辺信介, カスピ海環境毒性調査に関する研究, 世界銀行 (パデコ), 5,400千円,

概要：有機塩素化合物, 有機スズ化合物, 重金属類によるカスピカイヤザラシおよび魚介類の汚染実態について明らかにした。

5) 田辺信介, 内分泌攪乱物質に関する日英環境プロジェクト, 環境省, 1,500千円,

概要：内分泌攪乱物質に関する日本と英国の共同研究プロジェクトとして、ブラジルの海棲哺乳動物を対象とした有機塩素化合物汚染の実態解明を試みた。

6) 田辺信介, 南半球産及び北西太平洋ミンククジラにおける有機塩素化合物の蓄積と生体影響及び有機塩素化合物をトレーサーとする生態解明の試み, 日本鯨類研究所, 1,500千円,

概要：北太平洋のミンククジラ等鯨類を対象に有機塩素化合物の汚染実態について明らかにした。

7) 田辺信介, 野生生物のダイオキシン類蓄積状況等調査, 自然環境研究センター, 1,600千円,

概要：ダイオキシン類によるカワウとトビの薬物代謝酵素誘導について究明した。

8) 田辺信介, レーザーによる土壌汚染物質の迅速計測技術の研究, ツルイ化学, 300千円,

概要：土壌中の汚染元素を簡便・迅速に測定するレーザー機器の開発について助言した。

9) 田辺信介, 猛禽類の有害物質汚染に関する調査, 日本イヌワシ研究会, 360千円,

概要：イヌワシの有機塩素化合物とダイオキシン類を分析し、その汚染レベルが異常に高いことを明らかにした。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡, 研究助成金, 「海洋における有機スズ化合物分解菌の生態と分解遺伝子のクローニング」, 地球環境財団, 200千円,
概要: 沿岸域の海水, 底泥中での有機スズ耐性細菌の出現率を調べた。
- 2) 上田拓史 (分担), 日本生命財団助成 「有明海特産種の探索と大陸遺存的生態系の解明」, 日本生命財団, 2,000千円,
概要: 大陸遺存種である汽水性カイアシ類 *Sinocalanus sinensis* の有明海内での分布を調査した。
- 3) 上田拓史 (分担), 日本生命財団助成 「ナメクジウオ生息域, 海砂採取海域としての瀬戸内海の砂堆の環境」, 日本生命財団 (代表者, 井内美郎を参照)
- 4) 中野伸一, 海域に敷設した貝殻ならびに底質に棲息する生物調査, ミクニヤ環境システム研究所株式会社, 500千円,
概要: 宇和島湾では, 水質浄化を目的としてアコヤガイの貝殻を特殊処理した材を敷設している。本材およびその底質に生息する微生物をパーコールグラディエント法とプリムリン法の併用により観察し, その水域の他の環境測定項目も考慮して, 水質浄化の効果について助言した。
- 5) 金本自由生, 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター共同研究, 「アイナメ科魚類の生活史」, 東京大学海洋研究所, 110千円,
概要: 大槌湾のアイナメ類について, 生活史を10年来追っており, 2ヶ月分でライフサイクルが完結する。2001年度は2001年4月と10月の成魚と稚魚の生態について研究し, 4月には大量の浮遊稚魚がいて, 10月にも仔魚が採集されたが, アイナメの卵保護は見られなかった。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎・上田拓史・大森浩二・奈良正和, ナメクジウオ生息域海砂利採取海域としての瀬戸内海の砂堆の環境, 日本生命財団, 代表, 2,800千円,
概要: 海砂利採取の対象となっている砂堆環境は, 新たに認識された環境である。この環境において, 生物・地質・物理・化学的な研究を実施し, 砂堆環境の実態を明らかにする。
- 2) 井内美郎, 霞ヶ浦における地形測量システムの有効性に関する研究, 川崎地質, 2,500千円。
概要: 霞ヶ浦において, シーバットシステムを用いて湖底地形を測量する際に, 浅い水域においてシーバットシステムによる調査が有効であることを実証する。
- 3) 大森浩二, 河川生態系における藻類食者の相互作用, 財団法人河川管理財団1,500千円。
- 4) 大森浩二, 貯水池の沿岸帯の機能評価, 財団法人ダム水源地環境整備センター, 1,000千円。

4. 研究成果

(暦年で2001年に出版、掲載されたもの)

4. 1 著書

生態環境計測分野

- 1) 土井陸雄・田辺信介：途上国の環境問題，国際保健医療学，国際保健医療学会編，杏林書院，199-209.
- 2) Tanabe,S.: Persistent organic pollutants in the seas of Asian developing regions. Joint Research on Environmental Science and Technology for the Earth: Annual Report of FY 1999, Fujita,M. and Viet,P.H. (Eds.), Osaka University, Japan, 27-30.
- 3) 田辺信介：有機塩素化合物のグローバルな動態，内分泌攪乱物質研究の最前線，季刊化学総説，50，日本化学会編，学会出版センター，73-78.
- 4) 高橋 真・田辺信介：有機スズ化合物の生物蓄積と環境動態，内分泌攪乱物質研究の最前線，季刊化学総説，50，日本化学会編，学会出版センター，79-85.
- 5) 岩田久人：海洋生態系と残留性有機汚染物質，海と環境，日本海洋学会編，講談社サイエンティフィック，212-223.

生態系解析分野

- 1) Zhang, C.: Analysis of Baculovirus polyhedrin gene and protein kinase gene, and expression of human erythropoietin gene in baculovirus-insect system, Higher Education Press. Beijing, 287.

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎：明日を拓く地質学，発行，日本地質学会，204.
- 2) 井内美郎：瀬戸内海の「新しい環境問題」としての海砂問題，井内美郎ほか編著，明日を拓く地質学，日本地質学会，134-147.
- 3) 井内美郎：仁科三湖の地形と堆積物から見た糸一静線の活動像，地震と防災，塚原弘昭編著，信濃毎日新聞社，89-106.
- 4) 大森浩二・柳沢康信：同所的種分化のモデル，水生動物の卵サイズ，後藤 晃・井口恵一朗共編，海遊舎，東京，192-208.

4. 2 学協会誌等

環境動態解析分野

原著

- 1) 小浜剛・門谷茂・梶原葉子・山田真知子：ムラサキイガイおよびコウロエンカワヒバリガイの個体群動態と過栄養海域における環境との関係，日本水産学会誌，67，664-671.

総説等

- 1) 武岡英隆・速水祐一・兼田淳史・松下太郎・紀本岳志・渡辺浩三・藤川淳一：瀬戸内海の栄養塩環境の長期自動モニタリング，沿岸海洋研究，38，91-97.
- 2) 武岡英隆：瀬戸内海の栄養塩環境の長期変動，地球環境，6，3-12.

Proceedings 等

- 1) Guo, X., Miyazawa, Y., Hukuda, H. and Yamagata T.: Tracer experiments on the origin of the Tsushima Warm Current. Proceedings of 11th PAM&JECSS, 45-47, Cheju, April.

- 2) Miyazawa, Y., Guo, X., Hukuda, H. and Yamagata T.: Eddy resolving Kuroshio simulation: eddy behavior in the Kuroshio region, Proceedings of 11th PAM&JECSS, 357-360, Cheju, April.
- 3) Kaneda, A., Guo, X., Koizumi, Y. and Takeoka K.: Influence of onshore/offshore movement of the Kuroshio on the water temperature in the Bungo Channel, Japan. Proceedings of 11th PAM&JECSS, 369-372, Cheju, April.
- 4) Guo, X., and Yamagata T.: Dependence of the model Kuroshio in the East China Sea on spatial resolution. Proceedings of Fifth IOC/WESTPAC International Scientific Symposium, 127, Seoul, August.
- 5) Kaneda A., Takeoka H., Hayami Y., Guo X., Kimoto T.: Autonomous monitoring of nutrients and water temperature in the Bungo Channel, Japan. Proceedings of Fifth IOC/WESTPAC International Scientific Symposium, 186, Seoul, August.

生態環境計測分野

原著

- 1) Senthilkumar, K., Kannan, K., Subramanian, An. And Tanabe, S.: Accumulation of organochlorine pesticides and polychlorinated biphenyls in sediments, aquatic organisms, birds, bird eggs and bat collected from South India, Environmental Science and Pollution Research, 8(1), 35-47.
- 2) Guruge, K. S. and Tanabe, S.: Contamination by persistent organochlorines and butyltin compounds in the west coast of Sri Lanka, Marine Pollution Bulletin, 42(3), 179-186.
- 3) Chiba, I., Sakakibara, A., Goto, Y., Isono, T., Yamamoto, Y., Iwata, H., Tanabe, S., Shimazaki, K., Akahori, F., Kazusaka, A. and Fujita, S.: Negative correlation between plasma thyroid hormone levels and chlorinated hydrocarbon levels accumulated in seals from the coast of Hokkaido, Japan, Environmental Toxicology and Chemistry, 20(5), 1092-1097.
- 4) Lee, K. T., Tanabe, S. and Koh, C. H.: Contamination of polychlorinated biphenyls (PCBs) in sediments from Kyeonggi Bay and nearby areas, Korea. Marine Pollution Bulletin, 42(4), 273-279.
- 5) Kunito, T., Saeki, K., Goto, S., Hayashi, H., Oyaizu, H. and Matsumoto, S.: Copper and zinc fractions affecting microorganisms in long-term sludge-amended soils, Bioresource Technology, 79, 135-146.
- 6) Kunito, T., Saeki, K., Nagaoka, K., Oyaizu, H. and Matsumoto, S.: Characterization of copper-resistant bacterial community in rhizosphere of highly copper-contaminated soil, European Journal of Soil Biology, 37, 95-102.
- 7) Takeuchi, I., Takahashi, S., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Caprella watch: a new approach for monitoring butyltin residues in the ocean, Marine Environmental Research, 52(2), 97-113.
- 8) Lee, K. T., Tanabe, S. and Koh, C. H.: Distribution of organochlorine pesticides in sediments from Kyeonggi Bay and nearby areas, Korea, Environmental Pollution, 114(2), 207-213.
- 9) Kajiwara, N., Kannan, K., Muraoka, M., Watanabe, M., Takahashi, S., Gulland, F., Olsen, H., Blankenship, A. L., Jones, P. D., Tanabe, S. and Giesy, J. P.: Organochlorine pesticides, polychlorinated biphenyls, and butyltin compounds in blubber and livers of stranded California sea lions, elephant seals, and harbor seals from coastal California, USA, Archives of Environmental Contamination and Toxicology, 41(1), 90-99.
- 10) Guruge, K., Watanabe, M., Tanaka, H. and Tanabe, S.: Accumulation status of persistent organochlorines in albatrosses from the North Pacific and the Southern Ocean, Environmental Pollution, 114(3), 389-398.
- 11) 上野大介・高橋 真・田辺信介・池田久美子・小山次朗・山田 久: 季節, サイズおよび生息深度によるムラサキイガイ中有機塩素化合物蓄積濃度の変動, 日本水産学会誌, 67 (5), 887-893.
- 12) Guruge, K. S., Tanaka, H. and Tanabe, S.: Concentration and toxic potential of polychlorinated biphenyl congeners in migratory oceanic birds from the North Pacific and Southern Ocean, Marine Environmental Research, 52(3), 271-288.
- 13) Maruyama, Y., Teraoka, H., Iwata, H., Kazusaka, A. and Fujita, S.: Inhibitory effects of endogenous dopaminergic neurotoxin, norsalsolinol on dopamine secretion in PC12 rat pheochromocytoma cells, Neurochemistry International, 38 (7), 567-572.
- 14) Kubota, R., Kunito, T. and Tanabe, S.: Arsenic accumulation in the liver tissue of marine mammals, Environmental Pollution, 115(2), 303-312.
- 15) Minh, T. B., Watanabe, M., Tanabe, S., Yamada, T., Hata, J. and Watanabe, S.: Specific accumulation and elimination kinetics of tris (4-chlorophenyl) methane, tris (4-chlorophenyl) methanol, and other persistent organochlorines in humans from Japan, Environmental Health Perspectives, 109(9), 927-935.
- 16) 佐伯和利・國頭 恭・長岡一成・小柳津広志・松本 聡: 銅汚染根圏土壌中の銅耐性細菌の特徴, 環境科学

4. 研究成果

会誌, 14 (5), 505-510.

- 17) Anan, Y., Kunito, T., Watanabe, I., Sakai, H. and Tanabe, S.: Trace element accumulation in hawksbill turtles (*Eretmochelys imbricata*) and green turtles (*Chelonia mydas*) from Yaeyama Islands, Japan, *Environmental Toxicology and Chemistry*, 20 (12), 2802-2814.

総説等

- 1) 田辺信介・高橋 真：ブチルスズ化合物による海洋生態系の汚染－海棲哺乳動物を中心に－, *地球環境*, 16 (1), 13-27.
- 2) 田辺信介：海洋環境における内分泌攪乱物質問題の現状と課題－海棲哺乳動物の汚染と影響－, *日本海水学会誌*, 55 (4), 228-235 (招待原稿).
- 3) 田辺信介：POPsによる地球規模の海洋汚染－海棲哺乳動物の汚染と影響を中心に－, *季刊環境研究*, 122, 9-17 (招待原稿).

Proceedings 等

- 1) Takahashi, S., Hayashi, S., Kasai, R., Tanabe, S. and Kubodera, T.: Contamination of deep-sea organisms from Tosa Bay, Japan by organochlorine and butyltin compounds, *National Science Museum Monographs*, 20, 363-380.
- 2) Minh, T. B., Watanabe, M., Tanabe, S., Yamada, T., Hata, J. and Watanabe, S.: Contamination, specific accumulation and elimination kinetics of tris (4-chlorophenyl) methane, tris (4-chlorophenyl) methanol and other persistent chlorinated endocrine disrupters in Japanese people, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 116-117.
- 3) Niimi, S., Watanabe, M., Nakata, H., Tanabe, S., Amano, M., Miyazaki, N., Fujise, Y. and Petrov, E. A.: Temporal variation of contamination by endocrine-disrupting chemicals (PCBs and organochlorine pesticides) in seals and cetaceans, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 124.
- 4) Takeuchi, I., Ohji, M., Takahashi, S., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Has TBT concentration detected in Japanese coastal waters detected below the toxic threshold? - experiments on the effect of TBT on the survival rate and sex ratio of *Caprellid* amphipods, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 124-125.
- 5) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Tanabe, S., Ismail, A. and Muchtar, A.: Contamination by butyltin compounds of mussels, fish and sediments from coastal waters of Malaysia and Indonesia, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 205-206.
- 6) Fujii, N., Iwata, H., Kunisue, T., Watanabe, M., Tanabe, S., Tanaka, H., Ogi, H. and Shibata, Y.: Bioaccumulation and metabolism of endocrine disrupters (polychlorinated biphenyls and organochlorine pesticides) in fish-eating birds and the induction of hepatic cytochrome P450, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 211.
- 7) Yamada, K., Watanabe, M., Tanabe, S., Higuchi, H., Jin, K., Ismail, A. and Subramanian, An.: Contamination by persistent organochlorine endocrine disrupters (PCBs, organochlorine pesticides) in crows collected from tropical Asia and Japan, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 213-214.
- 8) Takahashi, S., Lee, J. S., Hayashi, S., Kasai, R., Tanabe, S., Kubodera, T. and Kawaguchi, K.: Contamination by endocrine disrupters (organochlorine and organotin compounds) in deep-sea organisms from Japanese coastal and offshore waters, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 217-218.
- 9) Iwata, H. and Stegeman, J.J.: Detection of CYP1A in chondroid cells from fish, possible involvement in vertebrate skeletal development, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 229-230.
- 10) Kim, E. Y. and Hahn, M. E.: Characterization of an aryl hydrocarbon receptor as a biomarker of dioxin susceptibility in harbor seal (*Phoca vitulina*), *Environmental Sciences*, 8(2/3), 230.
- 11) Agusa, T., Kunito, T., Monirith, I., Tanabe, S. and Tana, T. S.: Contamination by trace elements in dumping sites for municipal wastes in Phnom Penh, Cambodia, *Environmental Sciences*, 8(2/3), 295.
- 12) Watanabe, M., Kunisue, T., Nakashima, E., Namba, M., Monirith, I., Tana, T. S., Prudente, M., Subramanian, An. And Tanabe, S.: Contamination by polychlorinated-p-dioxins (PCDDs), dibenzofurans (PCDFs) and biphenyls (PCBs) in dumping sites of municipal wastes in developing Asian countries (Philippines, Cambodia and India), *Environmental Sciences*, 8(2/3), 306--307.
- 13) 阿南弥寿美・國頭 恭・池本徳孝・田辺信介：海棲高等動物の肝細胞内における微量元素の分布, *Biomedical Research on Trace Elements* 12 (4), 277-278.

生態系解析分野

原著

- 1) Isshiki, T., T. Nagano and S. Suzuki : Infectivity of aquabirnavirus strains to various marine fish species, *Dis. Aquat. Org.*, 46, 109-114.
- 2) Jung, S-J., S. Suzuki, S., M-J. Oh and K. Kawai : Pathogenicity of marine birnavirus against ayu *Plecoglossus altivelis*, *Fish Pathol.*, 36, 99-101.
- 3) Suzuki, S., S-I. Kitamura and H. X. Chiura : Aquabirnavirus widely distributes in the ocean, providing a dissolved RNA pool, *Microb. Environ.*, 16, 191-196.
- 4) Rahman, M. H., S. Suzuki and K. Kawai : The effect of temperature on the infection of *Aeromonas hydrophila* in goldfish, *Carassius auratus*, *J. Appl. Ichthyol.*, 17, 282-285.
- 5) Rahman, M. H., S. Suzuki and K. Kawai : Formation of viable but non culturable cells (VBNC) of *Aeromonas hydrophila* and its virulence in goldfish, *Carassius auratus*, *Microbiol. Res.*, 156, 103-106.
- 6) Ueda, H., S. Ohtsuka, Y. Seike and S. Ohtani : Second record of *Cyclopina kiraensis*, a small brackish-water cyclopoid copepod in Japan, *Limnology*, 2, 249-250.
- 7) Mirabdullayev, I. M. and H. Ueda : Redescription of *Thermocyclops uenoi* Ito, 1952, *Vestnik Zoologii*, 35, 17-22.
- 8) 上田拓史・木村英俊 : 重信川流域における泉のプランクトン相. 陸水学雑誌, 62, 219-227.
- 9) Nishii, K., S. Nakano, M. Tamada, P. M. Manage, Y. Nishibe and Z. Kawabata : Microbial decomposition of dissolved organic matter in a hypertrophic pond, *Limnology*, 2, 207-212.
- 10) Nakano, S., P. M. Manage, Y. Nishibe and Z. Kawabata : Trophic linkage among heterotrophic nanoflagellates, ciliates and metazoan zooplankton in a hypereutrophic pond, *Aquat. Microb. Ecol.*, 25, 259-270.
- 11) Manage, P. M., Z. Kawabata and S. Nakano : Dynamics of cyanophages and algicidal bacteria causing *Microcystis aeruginosa* mortality, *Limnology*, 2, 73-78.
- 12) Tomaru, Y., Z. Kawabata and S. Nakano : Mass mortality of Japanese pearl oyster, *Pinctada fucata martensii*, in relation to water temperature, chlorophyll a and phytoplankton composition. *Dis. Aquat. Org.*, 44, 61-68.
- 13) Nakano, S., K. Hayakawa, J.-J. Frenette, T. Nakajima, C. Jiao, S. Tsujimura and Michio Kumagai : Cyanobacterial blooms in a shallow lake: a large-scale enclosure assay of the importance of diurnal stratification, *Arch. Hydrobiol.*, 150, 491-509.
- 14) Kuo, J., T. Shibuno, Z. Kanamoto and T. Noro : *Halophila ovalis* (R. Br.) Hook. f. from a submarine hot spring in southern Japan, *Aquat. Botany*, 70, 329-335.
- 15) Katano, T., M. Fukui and Y. Watanabe : Identification of cultured and uncultured picocyanobacteria from a mesotrophic freshwater lake based on the partial sequences of 16S rDNA, *Limnology*, 2, 213-218.
- 16) Miyadai, T., S-I. Kitamura, H. Uwaoku and D. Tahara : Experimental infection of causative agent of Kuchijirosho (snout ulcer disease) derived from the tiger puffer (*Takifugu rubripes*) in several fish species, *Dis. Aquat. Org.*, 47, 193-199.
- 17) Zhang, C. and W. Jiagai : Genome structure and the p10 gene of the *Helicoverpa armigera* Nucleopolyhedrovirus, *Acta Biochim. Biophys. Sinica*, 33, 179-184.
- 18) Shen L., C. Zhang and J. Cheng : Cloning and sequencing of gene encoding hyaluronidase from the venom of *Apis cerana cerana*, *Entomol. Sinica*, 8, 353-360.
- 19) Wang F. and C. Zhang : Analysis of *Helicoverpa armigera* single nucleopolyhedrovirus immediate early 1 (ie-1) gene, *Entomol. Sinica*, 8, 323-334.
- 20) Wu, J. and C. Zhang : Sequence Analysis of the *Helicoverpa armigera* Nuclear Polyhedrosis Virus p40 Gene, *Chinese J. Virol.*, 16, 242-245.

総説等

- 1) 上田拓史 : 環境指標としてのプランクトン, 地球環境, 6, 29-37.
- 2) 中野伸一・外丸裕二・川端善一郎・鈴木 聡 : 宇和海のアコヤガイ漁場における微生物生態 : 餌微生物と病原微生物, 地球環境, 6, 39-45.

Proceedings 等

- 1) Jung, S-J., M-J. Oh, T. Date and S. Suzuki : Isolation of marine birnavirus from sea squirts *Halocynthia roretzi*, In *Biology of Ascidians* (Sawada, H., Yokosawa, H. and Lambert, C. C. eds.), Springer-Verlag Tokyo, 436-441.
- 2) Nakano, S., D. Ichinotsuka and H. Ueno : Cross check of instruments for in situ measurement of chlorophyll concentration

4. 研究成果

using a eutrophic water dominated by *Microcystis*, Workshop on Water Quality Monitoring for Lakes and Reservoirs in Developing Countries, The 9th World Lake Conference, Workshop abstract, 63-67.

環境影響評価予測分野

原著

- 1) Nagao, J. and H. Munehara: Annual reproductive cycle of the helmet crab *Telmessus cheiragonus* on the sublittoral zones in Usujiri, southern Hokkaido, Japan, *Crustacean Research*, 30, 72-81.

総説等

- 1) 井内美郎：瀬戸内海の海砂問題と砂堆の形成，*地球環境*，6 (1)，53-60.
- 2) 大森浩二：沿岸域の保全，生態系解析からのアプローチ-*地球環境*，6，47-52.

Proceedings 等

- 1) 井内美郎・岩本直哉・三井拓也・塩屋藤彦・天野敦子：海砂採取海域の地形変化，第11回環境地質学シンポジウム論文集，257-260.
- 2) 塩屋藤彦・三井拓也・岩本直哉・井内美郎：燧灘西部海域の海底断層系と完新世堆積物，第11回環境地質学シンポジウム論文集，277-282.
- 3) 天野敦子・井内美郎：海底堆積物から見た愛媛県宇和海の過去約100年間の環境変遷，第11回環境地質学シンポジウム論文集，265-270.
- 4) 岩本直哉・井内美郎・大野一郎・酒井英男：バイカル湖湖底堆積物密度から見た過去500万年間の気候変遷史，第11回環境地質学シンポジウム論文集，291-296.
- 5) 西綾乃・天野敦子・井上卓彦・大平亮・塩屋藤彦・井内美郎・徳岡隆夫：熊本県天草郡羊角湾における堆積物から見た環境変遷，第11回環境地質学シンポジウム論文集，271-276.
- 6) 大平亮・岩本直哉・三井拓也・井内美郎：愛媛県松山市沖堀江湾の底質分布，第11回環境地質学シンポジウム論文集，261-264.
- 7) 三井拓也・塩屋藤彦・岩本直哉・井内美郎：愛媛県中島周辺海域の音波探査から見た過去約2万年間の古環境変遷，第11回環境地質学シンポジウム論文集，251-256.

4. 3 学内，所内誌等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆・速水祐一・高橋嘉秀：瀬戸内海西部の海洋環境とその長期変動に関する研究Ⅱ，愛媛大学地域共同研究センター研究成果報告書，5，111-124.

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介：3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology 参加報告，CMES ニュース，4，5-6.
- 2) 田辺信介・酒井大樹・森実康男：ブチルスズ化合物による宇和海沿岸堆積物の汚染，愛媛大学地域共同研究センター研究成果報告書，5，125-45.
- 3) 岩田久人：Dioxin 2001 参加報告，CMES ニュース，5，6-7.

生態系解析分野

- 1) 金本自由生：石垣島名蔵湾の海草藻場における海草の分布パターンと季節変動，*Otsuchi Marine Science*，26，28-39
- 2) Japer Sidik, B., Z. Muta Harah, Z. Kanamoto and A. Mohd.: Pauzi Seagrass communities of the Straits of Malacca, *Aquatic resource and environmental studies of the Straits of Malacca, Current research and reviews. Malacca Straits Research and Development Centre*, 81-98.

4. 4 一般誌等

生態環境計測分野

- 1) 石 弘之・田辺信介・立松和平・風呂田利夫・須賀潮美：パネルディスカッション「海を科学する」，せんきょう，船協月報，3月号，488，16-24（招待原稿）。
- 2) 田辺信介：環境保全型養殖漁業に商機（勝機）あり，伊予銀地域経済研究センター（IRC）調査月報，158，30-36（招待原稿）。
- 3) 田辺信介：環境ホルモンによる生体の汚染—海棲哺乳動物を中心に—，大分県薬剤師会会報，32（2），6-16（招待原稿）。

生態系解析分野

- 1) 上田拓史：内湾性カイアシ類の生態，月刊海洋，号外27，96-104。

4. 5 報告書等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆：第2章1（1）クロロフィル分布調査，宇和海漁場環境調査検討報告書，宇和海漁場環境調査検討会，7-51。
- 2) 武岡英隆：第2章1（2）栄養塩供給機構調査，宇和海漁場環境調査検討報告書，宇和海漁場環境調査検討会，53-88。
- 3) 武岡英隆：第3章漁場環境の総合的な評価，宇和海漁場環境調査検討報告書，宇和海漁場環境調査検討会，407-418（分担執筆）。
- 4) 武岡英隆：第4章宇和海漁場の振興に向けて，宇和海漁場環境調査検討報告書，宇和海漁場環境調査検討会，419-434（分担執筆）。
- 5) 郭新宇・升本順夫・山形俊男：モデル解像度と黒潮の再現性，縁辺海の海況予報のための海洋環境モニタリングの研究，中間報告書（II），119-126。
- 6) 兼田淳史：豊後水道における黒潮の変動に対する応答，13年度報告書，九州大学応用力学研究所，83。
- 7) 速水祐一：琵琶湖北湖における物質循環モデル構築の試み，平成12年度科学研究費補助金特定領域研究（B）「陸域生態系の地球環境変化に対する応答の研究」成果報告書，205-208。

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介：環境化学物質をトレーサーとしたミンククジラの生態解明手法の開発，平成10年度～平成12年度化学研究費補助金〔基盤研究（B）（2）〕研究成果報告書（課題番号10559015），3月，75。
- 2) 田辺信介：指標生物による有機塩素化合物の蓄積特性，平成12年度指標生物による有害物質海洋汚染の監視手法の高度化，環境庁一括計上・国立公害防止等試験研究，推進評価会議資料，13-25。
- 3) 田辺信介：5. 5. 2人工有機化合物，地球温暖化の日本への影響2001，地球温暖化問題検討委員会温暖化環境評価ワーキンググループ，3月，277-279。
- 4) 竹内一郎・宮崎信之・田辺信介：海洋汚染防止モニタリング，平成12年度海洋環境国際共同研究事業実績報告書，東京大学海洋研究所，25-26。
- 5) 宮崎信之・竹内一郎・田辺信介：大槌湾における有機スズ化合物のモニタリング，平成12年度海洋環境国際共同研究事業実績報告書，東京大学海洋研究所，27-33。
- 6) 宮崎信之・田辺信介：海洋汚染の国際共同研究，平成12年度海洋環境国際共同研究事業実績報告書，東京大学海洋研究所，34-36。
- 7) 田辺信介：鰭脚類および鯨類における有機塩素化合物の蓄積変動，平成12年度内分泌攪乱物質問題に関する日英共同研究報告書，3月，19-46。
- 8) 田辺信介・久保田彰：PCBs，ダイオキシン類（ポリ塩化ジベンゾ-p-ダイオキシン，ポリ塩化ジベンゾフラン，

4. 研究成果

- コプラナ PCB) による宇和海沿岸堆積物の汚染, 宇和海漁場環境調査検討報告書, 宇和海漁場環境調査検討会, 3月, 243-279.
- 9) 田辺信介・酒井大樹: プチルスズ化合物による宇和海沿岸堆積物および養殖魚介類の汚染, 宇和海漁場環境調査検討報告書, 宇和海漁場環境調査検討会, 3月, 280-310.
- 10) Tanabe, S.: Contamination and toxic effects of endocrine disrupting chemicals in wildlife, UK-Japan Research Cooperation on Endocrine Disrupting Chemicals, Ministry of the Environment of Japan, March, 18-41 (招待原稿).
- 11) 田辺信介・高橋 真・中田晴彦: 海棲哺乳動物およびヒトにおけるプチルスズ化合物と PCBs の免疫細胞毒性, 環境中複合化学物質による次世代影響リスクの評価とリスク対応支援に関する研究, 環境省未来環境創造型基礎研究推進制度平成12年度報告書, 3月, 251-266.
- 12) 田辺信介・国末達也: ヒトおよび野生生物における有機塩素化合物の体内負荷量, 環境中複合化学物質による次世代影響リスクの評価とリスク対応支援に関する研究, 環境省未来環境創造型基礎研究推進制度平成12年度報告書, 3月, 267-274.
- 13) 田辺信介: POPs の生態系に及ぼす影響, 残留性有機汚染物質 (POPs) による海洋汚染防止対策調査, 平成12年度環境庁請負業務結果報告書, 3月, 2-17.
- 14) 田辺信介・岩田久人: 薬物代謝酵素誘導を用いたバイオアッセイの環境研究への適用, 平成12年度革新的技術開発研究推進補助金研究成果報告書「ダイオキシン類・PCB の分解処理とバイオアッセイモニタリング」(課題番号12321), 4月, 27-57.
- 15) 田辺信介: 途上国都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響, 平成12年度厚生科学研究費補助金(生活安全総合研究事業) 研究成果報告書「非制御燃焼過程におけるダイオキシン類等の残留性有機汚染物質の生成と挙動 (H12-生活-019), 4月, 4-37.
- 16) Tanabe, S.: Contamination and toxic effects of persistent endocrine disrupters in wildlife and humans, UK-Japan Research Workshop on Endocrine Disrupters in the Aquatic Environment, Plymouth Environmental Research Center, UK, 21.
- 17) 田辺信介: 長寿命生物における内分泌攪乱の実態の解明-有機塩素化合物による鳥類の汚染および影響の実態解明, 科学技術振興調整費成果報告書「内分泌攪乱物質による生殖への影響とその作用機構に関する研究」, 文部科学省研究振興局, 7月, 469-486.

生態系解析分野

- 1) 上田拓史: 宇和海漁場環境調査検討報告書, 2- (2) 動物プランクトン調査, 宇和海漁場環境調査検討会, 121-177.
- 2) 上田拓史: 宇和海漁場環境調査のうち動物プランクトン調査, 愛媛大学地域共同研究センター研究成果報告書, 5, 46-49.
- 3) 中野伸一・生地暢・北村真一・宮垣満・西部裕一郎・廣瀬弥保・鎌田信一郎・橋本朋樹・堀田徳美・市野塚大介・上野裕之: 平成12年度内海村沿岸海域環境調査-物理化学的環境要因とプランクトン群集現存量の季節変化, 愛媛県内海村.
- 4) 金本自由生: 稚仔魚調査報告書, 西日本環境技術センター報告書, 6.
- 5) 金本自由生: 付着生物調査報告書, 西日本環境技術センター報告書, 11.
- 6) 金本自由生: 付着板に着生した生物の調査報告書, 西日本環境技術センター報告書, 19.

環境影響評価予測分野

- 1) 星加 章・三島康史・井内美郎・高杉由夫・橋本英資・長尾正之・村上和男・田辺弘道・湯浅一郎・高橋 暁: 瀬戸内海の高砂利資源採取による広域的環境影響評価と管理に関する研究, 環境省報告書, 52-1-52-21.
- 2) 加 三千宣・吉川周作・井内美郎: 琵琶湖湖底コア, 年間珪藻殻堆積量から見た過去14万年前の日本の夏季降水量変動と東アジアモンスーン, 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書 (XIII), 61-70.
- 3) 井内美郎: 3- (1) 底泥堆積速度調査, 宇和海漁場環境調査検討報告書, 343-351.
- 4) 井内美郎: 3- (2) 底泥化学分析調査, 宇和海漁場環境調査検討報告書, 397-405.
- 5) 井内美郎: 液状化地盤に関するジオスライサー調査, 愛媛大学芸予地震学術調査団最終報告書, 43-53.
- 6) 大森浩二: 有機物分解による CO₂ 放出量評価手法の開発, プログラム方式二酸化炭素固定化・有効利用技術開発マングローブ等熱帯沿岸生態系の修復・保全による地球温暖化ガス回収・放出抑制評価技術の開発, 平成12年度報告書, 新エネルギー産業技術総合開発機構, 157-164.

4. 6 学会発表等

環境動態解析分野

- 1) 郭新宇：トレーサー実験からみた対馬暖流の起源，日本海沿岸域における海況モニタリングと波浪計測に関する研究集会，九州大学応用力学研究所，2月。
- 2) 郭新宇・升本順夫・山形俊男・宮澤泰正・福田久：モデル解像度と黒潮の再現性，2001年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，162。
- 3) 兼田淳史・武岡英隆・高田淳史：豊後水道底層から佐伯湾への低温水の供給，2001年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，153。
- 4) 速水祐一・秋山洋司・菊池隆展・高橋嘉秀・武岡英隆：伊予灘における栄養塩の分布と経年変動，2001年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，104。
- 5) 竹内孝俊・速水祐一・郭新宇・菊池隆展・武岡英隆：成層期における周防灘の海洋構造と物質輸送，2001年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，155。
- 6) Rolando S. Balotro, Atsuhiko Isobe, Manabu Shimizu, Atsushi Kaneda, Takatoshi Takeuchi, Hidetaka Takeoka: Circulation patterns in Suo Nada during spring and summer season, 2001年度日本学会春季大会講演要旨，104。
- 7) 武岡英隆・速水祐一・森本昭彦・野村具史：栄養塩バイパスによる宇和海沿岸域への栄養塩の供給，2001年度日本学会秋季大会講演要旨，125。
- 8) 原井光一郎・郭新宇・武岡英隆：瀬戸内海の潮汐・潮流モデル（II），2001年度日本海洋学会秋季大会講演要旨，200。
- 9) 国友伸靖・兼田淳史・市川香・武岡英隆・小泉喜嗣：西日本太平洋岸の水位変動と黒潮流量の関係，2001年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，51。
- 10) 朱 小華・郭 新宇・朴 在勲・韓 仁盛・金子 新・市川 洋・山形俊男：GEM 法による流速推定精度の評価，2001年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，36。
- 11) 郭 新宇・山形俊男：対馬暖流の起源に関するトレーサー実験，シンポジウム「縁辺海モニタリング」，東京大学海洋研究所，11月。
- 12) 郭 新宇・武岡英隆：燧灘の密度流に関する数値実験，瀬戸内海の低次栄養段階をめぐる物質循環に関する研究集会，九州大学応用力学研究所，12月。
- 13) Hayami, Y.: Physical process in Lake Hovsgol. Hovsgol Symposium Studies on Lake Khubsugol? Recent Field Activities?, Ulaanbaatar, Mongolia.
- 14) Hayami, Y., Kaneda, A., Kohama, T., Matsushita, T., Koizumi, T., Nishio, Y., Guo, X., and Takeoka, H.: Continuous monitoring system of coastal environment in the Bungo Channel. The 5th International Conference on the Environmental Management of Enclosed Coastal Seas, Kobe, Japan, November, Abstract, 19.
- 15) 西尾芳高・速水祐一・兼田淳史・松下太郎・古泉統義・紀本岳志・木下勝元・武岡英隆：佐多岬における栄養塩自動連続観測（II），2001年度日本学会秋季大会講演要旨，269。
- 16) 古泉統義・兼田淳史・速水祐一・松下太郎・西尾芳高・紀本岳志・木下勝元・世登順三・清田浩二・武岡英隆：佐多岬における栄養塩自動連続観測（III），2001年度日本学会秋季大会講演要旨，270。
- 17) 武岡英隆：瀬戸内海の栄養物質の起源について，シンポジウム「森と海の相互作用」，東京大学海洋研究所，10月。
- 18) 武岡英隆：瀬戸内海の栄養物質の起源について，九州大学応用力学研究所共同研究会—瀬戸内海の底次栄養段階をめぐる物質循環，12月。

生態環境計測分野

- 1) Tanabe, S.: Contamination of endocrine disrupting chemicals in marine mammals, 2nd International Symposium on Fisheries Resource Management in Troubled Waters of the North and the South, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan, January, Abstracts, 16 (招待講演)。
- 2) Tanabe, S.: Contamination and toxic effects of endocrine disrupting chemicals in wildlife, Provisional Workshop for UK-Japan Co-operation on Research on Endocrine Disrupters in the Aquatic Environment, Plymouth, UK, January (招待講演)。

4. 研究成果

- 3) Iwata, H., Fujii, N., Kunisue, T., Watanabe, M., Tanaka, H., Ogi, H., Shibata, Y. and Tanabe, S.: Accumulation of persistent organic pollutants, and induction of cytochrome P-450 in seabirds, International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs) - The 17th "Global Environment Tsukuba", Tsukuba, February, Abstracts, 9-10 (招待講演).
- 4) Agusa, T., Kunito, T., Monirith, I., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Contamination of trace elements in dumping sites of municipal wastes in Phnom Penh, Cambodia. International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs) - The 17th "Global Environment Tsukuba", Tsukuba, February, Abstracts, 19.
- 5) Kubota, R., Kunito, T. and Tanabe, S.: Arsenic speciation in liver tissues of Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*) and short-finned pilot whale (*Globicephala maacrorhynchus*), International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs) - The 17th "Global Environment Tsukuba", Tsukuba, February, Abstracts, 21.
- 6) Kunito, T., Watanabe, I., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Trace elements in skin of southern minke whales, International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs) - The 17th "Global Environment Tsukuba", Tsukuba, February, Abstracts, 23.
- 7) Takahashi, S., Sudaryanto, A., Monirith, I., Shinomiya, M., Hong, H. K., Kan-atireklap, S., Prudente, M., Ismail, A., Min, B. Y., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Butyltin pollution in Asian coastal waters, results from the Asia-Pacific Mussel Watch Project. International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs) - The 17th "Global Environment Tsukuba", Tsukuba, February, Abstracts, 27.
- 8) Ueno, D., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Organochlorine and butyltin residues in skipjack tuna from offshore waters of Asian countries and open seas, International Workshop on Marine Pollution by Persistent Organic Pollutants (POPs) - The 17th "Global Environment Tsukuba", Tsukuba, February, Abstracts, 30.
- 9) Tanabe, S.: Contamination and toxic effects of endocrine disrupters in wildlife, The 45th International NIBB Conference - Recent Progress in Endocrine Disruptor Research, Okazaki, March, Abstracts, 51 (招待講演).
- 10) 伊藤由紀枝・高橋 真・Le, L. T. H.・田辺信介・馬場徳寿・宮崎信之・藤瀬良弘：三陸沖および北大平洋外洋域で捕獲した鯨類と鯖脚類におけるブチルスズ化合物の経年変動，平成12年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会，松山市，3月，講演要旨集，1-2.
- 11) 新美聡子・渡部真文・中田晴彦・田辺信介・天野雅男・宮崎信之・藤瀬良弘・Petrov, E.：鯖脚類および鯨類における有機塩素化合物の経年変動，平成12年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会，松山市，3月，講演要旨集，3-4.
- 12) Minh, T. B., Watanabe, M., Tanabe, S., Yamada, T., Hata, J. and Watanabe, S.: Contamination and specific accumulation of persistent organochlorines in Japanese humans,平成12年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会，松山市，3月，講演要旨集，5.
- 13) Iwata, H., Fujii, S. and Tanabe, S.: Accumulation of dioxins and induction of cytochrome P450 in higher trophic marine species,平成12年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会，松山市，3月，講演要旨集，6.
- 14) 田辺信介：生物蓄積性内分泌攪乱物質による海洋汚染と生物影響，海上保安庁水路部セミナー，東京，3月（招待講演）.
- 15) 田辺信介：内分泌攪乱物質による野生生物の汚染と影響，第48回日本生態学会シンポジウム，熊本市，3月，講演要旨集，11（招待講演）.
- 16) 岩田久人・田辺信介：薬物代謝酵素誘導を用いたバイオアッセイの環境研究への適用，第3回文部科学省革新的技術開発研究推進「ダイオキシン類分解モニタリング研究」研究会，京都市，3月.
- 17) 岩田久人・田辺信介：有機塩素化合物による鳥類の汚染および影響の実態解明，科学技術庁振興調整費「内分泌攪乱物質による生殖への影響とその作用機構に関する研究」全体会議，3月，つくば市.
- 18) 梶原夏子・渡部真文・田辺信介・Wilson, S.・Eybatov, T.・Aubray, D.：ウイルス感染により大量死したカスピカイアザラシの有機塩素化合物汚染，平成13年度日本水産学会春期大会，藤沢市，4月，講演要旨集，149.
- 19) 大地まどか・竹内一郎・田辺信介・宮崎信之：幼体期以降のトリブチルスズ曝露がホソワレカラ（甲殻綱端脚目）に及ぼす慢性毒性影響，平成13年度日本水産学会春期大会，藤沢市，4月，講演要旨集，151.
- 20) Tanabe, S.: Global contamination by persistent organochlorines and their ecotoxicological impact on marine mammals, Lectures in Japan Center for Michigan State university "Japanese Environmental issues from Meiji to Heisei", Hikone, Japan, April (招待講演).
- 21) Tanabe, S.: Butyltin pollution in marine mammals, Lectures in Japan Center for Michigan State university "Japanese Envi-

- ronmental issues from Meiji to Heisei", Hikone, Japan, April (招待講演).
- 22) 渡邊 泉・宝来佐和子・久野勝治・國頭 恭・田辺信介・浜崎健児：神奈川県産アメリカカブトエビの微量元素蓄積，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，176-177.
- 23) 宝来佐和子・渡邊 泉・久野勝治・國頭 恭・田辺信介・岩永良和・木村 健・平岡 孝：羽田で捕獲されたチョウゲンボウの微量元素蓄積，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，178-179.
- 24) 久保田領志・國頭 恭・田辺信介：海棲高等動物におけるヒ素の化学形態，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，180-181.
- 25) 酒井大樹・笠井梨恵・高橋 真・田辺信介：ブチルスズ化合物による宇和海沿岸堆積物および養殖魚介類の汚染，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，182-183.
- 26) 久保田彰・染矢雅之・渡部真文・田辺信介 (2001)：PCBs およびダイオキシン類 (PCDDs, PCDFs, コプラナ PCBs) による宇和海沿岸堆積物の汚染，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，236-237.
- 27) 渡部真文・國末達也・難波真理子・田辺信介・Subramanian, A.：インド都市ゴミ集積場の土壌および生物相におけるダイオキシン類 (PCDDs, PCDFs, PCBs) の汚染とその残留特性，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，292-293.
- 28) 梶原夏子・渡部真文・田辺信介・Wilson, S.・Eybatov, T.・Aubrey, D.：ウイルス感染により大量死したカスピカイアザラシのダイオキシン類汚染，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，294-295.
- 29) 國末達也・渡部真文・Monirith, I.・田辺信介：ダイオキシン類によるアジア途上国のヒト母乳汚染，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，300-301.
- 30) 林 沙織・高橋 真・笠井梨恵・田辺信介・窪寺恒巳：有機塩素および有機スズ化合物による土佐湾深海生物の汚染，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，346-347.
- 31) 松岡砂希子・梶原夏子・渡部真文・Fillmann, G.・田辺信介：ブラジル沿岸に座礁した小型歯鯨類の有機塩素化合物汚染，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，348-349.
- 32) 染矢雅之・渡部真文・Minh, T. B.・Monirith, I.・田辺信介・豊田卓枝・黒田優子・Subramanian, A.・Tana, T. S.・Prudente, M.・Viet, P. H.：アジア地域における有機塩素化合物のヒト母乳汚染，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，352-353.
- 33) 星野広志・藤田正一・櫻井泰憲・数坂昭夫・石塚真由美・田辺信介・小城春雄：北海道沿岸に來遊するトド (*Eumetopias jubatus*) の有機塩素化合物の蓄積，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，354-355.
- 34) 藤井信洋・岩田久人・國末達也・渡部真文・田辺信介・田中博之・小城春雄・柴田康行：魚食性鳥類における有機塩素化合物の蓄積・代謝とチトクローム P450の誘導，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，360-361.
- 35) 戎田健一・國頭 恭・久保田領志・田辺信介：ワモンアザラシのヒ素蓄積特性，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，402-403.
- 36) 藤原純子・國頭 恭・久保田領志・田辺信介：クロアシアホウドリにおけるヒ素の化学形態および細胞内分布，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，404-405.
- 37) 阿草哲郎・國頭 恭・Monirith, I.・Tana, T. S.・田辺信介：アジア途上国のゴミ集積場における微量元素汚染—カンボジアプノンペン市における調査—，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，406-407.
- 38) 中島悦子・渡部真文・Monirith, I.・田辺信介・Tana, T. S.：カンボジアの都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類の土壌汚染，第10回環境化学討論会，松山市，5月，講演要旨集，464-465.
- 39) 田辺信介：途上国の廃棄物投棄と化学物質問題，物質循環・廃棄物と化学物質，第10回環境化学討論会ナイトミーティング，松山市，5月.
- 40) 國頭 恭：東南アジアの都市ゴミ集積場における重金属汚染，重金属，第10回環境化学討論会ナイトミーティング，松山市，5月.
- 41) Tanabe, S.: Contamination and toxic effects of persistent endocrine disrupters in marine mammals and birds, 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstract, K-7 (招待講演).
- 42) Anan, Y., Kunito, T., Sakai, H. and Tanabe, S.: Subcellular distribution of trace elements in the liver of sea turtles, 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstract, O-37.
- 43) Minh, T. B., Tanabe, S., Connell, D. W., Wong, B. F. F. and Lam, P. K. S.: Risk assessment of metals and trace organics to birds in a Hong Kong Ramsar site, 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June,

4. 研究成果

- Abstract, O-57.
- 44) Yang, J., Kunito, T., Tanabe, S., Amano, M. and Miyazaki, N.: Trace elements in skin of Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*) from northern waters of Japan, an evaluation for utilization as non-lethal tracers. 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstract, O-64.
- 45) Ueno, D., Tanabe, S., Ikeda, K., Koyama, J. and Yamada, H.: Specific accumulation of persistent organochlorines in bluefin tuna collected from inshore waters of Japan, 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstract, O-68.
- 46) Kubota, R., Kunito, T. and Tanabe, S.: Chemical speciation of arsenic in livers of higher trophic marine animals. 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstract, O-85.
- 47) Brito, A. P. X., Ueno, D., Takahashi, S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Organochlorine and butyltin residues in deep-sea organisms collected from the western North Pacific, off Tohoku, Japan. 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstract, O-90.
- 48) Niimi, S., Watanabe, M., Nakata, H., Tanabe, S., Amano, M., Miyazaki, N. and Petrov, E. A.: Temporal trends of organochlorine residue levels in seals collected from Russia, 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstract, P-52.
- 49) 田辺信介: 野生生物における内分泌攪乱物質の汚染とそのリスク評価, 文部科学省特定領域研究 (A) 「内分泌攪乱物質の環境リスク」 A02班班会議, 松山市, 7月, 資料集, 9.
- 50) Takeuchi, I., Ohji, M., Takahashi, S., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Butyltin residues along the Japanese coastal waters detected by *Caprella* spp. (Amphipoda: Caprellidea), Fifth International Crustacean Congress, Melbourne, Australia, July, Abstract, 138.
- 51) 阿南弥寿美・國頭 恭・池本徳孝・田辺信介: 海棲高等動物の肝細胞内における微量元素の分布, 第12回日本微量元素学会, 東京, 7月, 講演プログラム・抄録集, 163.
- 52) Kim, E. Y., Hahn, E. M., Iwata, H., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Comparison of dioxin susceptibility between seals inhabiting freshwater and marine environment: initial characterization of Ah receptors in Baikal seals (*Phoca sibirica*) and harbor seals (*P. vitulina*), 11th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms, Plymouth, UK, July, Abstracts, 1099.
- 53) Kim, E. Y. and Hahn, E. M.: Cloning and characterization of an Ah receptor cDNA as a biomarker of dioxin in harbor seals (*Phoca vitulina*), 11th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms, Plymouth, UK, July, Abstracts, 1100.
- 54) Iwata, H. and Stegeman, J. J.: Species-specific responses of constitutively active receptor (CAR)-CYP2B coupling, lack of CYP2B inducer-responsive nuclear translocation of CAR in marine teleost, scup (*Stenotomus chrysops*), 11th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms, Plymouth, UK, July, Abstracts, 1178.
- 55) Iwata, H., Fujii, N., Kunisue, T., Watanabe, M., Tanaka, H., Ogi, H., Shibata, Y. and Tanabe, S.: Accumulation of coplanar PCB congeners, and induction of cytochrome P450 in seabirds from less polluted areas, Eleventh International Symposium on Pollution Responses in Marine Organisms, Plymouth, UK, July, Abstracts, 1111.
- 56) 酒井大樹・笠井梨恵・高橋 真・田辺信介: プチルスズ化合物による宇和海沿岸堆積物および養殖魚介類の汚染, 第1回瀬戸内海環境科学研究交流会, 松山, 7月, 講演要旨集, 12-13.
- 57) 久保田領志・國頭 恭・田辺信介: 海棲高等動物におけるヒ素の化学形態, 第1回瀬戸内海環境科学研究交流会, 松山, 7月, 講演要旨集, 14-15.
- 58) 久保田 彰・染矢雅之・渡部真文・田辺信介: PCBs およびダイオキシン類 (PCDDs, PCDFs, コプラナ PCBs) による宇和海沿岸堆積物の汚染, 第1回瀬戸内海環境科学研究交流会, 松山, 7月, 講演要旨集, 16-17.
- 59) 岩田久人・金 恩英・田辺信介: 水圏生物への環境汚染物質の影響とその評価, 日本環境毒性学会生態影響と評価に関するセミナー2001, 東京, 7月, 講演要旨集, 11-17 (招待講演).
- 60) 岩田久人・田辺信介: 野生動物を用いたマイクロアレイ作製の現状報告, 科学研究費特定領域研究「内分泌攪乱物質の環境リスク」マイクロアレイ研究ワークショップ, 大阪, 7月.
- 61) 岡島由佳・渡部真文・岩田久人・田辺信介・天野雅男・宮崎信之: バイカルアザラシのダイオキシン類汚染と肝チトクローム P-450の特性, 第7回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 東京, 8月, 講演要旨集, 4-5.

- 62) Okajima, Y., Iwata, H., Tanabe, S., Amano, M. and Miyazaki, N.: Induction of hepatic cytochrome P450 enzyme activity by coplanar PCBs in Baikal seal (*Phoca sibirica*), 21st International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Gyeongju, Korea, Sept., Organohalogen Compounds, 52, 116-117.
- 63) Kim, E. Y., Hahn, E. M., Iwata, H., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Molecular characterization of an aryl hydrocarbon receptor in Baikal seals (*Phoca sibirica*), 21st International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Gyeongju, Korea, Sept., Organohalogen Compounds, 52, 128-129.
- 64) Kunisue, T., Watanabe, M., Monirith, I., Subramanian, An., Tana, T. S., Prudente, M. and Tanabe, S.: Contamination by dioxin related compounds in human breast milk collected from Asian developing countries, 21st International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Gyeongju, Korea, Sept., Organohalogen Compounds, 52, 282-283.
- 65) Iwata, H., Fujii, N., Kunisue, T., Watanabe, M., Tanabe, S., Tanaka, H., Ogi, H. and Shibata, Y.: Accumulation and metabolism of coplanar PCB congeners and induction of cytochrome P450 in black-tailed gull and black-footed albatross, 21st International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Gyeongju, Korea, Sept., Organohalogen Compounds, Summary & Supplement, 61-62.
- 66) 岩田久人・田辺信介：薬物代謝酵素誘導を用いたバイオアッセイの環境研究への適用：バイカルアザラシを例に，平成13年度第1回文部科学省革新的技術開発研究推進「ダイオキシン類分解モニタリング研究」研究会，京都市，9月。
- 67) Tanabe, S.: Global contamination and toxic effects of bioaccumulative endocrine disrupters in humans and wildlife, The 3rd Annual Symposium "e. hormone 2001", New Orleans, USA, Oct., Abstracts, Session III, 1-19 (招待講演).
- 68) Kunito, T., Ikemoto, T. and Tanabe, S.: Mercury in marine mammals and seabirds, tissue and subcellular distribution and interaction with selenium, 6th International Conference on Mercury as a Global Pollutant. Minamata, Japan, Oct., Abstract, 13.
- 69) Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Comparative study on trace elements accumulation in biota, with special emphasis in birds and cetaceans, 6th International Conference on Mercury as a Global Pollutant. Minamata, Japan, Oct., Abstract, 185.
- 70) Ikemoto, T., Kunito, T., Tanabe, S. and Baba, N.: Subcellular distribution of metals (Hg, Se, Ag, Cd and Cu) in liver of marine mammals and seabirds, 6th International Conference on Mercury as a Global Pollutant. Minamata, Japan, Oct., Abstract, 186.
- 71) Ikemoto, T., Kunito, T., Watanabe, I., Tanabe, S., Miyazaki, N. and Baba, N.: Comparative study on mercury accumulation in Baikal seal, Caspian seal and northern fur seal, 6th International Conference on Mercury as a Global Pollutant, Minamata, Japan, Oct, Abstract, 186.
- 72) Minh, T. B., Prudente, M. S., Watanabe, M., Tanabe, S., Miyazaki, N., Jefferson, T. A. and Subramanian, A., Contamination by persistent chlorinated endocrine disrupters in cetaceans from the North Pacific and Asian coastal waters, 3rd UNU-ORI Joint International Workshop for Marine Environment, Otsuchi, Iwate, Oct, Abstracts, 23.
- 73) Yang, J., Kunito, T., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Accumulation of mercury, cadmium and lead in tissues of Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*) off Sanriku coast in Japan, 3rd UNU-ORI Joint International Workshop for Marine Environment, Otsuchi, Iwate, Oct, Abstracts, 34.
- 74) Yang, J., Kunito, T., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Mercury in tissues of Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*) from Sanriku coast of Japan, 70th Anniversary of the Japanese Society of Fisheries Science - International Commemorative Symposium, Yokohama, Oct., Abstracts, 81.
- 75) Brito, A. P. X., Takahashi, S., Ueno, D., Iwata, H. and Tanabe, S.: Contamination of organochlorine and butyltin compounds in deep-sea organisms from western North Pacific Ocean, off-Tohoku, Japan, SETAC Asia Pacific Symposium 2001, Kanazawa, Nov., Abstracts, 53.
- 76) Kunisue, T., Watanabe, M., Someya, M., Monirith, I., Subramanian, A., Tana, T. S., Prudente, M. and Tanabe, S.: Contamination status and accumulation features of PCDDs, PCDFs, PCBs and organochlorine insecticides in human breast milk collected from Asian developing countries, SETAC Asia Pacific Symposium 2001, Kanazawa, Nov., Abstracts, 60.
- 77) Monirith, I., Kunisue, T., Iwata, H., Tanabe, S. and Tana, T. S.: Accumulation of persistent organochlorines in resident and migratory birds from Cambodia, SETAC Asia Pacific Symposium 2001, Kanazawa, Nov., Abstracts, 75.
- 78) Minh, T. B., Kunisue, T., Watanabe, M., Fukuda, K., Tanabe, S. and Titenko, A. M.: Persistent organochlorine residues in birds from Lake Baikal, Russia and the role of South Asian region as a pollution source in wintering migrants, SETAC Asia

4. 研究成果

- Pacific Symposium 2001, Kanazawa, Nov., Abstracts, 76.
- 79) Agusa, T., Kunito, T., Monirith, I., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Trace element contamination in human samples from dumping site of municipal wastes in Phnom Penh, Cambodia. SETAC Asia Pacific Symposium 2001, Kanazawa, Nov., Abstracts, 129.
- 80) Tanabe, S.: Environmental contamination of endocrine disrupters in Asia. International Symposium for Global Citizens in Ehime -Asian Environmental Problems-, Matsuyama, Nov., Abstracts, 17-18.
- 81) Tanabe, S., Minh, T. B., Hue, N. D. and Qui, V.: Persistent organochlorine residues and their bioaccumulation profiles in resident and migratory birds from north Vietnam, General Seminar on Environmental Science and Technology Issues Related to urban and Coastal Zone development, Osaka, Nov., Abstracts, 46-66.
- 82) Tanabe, S.: Contamination and toxic effects of persistent organic pollutants in wildlife and humans from Asia, COE International Seminar "Changing People-Environmental Interactions in Contemporary Asia, An Area Study Approach", Kyoto University, Kyoto, Nov., Program & Abstracts, 35 (招待講演).
- 83) Minh, T. B., Watanabe, M., Tanabe, S., Nakata, H., Prudente, M., Jefferson, T., Subramanian, A., Yamada, T., Hata, J. and Watanabe, S.: Persistent organochlorine contaminants in Asia-Pacific region, bioaccumulation features and possible toxic impacts in marine mammals and humans, SETAC 22nd Annual Meeting, Baltimore, USA, Nov., Abstracts, 106.
- 84) Kannan, K., Kajiwara, N., Tanabe, S. and Giesy, J.: Organochlorines and butyltins in blubber and livers of stranded California sea lions, elephant seals and harbor seals from coastal California, USA, SETAC 22nd Annual Meeting, Baltimore, USA, Nov., Abstracts, 171.
- 85) Watanabe, M., Minh, T. B., Nakanishi, S., Nakai, M., Kajiwara, N., Iwata, H. and Tanabe, S.: Contamination by tris(4-chlorophenyl)methane and methanol in marine mammals, SETAC 22nd Annual Meeting, Baltimore, USA, Nov., Abstracts, 171-172.
- 86) Takahashi, S., Sudaryanto, A., Hong, H., Monirith, I., Tanabe, S., Ismail, A., Min, B., Subramanian, A. N., Zheng, J. and Hue, N. D.: Asia-Pacific Mussel Watch Project: butyltin contamination in coastal waters of Asian developing countries, SETAC 22nd Annual Meeting, Baltimore, USA, Nov., Abstracts, 173.
- 87) Watanabe, M., Nakashima, E., Kunisue, T., Monirith, I., Tanabe, S., Viet, P. H., Tana, T. S., Prudente, M. S. and Tanabe, S.: Contamination by PCDD/DFs and PCBs in soil and biological samples from dumping sites of municipal wastes in tropical Asia, SETAC 22nd Annual Meeting, Baltimore, USA, Nov., Abstracts, 285.
- 88) Kajiwara, N., Niimi, S., Watanabe, M., Ito, Y., Takahashi, S., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Organochlorine and organotin compounds in mass stranded Caspian seals in 2000, SETAC 22nd Annual Meeting, Baltimore, USA, Nov., Abstracts, 356.
- 89) 竹内一郎・高橋 真・田辺信介・宮崎信之: Caprella watch (ワレカラウオッチ) -ワレカラ類を用いた有機スズ化合物汚染マップの作成-, 2001年度日本甲殻類学会大会, 11月, 東京, 講演要旨集, 39.
- 90) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・岩田久人・田辺信介: ウミガメ類におけるメタロチオネイン異性体のクローニング, メタロチオネイン2001, 11月, 仙台, 講演要旨集, 36.
- 91) 田辺信介: 環境ホルモンによる地球規模の汚染とその生物影響, 第43回エコロジー研究会講演会, 11月, 高松市, 資料集, 1-5 (招待講演).
- 92) Ebisuda, K., Kunito, T., Kubota, R. and Tanabe, S.: Arsenic concentrations and speciation in the tissues of ringed seals (*Phoca hispida*) from Pangnirtung, Canada, 10th International Symposium on Natural and Industrial Arsenic Japan, Tokyo, Nov., Abstracts, 107-108.
- 93) Kubota, R., Kunito, T., Tanabe, S., Ogi, H. and Shibata, Y.: Maternal transfer of arsenic to eggs of black-tailed gull (*Larus crassirostris*) from Rishiri Island, Japan 10th International Symposium on Natural and Industrial Arsenic Japan, Tokyo, Nov., Abstracts, 109-110.
- 94) 岩田久人: 環境ホルモンの生態毒性評価のための新手法の開発, どんな生物が敏感で, どんな生物が鈍感なのか?, 第4回愛媛大学全学シンポジウム-学術シンポジウム, 松山市, 11月.
- 95) Tanabe, S.: Environmental contamination of persistent organic pollutants (POPs) in Asia, Korea-Japan Co-operative Joint Symposium on Endocrine Disrupting Chemicals, Dec., Seoul, Korea, Abstracts, 31-47 (招待講演).
- 96) 田辺信介: 生物蓄積性内分泌攪乱物質による野生生物およびヒトの汚染と影響, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 70 (招待講演).
- 97) 渡部真文・岩田久人・田中博之・田辺信介: ダイオキシン類による北太平洋およびインド洋産アホウドリの汚染, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 64.

- 98) 岡島由佳・岩田久人・渡部真文・田辺信介・天野雅男・宮崎信之：バイカルアザラシにおけるダイオキシン類の蓄積特性と肝チトクローム P-450 の誘導, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 103.
- 99) 染矢雅之・渡部真文・国末達也・Minh, T. B.・Monirith, I.・豊田卓枝・黒田優子・Subramanian, A.・Tana, T. S.・Prudente, M.・Viet, P. H.・田辺信介：アジア途上国における有機塩素化合物のヒト母乳汚染, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 133.
- 100) Iwata, H., Watanabe, M., Kunisue, T., Fujii, N., Tanabe, S., Tanaka, H., Ogi, H. and Shibata, Y.: Accumulation of PCDDs/DFs and coplanar PCBs and induction of cytochrome P-450 in black-tailed gull and black-footed albatross, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 278.
- 101) Iwata, H., Stegeman, J. J.: Lack of responses of constitutively active receptor (CAR) and CYP2B homologues by a potent inducer, TCPOBOP in marine teleost, scup (*Stenotomus chrysops*), 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 279.
- 102) 林 沙織・金 恩英・岩田久人・田辺信介・藤瀬良弘・宮崎信之：イシイルカ (*Phocoenoides dalli*) およびミンククジラ (*Balaenoptera acutrostrata*) における AhR の cDNA クローニング, ダイオキシン感受性のバイオマーカー, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 28.
- 103) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・岩田久人・田辺信介：ウミガメ類肝臓の微量元素蓄積に関与するメタロチオネインの役割およびその異性体のクローニング, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 282.
- 104) Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S., and Miyazaki, N.: Identification of a novel constitutively active receptor (CAR) and its cDNA sequence in an aquatic mammal, Baikal seal (*Phoca sibirica*), 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 291.
- 105) 金 恩英・Hahn, M. E.・岩田久人・田辺信介・宮崎信之：アザラシ類における arylhydrocarbon レセプターの機能特性とダイオキシン感受性のバイオマーカーとしての可能性, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 292.
- 106) 村岡正義・高橋 真・田辺信介・山田 格・坂山憲史・森 千里・Zheng, J.: 血液を用いた野生動物およびヒトのブチルスズ化合物モニタリングとその母子間移行および免疫毒性に関する研究, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 413.
- 107) 村井亮太・高橋 真・田辺信介・竹内一郎：愛媛県浅海域におけるブチルスズ化合物の残留濃度-TBT 禁止後10年経た2001年の状況, 環境ホルモン学会第4回研究発表会, 12月, 筑波市, 講演要旨集, 435.
- 108) Tanabe, S.: Current strategies against environmental endocrine disrupters by the Ministry of the Environment, Government of Japan, International Symposium on Environmental Endocrine Disrupters 2001, Dec., Tsukuba, Abstracts, 14-16 (招待講演).
- 109) Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Endocrine disrupters, nuclear receptors and cytochrome P-450s in higher trophic animals, The 3rd Japan-UK Joint Workshop on Endocrine Disrupting Chemicals, Dec., Tsukuba, Abstracts, 8-9 (招待講演).
- 110) 岩田久人・金 恩英・田辺信介：薬物代謝酵素系を用いたバイオアッセイの環境研究への適用, 生物種特異的感受性の問題, 平成13年度第2回文部科学省革新的技術開発研究推進「ダイオキシン類分解モニタリング研究」研究会, 12月, 大阪市.
- 111) Tanabe, S. and Tana, T. S.: Contamination status of PCDDs, PCDFs, PCBs and organochlorine insecticides in humans breast milk and soils collected from Cambodia, Seminar on Ecotoxicology and Environmental Status in Cambodia During a Period of Critical Research within 1998-2001, Dec., Phnom Penh, Cambodia (招待講演).
- 112) Kunito, T., Agusa, T., Monirith, I., Tanabe, S. and Tana, T. S.: Contamination by trace elements in Cambodia, Seminar on Ecotoxicology and Environmental Status in Cambodia During a Period of Critical Research within 1998-2001, Dec., Phnom Penh, Cambodia (招待講演).
- 113) Monirith, I., Kunisue, T., Watanabe, M., Takahashi, S., Nakata, H., Iwata, H., Tanabe, S. and Tana, T. S.: Organochlorine contamination in mussel, fish, resident and migratory bird samples from Cambodia. Seminar on Ecotoxicology and Environmental Status in Cambodia During a Period of Critical Research within 1998-2001, Dec., Phnom Penh, Cambodia (招待講演).

生態系解析分野

- 1) 平林 淳・鈴木 聡：沿岸海水および細菌添加海水中の溶存態プロテアーゼの基質特異性，平成13年度日本海洋学会秋季大会（静岡市）講演要旨集，99.
- 2) 西井賢司・山岡倒保・酒井大樹・鈴木 聡：沿岸域からの塩化トリブチルスズ（TBTCI）分解菌の単離，平成13年度日本微生物生態学会（静岡市）講演要旨集，38.
- 3) 三吉泰之・鈴木 聡：宇和海の養殖魚およびその環境におけるテトラサイクリン耐性菌の出現率と菌叢，平成13年度日本微生物生態学会（静岡市）講演要旨集，37.
- 4) 野中里佐・鈴木 聡：ブリ腸内容物より分離した *Vibrio* sp. 由来の Mg²⁺依存性オキシテトラサイクリン耐性決定領域（Tet 34）のクローニングとその分布，日本微生物生態学会（静岡市）講演要旨集，52.
- 5) 木全則子・鈴木 聡・木暮一啓：東京湾からの *Pseudomonas aeruginosa* の分離，日本微生物生態学会（静岡市）講演要旨集，39.
- 6) Jung, S.-J., S.-C. Park, Y.-J. Kim, S. Suzuki, K. V. Rajendran and M.-J. Oh: Characterization of the birnaviruses isolated from cultured Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* in Korea, 10th International Conference of the European Association of Fish Pathologists (Dublin, UK, September) Abstract 114.
- 7) Suzuki, S. : Importance of opportunistic pathogenic birnavirus in marine environments, 70th Anniversary of the Japanese Society of Fisheries Science, International Commemorative Symposium (Yokohama, October) Abstract D-4-7.
- 8) Suzuki, S., M. Onji and J. Hirabayashi: Protein degradation in *Vibrio alginolyticus*, Food Web Dynamics and Biogeochemistry in Marine Environments (Otsu, November) Abstract 14.
- 9) Nakano, S., Y. Nishibe, P.M. Manage, M. Yokosawa, and Z. Kawabata: Trophic interactions between planktonic protists and metazoan zooplankton in a hypereutrophic pond, The 9th International Symposium on Microbial Ecology, 26-31 August, Amsterdam, The Netherlands, 283.
- 10) 外丸裕司・宇高奈美子・村部昭典・大垣直也・川端善一郎・中野伸一：愛媛県内海湾アコヤガイ養殖漁場における懸濁物のサイズ組成および植物プランクトン組成の季節変動，平成13年度日本水産学会春季大会講演要旨集，100.
- 11) 西部裕一郎・中野伸一・川端善一郎：過栄養水域の水の華形成期における従属栄養鞭毛虫 *Collodictyon triciliatum* の *Microcystis aeruginosa* に対する摂食圧の見積もり，2001年度日本陸水学会第66回大会講演要旨集，53.
- 12) 松山純也・福田美和・中野伸一：石手川における原生動物の組成・現存量と細菌摂食，2001年度日本陸水学会第66回大会講演要旨集，67.
- 13) 福田美和・芦田温子・外丸裕司・松山純也・中野伸一：河川付着微生物の現存量評価の再検討，2001年度日本陸水学会第66回大会講演要旨集，54.
- 14) 中野伸一・横澤真嗣・西部裕一郎・廣瀬弥保：松山市古池の微小動物プランクトンによる原生動物およびナノ植物プランクトンの捕食，2001年度日本陸水学会第66回大会講演要旨集，79.
- 15) 中野伸一：宇和海プランクトンの生態学的シナリオ，2001年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，126.
- 16) 廣瀬弥保・中野伸一：宇和海におけるピコ植物プランクトンの現存量と諸環境要因の鉛直分布の季節動態，2001年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，127.
- 17) 橋本朋樹・中野伸一：宇和海における植物プランクトンの生長に対する制限栄養元素，2001年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，128.
- 18) Nakano, S., D. Ichinotsuka and H. Ueno: Cross check of instruments for in situ measurement of chlorophyll concentration using a eutrophic water dominated by *Microcystis*, Workshop on Water Quality Monitoring for Lakes and Reservoirs in Developing Countries, The 9th World Lake Conference, Workshop abstract, 63-67.
- 19) 植木昌也・中野伸一・川端善一郎：酸性化攪乱後の pH 回復と藻類の種多様性との関係，第49回日本生態学会大会講演要旨集，169.
- 20) 中野伸一：微生物ループの研究には夢がいっぱい：湖沼・海洋から河川の超マイクロハビタットまで，第49回日本生態学会大会講演要旨集，97.
- 21) 植木昌也・中野伸一・川端善一郎：酸性化攪乱後の pH 回復と藻類の種多様性との関係，第49回日本生態学会大会講演要旨集，169.

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎・柳澤 暁・塩屋藤彦・岩本直哉・三井拓也：愛媛県中島東側海域における底質分布とその形成メカニズム，堆積学研究会2001年春季研究集会，堆積学研究会。
- 2) 天野敦子・井内美郎：海底堆積物から見た宇和海の過去約100年間の環境変遷堆積学研究会2001年春季研究集会，堆積学研究会。
- 3) 井上卓彦・井内美郎：日野川一弓ヶ浜砂州一美保湾における砕屑物の移動と堆積，堆積学研究会2001年春季研究集会，堆積学研究会。
- 4) 井内美郎・奈良正和・榊原正幸・岩本直哉・天野敦子・井上卓彦・大平 亮・風岡 修：芸予地震による愛媛県下の液状化とその要因，地球惑星科学関連学会2001年合同大会，地球惑星科学関連学会。
- 5) 井内美郎・奈良正和・榊原正幸・井上卓彦・岩本直哉・大平 亮・風岡 修：愛媛県東予市の液状化現象の地質学的背景，日本地質学会第108年学術大会，日本地質学会。
- 6) 井上卓彦・井内美郎・奈良正和・榊原正幸・風岡 修：芸予地震による愛媛県下の液状化とその要因，日本地質学会第108年学術大会，日本地質学会。
- 7) 塩屋藤彦・井内美郎・三井拓也・岩本直哉：燧灘西部海域の海底断層と砂堆の形状について（バブルパルサー記録より），日本地質学会第108年学術大会，日本地質学会。
- 8) 天野敦子・井内美郎・忽那貞載・柳澤 暁：四国における河川礫について－礫種・形状・円磨度－，日本地質学会第108年学術大会，日本地質学会。
- 9) 岩本直哉・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物密度から見た気候変遷史，日本地質学会，第108年学術大会，日本地質学会。
- 10) 加 三千宣・吉川周作・井内美郎：琵琶湖，過去40万年間の珪藻生産量記録から推定される高解像度気候変動，日本地質学会第108年学術大会，日本地質学会。
- 11) 西 綾乃・井内美郎：熊本県天草郡羊角湾における堆積物から見た環境変遷，日本地質学会第108年学術大会，日本地質学会。
- 12) 大平 亮・井内美郎：愛媛県松山市沖堀江湾の底質分布，日本地質学会第108年学術大会，日本地質学会。
- 13) 三井拓也・井内美郎・塩屋藤彦：愛媛県中島周辺海域の音波探査から見た古環境変遷，日本地質学会第108年学術大会，日本地質学会。
- 14) Inouchi, Y., Urabe, A., Tateishi, M., Matsuoka, H., Dmytriev, A. and Khristov, O.: Lake Level Changes during the past 100,000 years in Lake Baikal, 2001 International Workshop for the Baikal and Hovsgol Drilling Project in Ulaanbaatar, Institute of Geology and Mineral Resources Mongolian Academy of Sciences.
- 15) 井上卓彦：芸予地震による愛媛県下の液状化とその要因，日本地質学会四国支部総会，日本地質学会四国支部。
- 16) 塩屋藤彦：燧灘西部海域の海底断層と砂堆の形状について（バブルパルサー記録より），日本地質学会四国支部総会，日本地質学会四国支部。
- 17) 天野敦子：四国における河川礫について－礫種・形状・円磨度－，日本地質学会四国支部総会，日本地質学会四国支部。
- 18) 岩本直哉：バイカル湖湖底堆積物密度から見た気候変遷史，日本地質学会四国支部総会，日本地質学会四国支部。
- 19) 西 綾乃：熊本県天草郡羊角湾における堆積物から見た環境変遷，日本地質学会四国支部総会，日本地質学会四国支部。
- 20) 大平 亮：愛媛県松山市沖堀江湾の底質分布，日本地質学会四国支部総会，日本地質学会四国支部。
- 21) 三井拓也：愛媛県中島周辺海域の音波探査から見た古環境変遷，日本地質学会四国支部総会，日本地質学会四国支部。
- 22) 井上卓彦・井内美郎・奈良正和・榊原正幸・岩本直哉・天野敦子・大平 亮・風岡 修：芸予地震による愛媛県下の液状化とその要因，第11回環境地質学シンポジウム，日本地質学会。
- 23) 井内美郎・岩本直哉・三井拓也・塩屋藤彦・天野敦子：海砂採取海域の地形変化，第11回環境地質学シンポジウム，日本地質学会。
- 24) 塩屋藤彦・三井拓也・岩本直哉・井内美郎：燧灘西部海域の海底断層系と完新世堆積物，第11回環境地質学シンポジウム，日本地質学会。
- 25) 天野敦子・井内美郎：海底堆積物から見た愛媛県宇和海の過去約100年間の環境変遷，第11回環境地質学シン

4. 研究成果

ポジウム, 日本地質学会.

- 26) 岩本直哉・井内美郎・大野一郎・酒井英男: バイカル湖湖底堆積物密度から見た過去500万年間の気候変遷史, 第11回環境地質学シンポジウム, 日本地質学会.
- 27) 西 綾乃・天野敦子・井上卓彦・大平 亮・塩屋藤彦・井内美郎・徳岡隆夫: 熊本県天草郡羊角湾における堆積物から見た環境変遷, 第11回環境地質学シンポジウム, 日本地質学会.
- 28) 大平 亮・岩本直哉・三井拓也・井内美郎: 愛媛県松山市沖堀江湾の底質分布, 第11回環境地質学シンポジウム, 日本地質学会.
- 29) 三井拓也・塩屋藤彦・岩本直哉・井内美郎: 愛媛県中島周辺海域の音波探査から見た過去約2万年間の古環境変遷, 第11回環境地質学シンポジウム, 日本地質学会.
- 30) 大森浩二: 河川生態系のモデル解析, 日本生態学会全国大会, 3月, 熊本.
- 31) Omori, K. and R. Fukumoto: Primary production structure of coastal ecosystems along the coast of the Shikoku Island in Aki Nada, Japan, In EME CS 2001, Abstracts, The 5th International Conference on the Environmental Management of Enclosed Coastal Seas, 155.
- 32) 奈良正和: 高知県南西部三崎層に見られる *Lockeia amygdaloides* - 流れの影響下における二枚貝の古生態復元とその堆積学的意義, 堆積学研究会, 2001年春季研究集会, 京都, 5月, 講演要旨, 5.
- 33) 渡部寛志・奈良正和: 粗粒・細粒碎屑物による急速埋没に対する頭索動物ナメクジウオ *Branchiostoma belcheri* の耐性, 日本古生物学会2001年年会, 東京, 6月, 182.

5. 学会及び社会における活動 ●●●●●●●●●●

5. 1 併任・委員会委員等

環境動態解析分野

武岡英隆

- 1) 愛媛海区漁業調整委員会委員, 愛媛県
- 2) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 3) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 4) 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員, 愛媛県
- 5) 漁場資源循環システム技術開発委員会委員, ミクニヤ環境システム研究所
- 6) 愛媛県骨材対策委員会委員, 愛媛県
- 7) 政策研究委員会委員, えひめ地域政策研究センター

郭 新宇

- 1) 地球フロンティア研究システム研究員 (非常勤), 海洋科学技術センター

生態環境計測分野

田辺信介

- 1) 客員教授, 東京大学海洋研究所
- 2) 客員教授, 横浜市立大学医学部
- 3) 科学技術・学術審議会専門委員 (学術分科会), 文部科学省
- 4) 日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員, 文部科学省
- 5) 国立民族学博物館共同研究員, 国立民族学博物館
- 6) 海上保安庁海洋情報部非常勤研究官, 海上保安庁
- 7) 中央環境審議会水質部会専門委員, 環境省
- 8) 中央環境審議会大気部会専門委員, 環境省
- 9) 中央環境審議会廃棄物リサイクル部会専門委員, 環境省
- 10) POPs モニタリング検討会座長, 環境省
- 11) POPs 対策検討会委員, 環境省
- 12) 化学物質環境調査総合検討会環境調査第二分科会委員, 環境省
- 13) 化学物質経年モニタリング調査検討会委員, 環境省
- 14) 内分泌攪乱化学物質問題検討会委員, 環境省
- 15) 内分泌攪乱化学物質による野生生物影響実態調査研究班検討委員, 環境省
- 16) 内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究企画検討会に係わる検討委員, 環境省
- 17) 野生生物のバイオマーカーに関する調査研究班検討委員, 環境省
- 18) 野生生物のダイオキシン類蓄積状況調査研究班検討委員, 環境省
- 19) ダイオキシン類環境基準設定基礎調査に係わる検討委員会委員, 環境省
- 20) ダイオキシン類底質環境基準等設定基礎調査に係わる検討委員会委員, 環境省
- 21) 残留性有機汚染物質 (POPs) による海洋汚染防止対策調査委員会委員, 環境省
- 22) 海洋環境モニタリング調査検討会検討員, 環境省
- 23) 海洋環境保全対策調査検討会委員, 環境省
- 24) 海洋環境モニタリングにおけるバイオアッセイの活用に関する研究会委員, 環境省
- 25) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会委員, 環境省

5. 学会及び社会における活動

- 26) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員，環境省
- 27) 廃棄物処理過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究委員会委員，環境省
- 28) 廃棄物に係わるダイオキシン類等分析の体系化に関する研究委員会委員，環境省
- 29) 臭素化ダイオキシンの人への健康影響調査に関する検討委員会委員，環境省
- 30) 臭素系ダイオキシン対策等検討調査に関する検討会委員，環境省
- 31) 愛媛県環境審議会委員，愛媛県
- 32) 愛媛県環境創造センター客員研究員，愛媛県
- 33) 三崎半島・伊予灘海域漁場環境研究会検討会委員，愛媛県
- 34) 北九州市 PCB 処理安全性検討委員会委員，北九州市
- 35) 松山市環境審議会委員，松山市
- 36) ダイキ・オンリーワン・スクール理事，ダイキ株式会社
- 37) External Assessor for Appointments to the Post of Associate Professor / Professor in the Faculty of Applied Science and Technology, Universiti Putra Malaysia
- 38) External Assessor for Promotion to Professorship, City University of Hong Kong

生態系解析分野

上田拓史

1) ICUN (世界自然保護連合), Species Survival Commission, Inland Water Crustacean Specialist Group, Copepod Working Group 委員

2) 宇和海漁場環境評価検討委員会委員，愛媛県

中野伸一

1) 愛媛県環境創造センター客員研究員，愛媛県

2) 愛媛県環境審議会専門委員，愛媛県

金本自由生

1) 中城湾港泡瀬地区環境監視・検討委員会委員，(財) 港湾空間高度化環境研究センター

環境影響評価予測分野

井内美郎

1) 瀬戸内海海砂利採取環境影響評価調査検討会検討員，環境庁水質保全局

2) 愛媛県骨材対策委員会委員，愛媛県

3) 松山市道後温泉審議会委員，松山市

4) 主任研究員，独立行政法人産業技術総合研究所，海洋資源環境研究部門，中国センター，生態系環境修復創造研究グループ

5) 島根大学汽水域研究センター客員研究員，島根大学

大森浩二

1) 富郷ダムモニタリング準備委員会委員，ダム水源地環境整備センター

2) 河川・溪流アドバイザー，肱川ダム

3) 流況変動研究委員会委員，ダム水源地環境整備センター

4) 新アセス法技術指針ワーキンググループ委員，自然環境研究センター，環境庁委託

5) 水源地生態研究会議委員，ダム水源地環境整備センター

6) 生物の多様性分野の影響評価技術検討会陸水域分科会委員，環境庁

5. 2 学協会委員等

環境動態解析分野

武岡英隆

1) 評議員，日本海洋学会

- 2) 幹事, 水産海洋学会
- 3) 委員, 事業部長, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会
- 4) 理事, 瀬戸内海研究会議

速水祐一

- 1) 将来計画委員, 日本陸水学会

生態環境計測分野

田辺信介

- 1) 会長, 日本環境毒性学会
- 2) 理事, 日本環境科学会
- 3) 理事, 内分泌攪乱化学物質学会
- 4) 評議員, 日本環境化学会
- 5) 副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 6) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)
- 7) Editorial Board Member, Marine Pollution Bulletin (Pergamon)
- 8) Editorial Board Member, Australasian Journal of Ecotoxicology (Australasian Society for Ecotoxicology)

岩田久人

- 1) Editorial Board Member, The Scientific World (The Scientific World)

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 評議員, 日本微生物生態学会
- 2) 部会長, 日本微生物生態学会微生物生態教育研究部会
- 3) 評議員, マリンバイオテクノロジー学会

上田拓史

- 1) 編集委員, Plankton Biology and Ecology (英文誌), 日本プランクトン学会

中野伸一

- 1) 将来計画委員, 日本陸水学会

環境影響評価予測分野

井内美郎

- 1) 海洋科学研究連絡委員, 日本学術会議
- 2) 評議員, 日本地質学会
- 3) 支部長, 日本地質学会四国支部

奈良正和

- 1) 将来計画委員, 日本古生物学会

5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

- 1) 国際地球市民シンポジウム in えひめ -アジアの環境問題- (共催: 愛媛県環境創造センターと共催、後援: 環境省、愛媛新聞社、NHK 松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、FM 愛媛)

期日: 平成13年11月6日 (火)

会場: 松山全日空ホテル

開会のあいさつ

愛媛県知事 加戸守行

愛媛県環境創造センター所長 立川 涼

愛媛大学沿岸環境科学研究センターセンター長 武岡英隆

5. 学会及び社会における活動

第1部 地球市民へのメッセージ

環境ホルモンの教訓：社会統治への挑戦

米国 W. アルトン・ジョーンズ財団代表 ジョン・ピーターソン・マイヤース

第2部 アジアの環境問題

アジアの環境問題と社会への影響

タイ国科学技術環境省副長官 モンチップ・スリラターナ・タブキャノン

北東アジアの野生生物保護 韓国慶熙大学名誉教授 ピョン・オウ・ウォン

カンボジアの環境変化と社会への影響

カンボジア内閣官房秘書官 トフ・シアン・タナ

環境ホルモンによるアジアの汚染

愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授 田辺信介

ヒ素によるベトナムの地下水および上水道汚染

ベトナム国立大学環境技術開発センター所長 ハン・ファン・ベト

アジアにおける環境問題の現状と課題 一橋大学経済学部教授 寺西俊一

閉会の挨拶

愛媛県環境創造センター所長 立川 涼

2) 第1回瀬戸内海環境科学研究交流会（瀬戸内海区水産研究所、大阪市立環境科学研究所と共催）

期日：平成13年7月23日（月）

会場：愛媛大学工学部1号館3F 大会議室

プログラム

大阪市立環境科学研究所

大阪市域における大気中ダイオキシン類の時間的変動について

東條 俊樹

大阪湾への流入過程におけるダイオキシン類の組成変化

先山 孝則

大阪湾から紀伊水道にかけての POPs の分布

角谷 直哉

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

ブチルスズ化合物による宇和海沿岸堆積物および養殖魚介類の汚染

酒井 大樹・笠井 梨恵・高橋 真・田辺 信介

海棲高等動物におけるヒ素の科学形態

久保田 領志・國頭 恭・田辺 信介

PCBs およびダイオキシン類 (PCDDs、PCDFs、PCBs) による宇和海沿岸堆積物の汚染

久保田 彰・染矢 雅之・渡部 真文・田辺 信介

瀬戸内海区水産研究所

マミチヨグを用いた初期生活段階毒性試験

角埜 彰

沿岸域における残留性有機塩素化合物の分布—大阪湾を例として—

市橋 秀樹

3) 第2回漁場環境保全市民講座（愛媛県漁業共同組合連合会と共催、後援：愛媛県、愛媛県真珠養殖漁協

協議会、愛媛県真珠貝養殖漁協協議会、愛媛県かん水養魚協議会）

期日：平成13年9月8日（土）

場所：宇和島市総合福祉センター

プログラム：

1. 海のしくみと生物「いのちを育む潮の流れ」

愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授 武岡英隆

2. 海の健康診断「魚介類の病気—感染と発病は違う」

愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授 鈴木 聡

3. 海の修復「海の泥から環境を考える」

香川大学農学部教授 門谷 茂

4) 第1回環境科学特別セミナー（地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共催）

期日：平成13年6月4日（月）

会場：愛媛大学工学部1号館3F 大会議室

地球生物圏フロンティアの微生物

広島大学生物生産学部助教授 長沼 毅

5) 第2回環境科学特別セミナー (地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共催)

期日:平成13年9月12日 (水)

会場:愛媛大学工学部工学部18番講義室

頻発するクラゲの大量発生:その原因と海洋生態系に及ぼす影響

広島大学生物生産学部教授 上 真一

6) 第3回環境科学特別セミナー (地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共催)

期日:平成13年11月23日 (金)

会場:愛媛大学工学部1号館3階大会議室

Chesapeake Bay: Challenges to Environmental Management on a Partially Mixed Estuary

Dr. Wayne H. Bell

(Director, Center for the Environment and Society, Washington College, USA)

Ecological conditions in the North Sea and its management.

Dr. Jean-Paul Ducrottoy

(Deputy Director of the Institute for Estuarine & Coastal Studies, The University of Hull, UK)

7) 沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告

期日:平成14年3月6日 (水)

会場:愛媛大学工学部18番教室 (工学部4号館1階)

愛媛県松山市堀江湾の底質分布からみた堆積環境

大平 亮 (理学部生物地球圏科学科4年)

海底堆積物から見た愛媛県宇和海の過去約100年間の環境変遷

天野敦子 (理工学研究科修士課程1年)

芸予地震による愛媛県下の液状化とその要因

井上卓彦 (理工学研究科修士課程1年)

北条沿岸海域における生態系解析II

福元亨 (理学部理工学研究科修士課程1年)

内分泌攪乱物質による野生生物およびヒトの汚染実態と影響に関する最近の話題

田辺信介 (CMES 教授)

海棲哺乳類における Aryl Hydrocarbon レセプターの機能特性

ーダイオキシン感受性のバイオマーカーとしての可能性

金 恩英 (CMES 非常勤研究員)

ウミガメ類肝臓の微量元素蓄積に関与するメタロチオネインの役割およびその異性

体のクローニング

阿南弥寿美 (連合農学研究科博士課程1年)

血液を用いた野生動物およびヒトの有機スズ汚染モニタリングとその免疫毒性・母

子間移行に関する研究

村岡正義 (農学研究科修士課程2年)

対馬暖流の起源に関するトレーサー実験

郭 新宇 (CMES 助教授)

宇和海の底入り潮と黒潮の流路および流量の関係

兼田淳史 (CMES 助手)

速吸瀬戸における窒素・リンの輸送

速水祐一 (工学部教務職員)

急潮・底入り潮にともなう宇和海沿岸域の N・P 収支

小濱 剛 (CMES 非常勤研究員)

宇和海における超微細藻類 Prochlorococcus, Synechococcus の生態学的役割

廣瀬弥保 (農学研究科修士課程2年)

宇和海南部, 御荘町室手海岸におけるイソモク群落の生態学的特性

竹内一郎 (農学部教授・CMES 研究員)

土佐湾に出現するベラ科浮遊期仔魚およびそれらの分布様式

丸山 拓也 (理学部生物地球圏科学科4年生)

IMAGES VII-WEPAMA 航海で得られた四国沖太平洋の海洋コア中における微生物群集構造の

解析

片岡悠子 (農学研究科修士課程1年)

5. 4 学会, 講演会などの開催 (個人)

環境動態解析分野

速水祐一

- 1) 日本陸水学会第66回大会公開シンポジウム「陸水環境影響評価の現状と今後—新アセス法に向けて—」, 10月, 仙台, コンビナー

生態環境計測分野

田辺信介

- 1) 第10回環境化学討論会, 県民文化会館, 5月, 松山市
- 2) 文部科学省特定領域研究 (A)「内分泌攪乱物質の環境リスク」A02班班会議, 県民文化会館, 7月, 松山市

生態系解析分野

中野伸一

- 1) 日本陸水学会第66回大会公開シンポジウム「陸水環境影響評価の現状と今後—新アセス法に向けて—」, 10月, 仙台, コンビナー

環境影響評価予測分野

井内美郎・奈良正和

- 1) 日本地質学会四国支部設立総会, 愛媛大学, 11月, 松山, 設立準備委員

大森浩二

- 1) 主催: ワークショップ in 松山, 流域保全に向けて, 応用生態工学研究会, 11月, 松山

5. 5 学会賞等

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡 2001年度日本微生物生態学会論文賞

6. 国際的活動

6. 1 国際研究プロジェクト

生態環境計測分野

田辺信介

- 1) 平成12年～14年, 内分泌攪乱物質による海亀類および鳥類の汚染と毒性影響に関する研究, 中国・香港城市大学
- 2) 平成11年～14年, 内分泌攪乱物質によるカスピ海の汚染とカスピカイアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, アゼルバイジャン・世界銀行
- 3) 平成9年～13年, 内分泌攪乱物質によるアジア産渡り鳥の汚染と毒性影響に関する研究, インド・アンナマライ大学等4カ国
- 4) 平成9年～13年, カツオを指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発, 中国・香港城市大学等6カ国
- 5) 平成11年～15年, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局等4カ国
- 6) 平成11年～15年, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科), ベトナム・ハノイ大学等
- 7) 平成11年～平成15年, 内分泌攪乱化学物質に関する日英共同研究－開発途上国における海棲生物の内分泌攪乱現状調査－, イギリス・プリマス海洋研究所
- 8) 平成13年～17年, 内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究－環日本海におけるダイオキシンの魚介類等への蓄積状況について－, 韓国・成均館大学薬学部
- 9) 平成13年～17年, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (海洋科学分野) (東京大学海洋研究所), インドネシア・タイ・マレーシア・フィリピン・ベトナム

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 平成13年4月～平成16年3月, 韓国と日本に共通の魚病微生物の調査, 麗水大学, 韓国
- 2) 平成13年4月～平成22年度, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (東京大学海洋研究所), フィリピン等5カ国・東南アジア水産開発センター等
- 3) 平成13年4月～平成22年度, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (北海道大学大学院水産科学研究科), 韓国・釜慶大学等

上田拓史

- 1) 平成9年～平成13年, Mesocyclops と Thermocyclops の分類学的研究, USA・スミソニアン研究所, ウズベキスタン・ウズベク科学アカデミー動物学研究所, ポーランド・ポーランド科学アカデミー動物学博物館研究所
- 2) 平成10年～平成13年, カラヌス目とオキアミ目の DNA 配列データベース, 米国・ニューハンブシャー大学海洋過程分析研究所

中野伸一

- 1) 平成13年12月から, 細菌生物量画像解析システム CMEIAS を用いた自然水域の細菌のバイオマス測定, Department of Microbiology & Molecular Genetics, 米国・ミシガン州立大学

金本自由生

- 1) 平成6年度～平成13年度, 日本産ウミヒルモの研究, オーストラリア・ウエスタンオーストラリア大学電顕センター

環境影響評価予測分野

大森浩二

- 1) プログラム方式二酸化炭素固定化・有効利用技術開発マングローブ等熱帯沿岸生態系の修復・保全による地球温暖化ガス回収・放出抑制評価技術の開発, 新エネルギー産業技術総合開発機構, 800千円, 温暖化ガス(二酸化炭素・亜酸化窒素・メタン)についてマングローブ林がシンクになっているのかタンクになっているのかの検討をおこなう(チュラルンコン大学と共同)

2001年3月(タイ国 trat)

2001年7月(タイ国 trat)

- 2) タイ国マングローブ生態系の保全, マングローブ林とベントスの相互作用, マングローブ林の自然更新にベントスが以下に関与しているかを検討する(チュラルンコン大学と共同)

2001年7月(タイ国 trat)

- 1) 平成12年, マングローブ等熱帯沿岸生態系の修復・保全による地球温暖化ガス回収・放出抑制評価技術の開発, NEDO, 通産省

6. 2 在外研究等

本年度該当なし

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析分野

郭 新宇

- 1) 平成13年4月9日～15日, 11th PAM&JECSS 参加・講演, Cheju, 韓国
- 2) 平成13年8月26日～9月2日, Fifth IOC/WESTPAC International Scientific Symposium 参加・講演, Seoul, 韓国
- 3) 平成13年12月24日～31日, 東シナ海数値モデリングに関する共同研究打ち合わせ, 中国科学院海洋研究所, 青島, 中国

兼田 淳史

- 1) 平成13年4月9日～15日, 11th PAM&JECSS 参加・講演, Cheju, 韓国

速水祐一

- 1) 平成13年3月18日～23日, モンゴル・フブスグル湖の湖沼環境研究, モンゴル・国立地理研究所など

生態環境計測分野

田辺信介

- 1) 平成13年6月10日～平成13年6月14日, 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology 参加・講演, 香港城市大学, 香港
- 2) 平成13年9月9日～平成13年9月20日, 都市ゴミ集積場における有害物質の汚染調査および地下水のヒ素汚染調査, ホーチミン農林大学・ベトナム国立大学ハノイ校, ベトナム
- 3) 平成13年10月15日～平成13年10月22日, The 3rd Annual Symposium "e. hormone 2001" 参加・講演, New Orleans, USA
- 4) 平成13年12月6日～平成13年12月8日, 第3回内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究ワークショップ参加・講演, 国立環境研究院, 韓国
- 5) 平成13年12月24日～平成13年12月31日, 都市ゴミ集積場における有害物質の汚染調査, カンボジア水産局, カンボジア
- 6) 平成14年3月24日～平成14年3月30日, Final Ecotox Workshop on the Investigation into Toxic Contaminant Accumulation

and Related Pathology in the Caspian Sturgeon, Seal and Bony Fish (Ecotox Study) 参加・講演, Baku, Azerbaijan
岩田久人

- 1) 平成13年7月10日～平成13年7月13日, 11th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・講演, Plymouth, UK
- 2) 平成13年9月9日～平成13年9月14日, 21st International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs 参加・講演, Gyeongju, Korea

國頭 恭

- 1) 平成13年9月9日～平成13年9月20日, 都市ゴミ集積場における有害物質の汚染調査および地下水のヒ素汚染調査, ホーチミン農林大学・ベトナム国立大学ハノイ校, ベトナム
- 2) 平成13年12月19日～平成13年12月31日, 都市ゴミ集積場における有害物質の汚染調査, カンボジア水産局, カンボジア
- 3) 平成14年3月24日～平成14年3月30日, Final Ecotox Workshop on the Investigation into Toxic Contaminant Accumulation and Related Pathology in the Caspian Sturgeon, Seal and Bony Fish (Ecotox Study) 参加・講演, Baku, Azerbaijan

金 恩英

- 1) 平成13年7月10日～平成13年7月13日, 11th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・講演, Plymouth, UK
- 2) 平成13年9月9日～平成13年9月14日, 21st International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs 参加・講演, Gyeongju, Korea

上野 大介

- 1) 平成13年6月10日～平成13年6月23日, 3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology 参加・講演, 香港城市大学, 香港

高橋 真

- 1) 平成13年11月11日～平成13年11月15日, SETAC 22nd Annual Meeting 参加・講演, Baltimore, USA

渡部 真文

- 1) 平成13年9月9日～平成13年9月20日, 都市ゴミ集積場における有害物質の汚染調査および地下水のヒ素汚染調査, ホーチミン農林大学・ベトナム国立大学ハノイ校, ベトナム
- 2) 平成13年11月11日～平成13年11月15日, SETAC 22nd Annual Meeting 参加・講演, Baltimore, USA

Tu Binh Minh

- 1) 平成13年9月9日～平成13年9月20日, 都市ゴミ集積場における有害物質の汚染調査および地下水のヒ素汚染調査, ホーチミン農林大学・ベトナム国立大学ハノイ校, ベトナム

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 平成14年1月11日～13日, 韓国南岸の魚病調査, 韓国麗水大学

中野伸一

- 1) 平成13年8月26日～30日, 国際微生物生態学会参加・ポスター発表, アムステルダム, オランダ

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 平成13年6月24日～7月1日, 中国内蒙古自治区岱海湖底堆積物調査, 中華人民共和国・地質研究所
- 2) 平成13年7月9日～15日, Global Change Open Science Conference, IGBP, オランダ
- 3) 平成13年10月3日～10日, 2001 International Workshop for the Baikal and Hovsgol Drilling Project in Ulaanbaatar, Institute of Geology and Mineral Resources Mongolian Academy of Sciences, モンゴル

奈良 正和

- 1) 平成13年10月14日～10月30日, 下部デボン系 Taunusquarzit および Carpathia Flysch の生痕学的・古生態学的研究, ドイツ, ヴェルツブルグ大学ならびにポーランド, ヤゲウォ大学

6. 4 外国人客員研究員等

6. 5 海外からの訪問者

共通

- 1) Prof. Wayne H. Bell, 平成13年11月23, 24日, 第3回環境科学特別セミナーで講演のため, ワシントン大学環境社会研究センター, アメリカ
- 2) Prof. Jean-Paul Ducrotoy, 同上, ハル大学河口沿岸研究所, イギリス

環境動態解析分野

- 1) Dr. Kai Wang, 平成13年10月11日～14日, 東シナ海数値モデルに関する情報交換, 中国科学院海洋研究所, 中国
- 2) Dr. Seok Lee, 平成14年2月24日～3月1日, 東シナ海数値生態系モデルに関する情報交換, Korea Ocean Research and Development Institute, 韓国

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) Sukarno Wagiman, PhD course student, 平成13年5月14日～平成13年7月12日, 有機スズ化合物の分析法の習得および情報収集, Universiti Teknologi, Malaysia
- 2) Kurunthachalam Kannan, Associate Professor, 平成13年5月17日～平成13年5月26日, 第10回環境化学討論会における招待講演, National Food Safety & Toxicology Center, Michigan State University, USA
- 3) Gunilla U. M. Lindstrom, Professor, 平成13年9月3日, 講演および情報交換, Department of Natural Sciences, Orebro University, Sweden
- 4) Bert van Bavel, Associate Professor, 平成13年9月3日, 講演および情報交換, Department of Natural Sciences, Orebro University, Sweden
- 5) Annamalai Subramanian, Professor, 平成13年9月29日～平成13年10月3日, 研究打合せおよび情報交換, Center of Advanced Study in Marine Biologu, Annamalai University, India
- 6) Byung-Yoon Minh, Professor, 平成13年10月3日～平成13年10月4日, 研究打合せおよび情報交換, 慶南大学, 韓国

6. 6 招聘研究員

生態環境計測分野

田辺信介

- 1) Pham Hung Viet, Professor, 平成13年10月30日～平成13年11月9日, 有害物質によるベトナムの環境汚染と生態影響に関する環境化学的研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科), Research Center for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Vietnam National University, Hanoi, Vietnam
- 2) Tu Vong Nghi, Professor, 平成13年10月30日～平成13年11月9日, 有害物質によるベトナムの環境汚染と生態影響に関する環境化学的研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科), Research Center for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Vietnam National University, Hanoi, Vietnam
- 3) Le Do Hien, Research Associate, 平成14年1月15日～平成14年1月28日, 肝組織中の重金属の分析法に関する研

究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科), University of Agriculture & Forestry, Ho Chi Minh City, Vietnam

- 4) Vu Loi Duc, Research Associate, 平成14年1月16日～平成14年3月31日, 重金属によるベトナムの環境と人体汚染に関する研究, 日本学術振興会ベトナムとの学術交流事業, Institute of Chemistry, Vietnam National Center for Science and Technology, Hanoi, Vietnam

6. 7 留学生

環境動態解析分野

- 1) Arif Dwi Santoso, 研究生, インドネシア政府派遣, 養殖漁場のモニタリングと環境保全に関する研究, インドネシア

生態環境計測分野

- 1) Tu Binh Minh, 日本学術振興会外国人特別研究員, Contamination of Bioaccumulative Endocrine Disrupters in Humans and Wildlife from Asian Developing Countries (生物蓄積性内分泌攪乱物質によるアジア途上国のヒトおよび野生生物汚染), ベトナム
- 2) Ana Paula Xavier de Brito, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination by Organochlorines and Organotins in Deep - Sea Fish from Open Seas (外洋性深海生物における有機塩素化合物および有機スズ化合物の汚染), ブラジル
- 3) In Monirith, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination by Organochlorine Compounds in Mussels and Fish from Cambodia (カンボジア産イガイおよび魚類の有機塩素化合物汚染), カンボジア
- 4) Nguyen Hung Minh, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination by Toxic Pollutants in Dumping Sites of Municipal Wastes in Vietnam (有害物質によるベトナムの廃棄物集積場汚染), ベトナム
- 5) Karri Ramu, 大学院農学研究科修士課程, 国費, Contamination of Persistent Organic Pollutants in Stranded Small Cetaceans from Hong Kong Coastal Waters (香港沿岸に座礁した小型歯鯨類の残留性有機汚染物質汚染), インド

生態系解析分野

- 1) 金 錫烈, 連合農学研究科博士課程, 国費, アジア沿岸域の海洋細菌における薬剤耐性遺伝子の分布と変異, 韓国

2) 上野大介：魚貝類を指標とした海洋汚染モニタリング手法の開発

生態系解析分野

卒業論文

- 1) 篠崎大介：Experimental infection of Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*) with marine birnavirus after heavy metal exposure.
- 2) 寺尾亜由美：洪水時の筑後川河口域における汽水性カイアシ類の分布
- 3) 市野塚大介：Seasonal changes in abundance and bacterivory of protists in Uchiyumi Bay.
- 4) 上野裕之：Seasonal and vertical abundance and composition of planktonic ciliates in a coastal marine environment with special attention to their ecological roles
- 5) 有高智美：西日本におけるホシササノハベラの集団構造解析
- 6) 関大悟：海草の現存量からみた名蔵湾海草モ場の分布構造
- 7) 廣田浩一：コンディショニングファクターからみたホシササノハベラの生態
- 8) 丸山拓也：土佐湾に出現するベラ科浮遊期仔魚およびそれらの分布様式

修士論文

- 1) 鎌田信一郎：Development of concentration method using bovine serum albumin (BSA) -coated glass fiber filter and survey of marine birnavirus in fish farm.
- 2) 平林 淳：*Vibrio alginolyticus* のタンパク質分解酵素の産生性状
- 3) 三好達夫：Degradation process of outer membrane proteins of *Synechococcus* sp. in vitro and in situ conditions.
- 4) 鎌倉秀行：瀬戸内海産ナメクジウオの生態学的研究
- 5) 長井秀文：有明海特産のカイアシ類数種の分類学的記載
- 6) 廣瀬弥保：Dynamics of *Prochlorococcus*, *Synechococcus* and picoeukaryotes in Uwa Sea.

博士論文

- 1) 野中里佐：Cloning and the distribution of a new oxytetracycline resistance determinant Tet 34 found in *Vibrio* spp.
- 2) 一色 正：マリンビルナウイルスの海産魚類における感染経路および感染様式に関する研究

環境影響評価予測分野

卒業論文

- 1) 大平 亮：愛媛県松山市堀江湾の底質分布から見た堆積環境
- 2) 西 綾乃：熊本県天草郡羊角湾における堆積物から見た環境変遷.
- 3) 伊藤 綾：重信川流域におけるサギ類の採餌生態
- 4) 西口有紀：夫婦泉における物質循環
- 5) 堂浦 旭：スナガニ類の分布生態
- 6) 尾端勝吉：更新統上総層群市宿層の海流堆積相に見られる生痕化石群集
- 7) 篠原祥子：ベッコウツメアナジャコ *Upogebia imperfecta* の生痕学的研究 特にその巣穴形成行動について
- 8) 篤永知子：スナモグリ類の行動生態 -特にその巣穴内行動および巣穴形成法に注目して
- 9) 藤林冴子：新生代潮汐低地システムの生痕学的研究 -和歌山県南西部中新統白浜層での事例研究

修士論文

- 1) 岩本直哉：バイカル湖湖底堆積物の密度変化から見た過去約500万年間の気候変遷史
- 2) 塩屋藤彦：音波探査からみた燧灘西部海域の海底地質
- 3) 三井拓也：愛媛県中島町東方海域の音波探査記録から見た過去約2万年間の古環境変遷
- 4) 松本潤二：生痕化石 *Phycosiphon incertum* の解析および現生の海産内在性多毛類の形成する生痕構造との比較研究

7. 2 講義・集中講義

環境動態解析分野

講義

武岡英隆

- 1) 平成13年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学工学部
- 2) 平成13年度前期, 環境学概論, 愛媛大学工学部
- 3) 平成13年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 4) 平成13年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 5) 平成13年度後期, 海洋物理学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成13年度後期, 地球を考える, 愛媛大学共通教育
- 7) 平成13年度後期, 沿岸海洋学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成13年度後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成13年度前期, 海洋環境論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

郭 新宇

- 1) 平成13年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成13年度前期, 理系数学, 愛媛大学共通教育
- 3) 平成13年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 4) 平成13年度後期, 沿岸海洋学, 愛媛大学工学部
- 5) 平成13年度後期, 応用解析学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成13年度前期, 海洋物理学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 7) 平成13年度後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成13年度後期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

兼田 淳史

- 1) 平成13年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成13年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 3) 平成13年度前期, 生物資源科学実習 IB (演習林実習), 愛媛大学農学部

生態環境計測分野

講義

田辺信介

- 1) 平成13年度後期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 1) 平成13年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学農学部
- 2) 平成13年度後期, 環境化学, 愛媛大学農学部
- 3) 平成13年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部
- 4) 平成13年度前期, 生物資源化学IV, 愛媛大学農学部
- 5) 平成13年度前期, 有害物質動態論, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成13年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成13年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成13年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成13年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 10) 平成13年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

岩田久人

- 1) 平成13年度後期, 環境毒性学, 愛媛大学農学部
- 2) 平成13年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 3) 平成13年度前後期, 生態化学実験, 愛媛大学農学部
- 4) 平成13年度前期, 環境分子毒性学, 愛媛大学大学院農学研究科

- 5) 平成13年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成13年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成13年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成13年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成13年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

國頭 恭

- 1) 平成13年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 2) 平成13年度前後期, 生態化学実験, 愛媛大学農学部

集中講義

田辺信介

- 1) 平成13年度後期, 生物機能学特論 I, 広島大学生物生産学部
- 2) 平成13年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

生態系解析分野

講義

鈴木 聡

- 1) 平成13年前期, 海を活かす, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成13年前期, 環境生化学, 愛媛大学農学部
- 3) 平成13年前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部
- 4) 平成13年後期, 環境分子生物学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 5) 平成13年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成13年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成13年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成13年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成13年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

上田拓史

- 1) 平成13年前期, 生物と環境—海と生き物, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成13年前期, 海洋生物学, 愛媛大学理学部
- 3) 平成13年前期, 地球生命科学 I, 愛媛大学理学部
- 4) 平成13年前期, 浮遊生物学, 愛媛大学理工学研究科大学院博士前期課程
- 5) 平成13年前期, 臨海実習 II, 愛媛大学理学部
- 6) 平成13年前期, 公開臨海実習, 愛媛大学理学部
- 7) 平成13年後期, 課題研究, 愛媛大学理学部
- 8) 平成13年後期, 水塊指標生物学, 愛媛大学理工学研究科大学院博士後期課程
- 9) 平成13年前・後期, 生物地球圏科学特別演習, 愛媛大学理学部

中野伸一

- 1) 平成13年度前期, 自然を知る—水環境と生物, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成13年度前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部
- 3) 平成13年後期, 水圏生態学, 愛媛大学農学部
- 4) 平成13年前期, 水環境保全論, 愛媛大学大学院農学研究科修士課程
- 5) 平成13年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成13年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成13年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成13年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成13年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

金本自由生

- 1) 平成13年度前期, 臨海実習 II, 愛媛大学理学部

7. 教育活動

2) 平成13年度前期, 公開臨海実習, 愛媛大学理学部

集中講義

鈴木 聡

1) 平成13年度後期, 分子病原微生物学, 高知大学大学院農学研究科

環境影響評価予測分野

講義

井内美郎

1) 平成13年前期, 瀬戸内の自然, 愛媛大学共通教育

2) 平成13年前期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育

3) 平成13年後期, 地球科学, 愛媛大学共通教育

4) 平成13年後期, 地球環境学, 愛媛大学理学部

5) 平成13年後期, 地球環境学序論, 愛媛大学理学部

奈良正和

1) 平成13年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学理学部

2) 平成13年前期, 地球科学野外実習, 愛媛大学理学部

3) 平成13年前期, 地質調査法実習, 愛媛大学理学部

4) 平成13年前期, 地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部

5) 平成13年前期, 地質野外研究, 愛媛大学理学部

6) 平成13年後期, 地球環境学, 愛媛大学理学部

7) 平成13年後期, 地球環境学特論, 愛媛大学理学部

8) 平成13年後期, 地質学実験, 愛媛大学理学部

9) 平成13年通期, 地球科学演習, 愛媛大学理学部

集中講義

井内美郎

1) 平成13年前期集中, 環境講話, 愛媛大学理学部

2) 同上

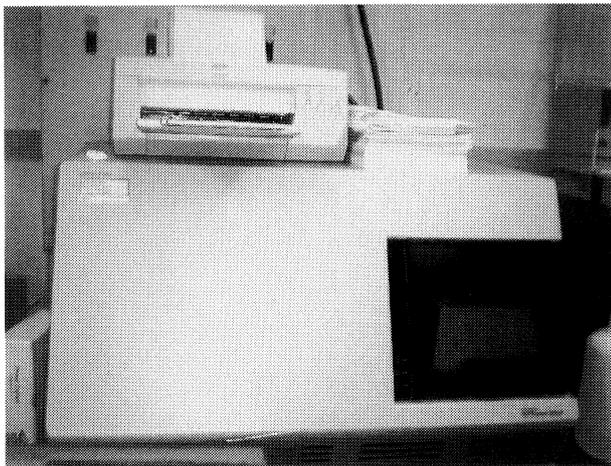
3) 平成13年前期集中, 環境科学特別講義, 新潟大学理学部

奈良正和

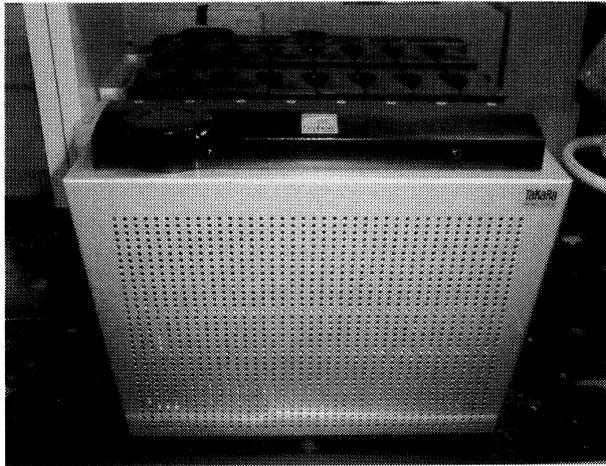
1) 平成13年前期, 生物資源科学実習, 愛媛大学農学部

生態環境計測分野

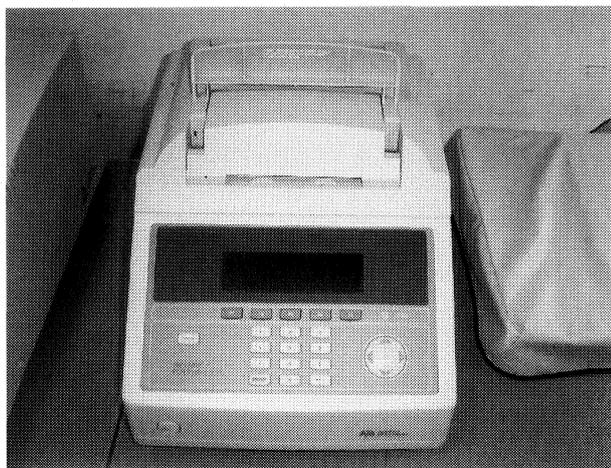
- 1) リアルタイム PCR 定量装置：生体内の発現 RNA を高精度で定量する機器である。



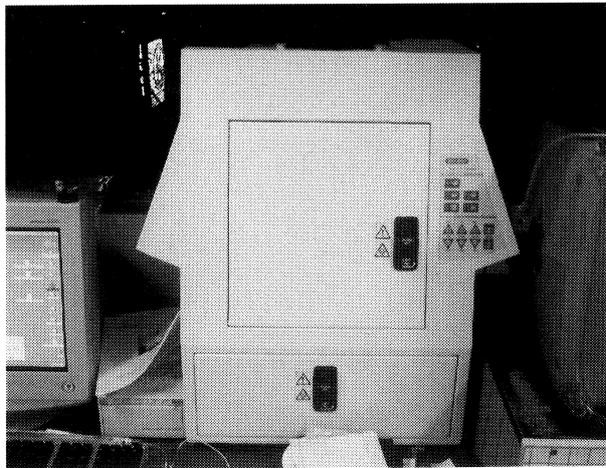
- 2) 簡易型リアルタイム PCR 定量装置：生体内の発現 RNA を簡便に定量する機器である。



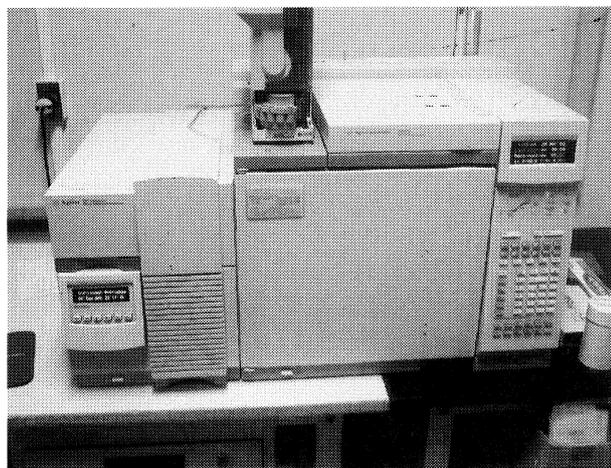
- 3) サーマルサイクラー：遺伝子を高効率で増幅させる機器である。



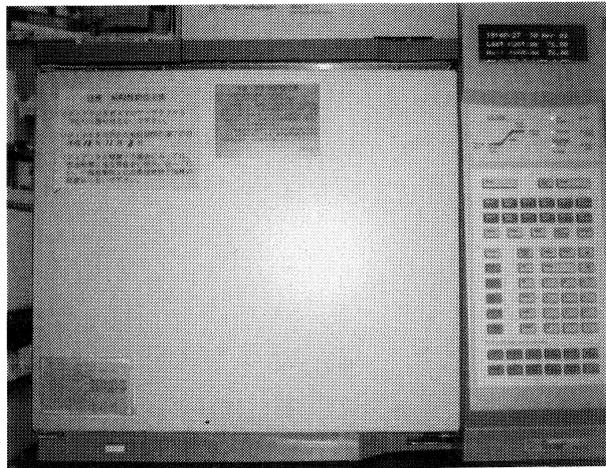
- 4) ウェスタンブロッティング化学発光検出装置：生体内の発現タンパクを高精度で同定・定量する機器である。



- 5) 質量選択検出器付ガスクロマトグラフ：コプラナ PCB や有機塩素化合物など、環境や生体内の微量残留性有機汚染線物質を高精度で同定・定量する機器である。



- 6) 電子捕獲型検出器付ガスクロマトグラフ：環境や生物試料中に残留する微量の有機塩素化合物を高感度・高精度で検出する機器である。



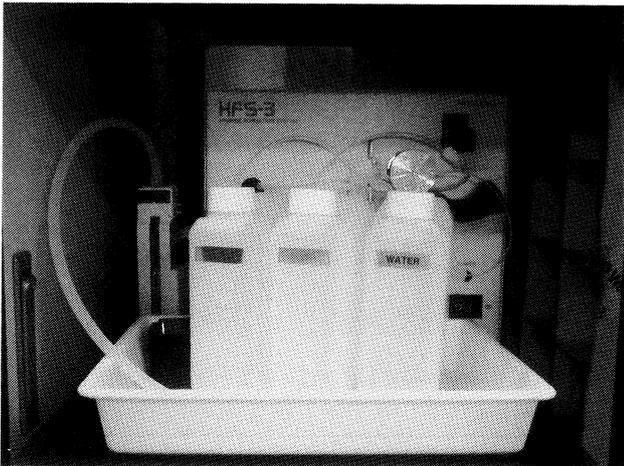
7) マイクロウェーブ分解装置：生物試料，環境試料中の微量元素濃度を測定する際に，試料を酸で分解，溶液化する機器である，



8) クリーン乾燥保管庫：微量元素分析に使用する器具を，清浄な環境で乾燥させる機器である．



9) フラクシオンコレクター：液体クロマトグラフと連結して使用し，試料溶液中に存在する目的とする物質を含んだ画分を分取する機器である．



9. 広報

9. 1 CMES ニュース

CMES ニュース, No. 4

目次	「宇和海水温情報システム」が本格的に稼働を開始
	研究員、客員研究員制度が発足
	研究分野紹介 No. 4 海の流れは生き物たちの舞台：環境動態解析分野
	センタースタッフ自己紹介 No. 4 鈴木 聡（生態系解析分野）
	非常勤研究員自己紹介 No. 4 金 恩英（生態環境計測分野）
	第1回環境科学特別セミナー報告 「地球生物圏フロンティアの微生物」
	「第2回漁場環境保全市民講座」のお知らせ
	3rd International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology 参加報告
	第10回環境化学討論会報告
	センター機器紹介 海底地形解析システム

CMES ニュース No. 5

目次	CMES の研究が NHK スペシャルに
	平成13年度年次研究成果報告会のご案内
	国際地球市民シンポジウム in えひめ開催報告
	第2回漁場環境保全市民講座開催報告
	第2回環境科学特別セミナー開催報告
	「頻発するクラゲの大量発生：その原因と海洋生態系に及ぼす影響」
	第3回環境科学特別セミナー開催報告
	瀬戸内海環境科学研究
	応用生態工学研究会開催報告
	非常勤研究員自己紹介 小濱 剛 （環境動態解析分野）
	Dioxin 2001 参加報告
	第9回世界湖沼会議参加報告
	第5回世界閉鎖性海域環境保全会議参加報告

9. 2 報道関係

共 通

- 1) 平成13年5月、環境の世紀に挑む国境を越えた青春―シーメス愛媛大学沿岸環境科学研究センター、グラフ松山 No. 57

環境動態解析分野

武岡英隆

- 1) 平成13年9月30日、瀬戸内海一豊かさのメカニズムを探る、NHK スペシャル
- 2) 平成13年10月21日、海からの報告、退化する海、栄養塩減少で漁獲不振、愛媛新聞

- 3) 平成13年11月15日, 真珠養殖にいい水温教えます, 愛媛大と県 HP に公開, 朝日新聞
- 4) 平成13年12月5日, 水温上昇で宇和海に異変 NHK イブニングえひめ
- 5) 平成13年12月7日, 水温上昇で宇和海に異変 NHK おはよう日本
- 6) 平成13年12月13日, せとうち紀行, EATニュースボックス, 愛媛朝日放送 (広島ホーム TV、瀬戸内海放送、山口朝日放送)
- 7) 平成14年1月8日, 愛媛水事情、宇和海に変化、サンゴの大群、名所期待、朝日新聞
- 8) 平成14年1月7日, 宇和海の海域環境を明らかにー「急潮」「底入り潮」の解明進む、みなと新聞
- 9) 平成14年2月26日, 生命の海, 瀬戸内海, NHK, BSハイビジョンスペシャル

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成13年5月, 第17回地球環境研究者交流会議報告, 国立環境研究所地球環境研究センターニュース第126号
- 2) 平成13年6月5日, ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法案, 第151回国会参議院環境委員会会議録第13号
- 3) 平成13年8月10日, PCB 処理施設安全検討委員会 リスク管理念頭に総括 情報公開の視点を強調, 西日本新聞朝刊
- 4) 平成13年8月14日, ごみ集積場周辺の汚染深刻化 カンボジア, インド, フィリピン, ベトナム 母乳に高濃度ダイオキシン, 読売新聞夕刊
- 5) 平成13年8月24日, 金曜フォーラム いま海で何が起きているか, NHK 教育テレビ午後11:00ー全国放送
- 6) 平成13年10月17日, 環境新世紀 外洋汚染 アホウドリに PCB 蓄積, 読売新聞朝刊
- 7) 平成13年10月, 有害物質の汚染の現況 残留性有機汚染物質 (POPs) による地球規模の汚染とその生体影響, TTC (東海技術センター) 30周年記念環境情報誌
- 8) 平成13年11月30日, 母乳中のダイオキシン出産数1人の女性蓄積深刻 愛媛大田辺教授らアジアの途上国で調査, 愛媛新聞朝刊
- 9) 平成13年12月23日, 科学のひろば アホウドリのダイオキシン汚染北半球が南の数十倍から百倍 愛媛大の調査研究で判明, 赤旗
- 10) 平成14年3月4日, 天風録 環境保全型養殖漁業の提案, 中国新聞朝刊
- 11) 平成14年3月13日, 第27回全国かん水養殖シンポ宇和島 安全ブランド化 田辺, 愛媛新聞朝刊

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 平成13年11月16日, 緑膿菌, 海水で初確認ー淡水に比べ濃度4倍ー, 愛媛新聞朝刊
- 2) 平成13年12月17日, 環境微生物教育への提言, 地球環境, 社会秩序の変化, 大学の研究組織強化を, 愛媛新聞朝刊
- 3) 平成14年3月7日, メタン分解する細菌2新種, 四国沖で初発見, 愛媛新聞朝刊

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 平成13年9月30日, 瀬戸内海ー豊かさのメカニズムー, NHK スペシャル
- 2) 平成13年10月3日, 愛媛県の海が危ないー第5部砂利採取・歴史ー, 愛媛新聞
- 3) 平成13年10月12日, 愛媛県の海が危ないー第5部砂利採取・保全の根拠ー, 愛媛新聞
- 4) 平成13年11月4日, 地質学ともに学ぼう, 学会四国支部が設立総会, 愛媛新聞
- 5) 平成14年2月26日, 生命の海瀬戸内海, NHK, BSハイビジョンスペシャル
- 6) 平成14年3月6日, 愛媛大学沿岸環境科学研究センター研究発表会, 南海放送テレビ
- 7) 平成14年3月7日, 環境問題や液状化現象, 朝日新聞
- 8) 平成14年3月22日, 愛媛大学芸予地震学術調査団最終報告会, NHK テレビ

9. 3 講座, 講演会等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆：宇和海漁場環境調査の概要，宇和海漁場環境調査報告会，宇和島市，御荘町，八幡浜市（計3回），6月。
- 2) 武岡英隆：いのちを育む潮の流れ，第2回漁場環境保全市民講座，宇和島市，9月。
- 3) 武岡英隆：瀬戸内海から見た備讃瀬戸の水理構造と水質等の特徴，備讃瀬戸およびその隣接海域における環境の現況と保全に関する研究会，岡山市コンベンションセンター，10月。
- 4) 武岡英隆：Oceanic and off-shore science, The 2nd ECN-EU Joint Seminar 2001, 愛媛大学工学部，11月。
- 5) 宇和海の漁場環境とその最近の変化，浜揚げ真珠品評会記念講演，宇和島市，12月。
- 6) 武岡英隆：佐田岬沿岸域における海洋環境等について，伊方町“つくり育てる漁業勉強会”，伊方町，2月
- 7) 武岡英隆：沿岸環境問題におけるレジームシフトの可能性，九大総理工リサーチコア対応環境プロジェクト／キックオフ・シンポ「環境平衡型都市構築プロジェクトー福岡都市圏の再生へ向けた学際的アプローチ」，2月。
- 8) 武岡英隆：宇和海の漁場環境についてー2001年の北灘湾の調査からー，漁場環境研修会，津島町，3月。

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介：環境ホルモンについて，大分県高等学校教職員組合第14期労働講座，別府市，1月。
- 2) 田辺信介：海洋生物と環境ホルモン，愛媛県総合科学博物館地球環境セミナー，新居浜市，3月。
- 3) 田辺信介：環境ホルモに触まれるイルカたち，愛媛大学農学部大学探検プログラム，松山市，5月。
- 4) 田辺信介：環境ホルモに触まれるイルカたち，第2回千葉大学環境生命医学市民講座「我々をとりまく内分秘攪乱物質（環境ホルモン）」，千葉市，6月，講演要旨集，3-4。
- 5) 田辺信介：環境ホルモンの生体への影響について，平成13年度大分県薬剤師会通常総会薬学講習会特別講演，大分市，6月，講演要旨集，1-5。
- 6) 田辺信介：途上国におけるPOPs汚染問題，環境省環境研修センター国際環境協力専門家研修，所沢市，6月。
- 7) 田辺信介：環境ホルモンによる海棲哺乳動物の汚染，石川県教育センター研修講座高等学校理科（化学）（生物），金沢市，8月。
- 8) 田辺信介：スナメリと海の環境，スナメリフォーラム北九州，北九州市，8月。
- 9) 田辺信介：地球の生物が危ないー環境ホルモンでなんだー，科学系博物館活用推進事業，不思議がいっぱい科学の世界「宇宙と地球ー無限の可能性を秘めた世界」，松山市，8月。
- 10) 田辺信介：環境ホルモンと野生生物，愛媛県総合教育センター平成13年度環境教育研修講座，松山市，8月。
- 11) 田辺信介：環境ホルモンによる海の棲哺乳動物の汚染，第71回日本生物教育学会全国大会夏期研修会・愛媛大会，大洲市，8月，プログラム集，7-12。
- 12) 田辺信介：身近な環境問題と健康への影響を考える，愛媛看護協会看護総合研修会，松山，9月。
- 13) 田辺信介：残留性有機汚染物質（POPs）による地球規模の汚染とその生態影響，東海技術センター／環境パートナーシップCLUBフォーラム「化学物質による地球環境汚染を防止する」，名古屋，10月，資料集，2-6。
- 14) 田辺信介：環境ホルモンで何だ，愛媛県生涯学習センターコミュニティーカレッジ「リカレント学習セミナー」，松山，10月。
- 15) 田辺信介：残留性有機汚染物質の地球規模での環境動態と野生生物の汚染，第45回全国環境衛生大会，松山，10月，抄録集，83-86。
- 16) 田辺信介：開発途上国における海洋汚染の現状，国際協力事業団平成13年度第2回技術協力専門家養成研修，東京，10月。
- 17) 田辺信介：環境ホルモン，平成13年度市民教養講座，11月，松山市。
- 18) 田辺信介：環境ホルモンによる海洋汚染と生態系について，第9回但馬の自然を語る集い，12月，兵庫県但馬。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡：魚介類の病気ー感染と発病は違う，第2回漁場環境保全市民講座，宇和島市，9月。
- 2) 中野伸一：微生物ループ研究の夢は広がる：lentic & lotic environments, 極域の湖沼生態と環境モニタリングに関する研究小集会，国立極地研究所，1月。

3) 中野伸一：水圏生態系のしくみと養殖漁業—宇和海を例にして—。愛媛大学農学部附属農場，1月。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内美郎：瀬戸内海の「新しい環境問題」としての海砂利採取。愛媛県技術士会，松山市，5月
- 2) 井内美郎：瀬戸内海の「新しい環境問題」としての海砂利採取，松山市ロータリークラブ，松山市，3月。
- 3) 大森浩二：貯水池の自然度について，水源地生態研究会議，東京，9月。
- 4) 井内美郎：瀬戸内海海底砂堆積物の起源，備讃瀬戸及びその隣接水域における環境の現況と保全に関する研究会，岡山市，10月

10. 中島マリンステーション利用状況

日付	使用代表者	所属	利用目的	人数
H. 13. 4. 9~4. 12	井内 美郎	愛媛大学 CMES	貝原周辺海域音波探査	7
H. 13. 4. 11~4. 13	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	3
H. 13. 4. 17	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	1
H. 13. 4. 25	牧 理子	愛媛大学工学部	実験材料サンプリング	1
H. 13. 4. 26~4. 28	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	3
H. 13. 5. 1~5. 2	牧 理子	愛媛大学工学部	実験材料サンプリング	1
H. 13. 5. 8	牧 理子	愛媛大学工学部	材料サンプリング	2
H. 13. 5. 9~5. 12	金本自由生	愛媛大学 CMES	音波探査	4
H. 13. 5. 12~5. 18	井内 美郎	愛媛大学 CMES	来島海峡東方海域音波探査	5
H. 13. 5. 22~5. 23	牧 理子	愛媛大学工学部	アマモの採集	2
H. 13. 6. 5~6. 6	牧 理子	愛媛大学工学部	アマモのサンプリング	1
H. 13. 6. 7~6. 9	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	1
H. 13. 6. 14~6. 16	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	4
H. 13. 6. 2~6. 22	牧 理子	愛媛大学工学部	アマモのサンプリング	1
H. 13. 6. 21~6. 23	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	2
H. 13. 6. 28~6. 30	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	2
H. 13. 7. 4~7. 7	牧 理子	愛媛大学工学部	アマモの調査	1
H. 13. 7. 6~7. 7	原 弘巳	愛媛大学教育学部	教育学科1年生海洋研修	13
H. 13. 7. 11~7. 22	井内 美郎	愛媛大学理学部	貝原周辺海域音波探査	6
H. 13. 7. 12~7. 14	金本自由生	愛媛大学理学部	卒業研究	3
H. 13. 7. 17~7. 19	牧 理子	愛媛大学工学部	アマモのサンプリング	1
H. 13. 7. 19~7. 22	野田 善郎	愛媛大学理学部	臨海実習Ⅰ	36
H. 13. 7. 26~7. 28	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	3
H. 13. 8. 1~8. 29	金本自由生	愛媛大学 CMES	実験・実習補助	5
H. 13. 8. 14~8. 19	上田 拓史	愛媛大学 CMES	臨海実習Ⅱ	16
H. 13. 8. 19~8. 21	國頭 恭	愛媛大学 CMES	セミナー	38
H. 13. 8. 23~8. 29	井内 美郎	愛媛大学 CMES	竹原沖海域シーバット調査	5
H. 13. 9. 6~9. 7	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	2
H. 13. 9. 13~9. 15	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	2
H. 13. 10. 5~10. 6	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	3
H. 13. 10. 7~10. 8	児玉康比呂	愛媛大学学務部	学内駅伝競技実施場所調査	2
H. 13. 10. 12~10. 14	川寄 智祐	愛媛大学理学部	卒業研究	1
H. 13. 10. 18~10. 21	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	4
H. 13. 11. 2~11. 4	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	1
H. 13. 11. 16~11. 18	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	1
H. 13. 11. 29~12.	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	1
H. 13. 12. 5~12. 8	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	2
H. 13. 12. 13~12. 18	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業研究	2
H. 13. 12. 15~12. 16	遅沢 克也	愛媛大学農学部	沿岸生態観察及び学習会	17
H. 14. 3. 3~3. 5	上田 拓史	愛媛大学 CMES	他大学学生との合同ゼミ	11

以上、延べ利用者 923 人*日

実習調査船「とびうお」運行状況

日付	運行海域	目的
H.13.4.8	中島周辺	点検及び試験運転
H.13.4.9～4.122	貝原周辺海域	海底音波探査
H.13.5.8～5.9	北条沖	プランクトン・ベントス調査
H.13.5.12～5.17	来島海峡東方海域	海底波探査音
H.13.5.24	高浜～青島	学生実習(工学部)
H.13.5.31	高浜～北条	学生実習(工学部)
H.13.6.8～6.10	北条・堀江	採泥
H.13.7.11～7.14	貝原周辺海域	海底音波探査
H.13.7.19～7.21	貝原周辺海域	海底音波探査
H.13.7.27～7.28	北条沖	プランクトン・ベントス調査
H.13.8.2～8.5	北灘	海洋観測
H.13.8.7	来島海峡	海洋観測
H.13.8.15	中島周辺	学生実習(理学部)
H.13.8.24～8.25	貝原周辺海域	海底音波探査
H.13.8.26～8.28	竹原沖	海底音波探査
H.13.9.3～9.4	北条沖	プランクトン・ベントス調査
H.13.9.7	北条沖	海底音波探査
H.13.9.17～9.18	広島湾	プランクトン・ベントス調査海洋観測
H.13.10.16～10.17	北条沖	プランクトン・ベントス調査
H.13.11.5～11.6	伊予灘	資料採集
H.13.11.15	貝原周辺海域	海底音波探査
H.13.11.17	貝原周辺海域	海底音波探査
H.13.11.21	貝原周辺海域	海底音波探査
H.13.11.26～27	北条沖	プランクトン・ベントス調査
H.14.1.20	高浜沖	プランクトン・ベントス調査
H.14.1.23	北条沖	プランクトン・ベントス調査
H.14.3.5	高浜沖	採泥調査
H.14.3.8	北条沖	プランクトン・ベントス調査

以上、延べ運行日数50日

11. 研究員名簿および業績

(研究員：沿岸環境科学研究センター規定(13章参照)に基づき任命された学内の協力研究者)

11. 1 研究員名簿

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
佐野 栄	教育学部理科教育	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
柳沢康信	理学部生物地球圏科学科	教授	魚類の繁殖生態に関する研究	環境影響評価予測分野
堀 利栄	理学部生物地球圏科学科	助手	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
佐藤成一	理学部生物地球圏科学科	教授	淡水性藻類の細胞および細胞器官の形態形成	環境影響評価予測分野
小南哲也	理学部生物地球圏科学科	講師	海産動物である棘皮動物(特にウニ)を用いた発生学的研究	環境影響評価予測分野
中島敏幸	理学部生物地球圏科学科	助教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	環境影響評価予測分野
佐藤 康	理学部生物地球圏科学科	助手	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	環境影響評価予測分野
金田剛史	理学部生物地球圏科学科	助手	藻類の形態形成に関する研究	環境影響評価予測分野
井上幹生	理学部生物地球圏科学科	助手	河川性魚類の生息環境の解析	環境影響評価予測分野
山口正隆	工学部環境建設工学科	教授	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
伊福 誠	工学部環境建設工学科	助教授	エスチャリーにおける混合と循環に関する研究	環境動態解析分野
畑田佳男	工学部環境建設工学科	助手	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
鈴木幸一	工学部環境建設工学科	教授	河川・河口域の環境に関する研究	環境動態解析分野
渡邊政広	工学部環境建設工学科	助教授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
西村文武	工学部環境建設工学科	講師	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
中村孝幸	工学部環境建設工学科	助教授	沿岸構造物に関する研究	環境動態解析分野
増田理子	工学部環境建設工学科	講師	沿岸域の高等植物の保全に関する研究	生態系解析分野
脇本忠明	農学部生物資源学科	教授	ダイオキシン類の環境動態	生態環境計測分野
本田克久	農学部生物資源学科	教授 (寄付講座)	ダイオキシン類の分析法および処理技術の開発	生態環境計測分野
竹内一郎	農学部生物資源学科	教授	藻場生態系の保全	生態環境計測分野
井内國光	地域共同研究センター	助教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析分野

11. 2 研究員業績

柳沢康信 (理学部生物地球圏科学科)

- 1) Ochi, H., T. Onchi and Y. Yanagisawa: Alloparental care between catfishes in Lake Tanganyika, *Journal of Fish Biology*, 59, 1279-1286.
- 2) Ochi, H., A. Rossiter and Y. Yanagisawa: Biparental mouthbrooding of the catfish *Phyllonemus filinemus* in Lake Tanganyika, *Ichthyological Research*, 48, 225-229.
- 3) Sone, S., M. Inoue and Y. Yanagisawa: Habitat use and diet of two stream gobies of the genus *Rhinogobius* in south-western Shikoku, Japan, *Ecological Research*, 16, 205-219.
- 4) Ochi, H., T. Kanda and Y. Yanagisawa: Nest building and brooding behavior of the bagrid catfish, *Auchenoglanis occidentalis* (Valenciennes, 1840), in Lake Tanganyika, *Copeia*, 2001(2), 566-570.
- 5) Matsumoto, K. and Y. Yanagisawa: Monogamy and sex role reversal in the pipefish *Corythoichthys haematopterus*, *Animal Behaviour*, 61, 163-170.
- 6) Takahashi, D., M. Kohda and Y. Yanagisawa: Male-male competition for large nests as a determinant of male mating success in a Japanese stream goby, *Rhinogobius* sp. DA. *Ichthyological Research*, 48, 91-95.

堀 利栄 (理学部生物地球圏科学科)

- 1) 相田吉昭・酒井豊三郎・竹村厚司・堀 利栄・小玉一人・山北 聡・鎌田祥仁・鈴木紀毅・K. B. Sporli・J. A. Grant-Mackie・H. J. Campbell・C. J. Hollis: ニュージーランドの中生代テレーンに残された放散虫記録ー南半球高緯度域の古海洋環境の解明をめざしてー, *古生物学トピックス*, 2, 1-16.
- 2) 竹村厚司・相田吉昭・酒井豊三郎・堀 利栄・小玉一人・山北 聡・鎌田祥仁・鈴木紀毅・K. B. Sporli・H. J. Campbell: ニュージーランド北島, ワイパパテレーンの放散虫, *古生物学トピックス*, 2, 17-24.
- 3) 堀 利栄・J. A. Grant-Mackie・K. B. Sporli・相田吉昭・酒井豊三郎・小玉一人: 三疊紀後期 Austral 型 *Capnuchosphaera* (放散虫), *日本古生物学会第151回例会講演予稿集*, 39.

小南哲也 (理学部生物地球圏科学科)

- 1) Masui, M and Kominami, T.: Change in the adhesive properties of blastomeres during early cleavage stages in sea urchin embryo. *Dev. Growth Differ.*, 43(1), 43-53.
- 2) Masui, M., Yoneda, M. and Kominami, T.: Nucleus cell volume ratio directs the timing of the increase in blastomere adhesiveness in starfish embryos, *Dev. Growth Differ.*, 43(3), 295-304.
- 3) Takata, H. and Kominami, T.: Ectoderm exerts the driving force for gastrulation in the sand dollar *Scaphechinus mirabilis*, *Dev. Growth Differ.*, 43(3), 265-274.
- 4) Takata, H. and Kominami, T.: Shrinkage and expansion of blastocoel affect the degree of invagination in sea urchin embryos, *Zool. Sci.*, 18(8), 1097-1105.
- 5) Kominami, T., Takata, H. and Takaichi, M.: Behavior of pigment cells in gastrula-stage embryos of *Hemicentrotus pulcherrimus* and *Scaphechinus mirabilis*, *Dev. Growth Differ.*, 43(6), 699-707.

佐藤 康 (理学部生物地球圏科学科)

- 1) Sato, Y., Wuli, B., Sederoff, R. and Whetten, R.: Molecular cloning and expression of eight laccase cDNAs in loblolly pine (*Pinus taeda*), *J. Plant Res.*, 114, 147-155.
- 2) Hosokawa, M., Suzuki, S., Umezawa, T., Sato, Y.: Progress of lignification mediated by intercellular transportation of monolignols during tracheary element differentiation of isolated *Zinnia mesophyll* cells, *Plant Cell Physiol.*, 42, 959-968.
- 3) Sato, Y.: Spatial and temporal regulation of lignification during tracheary element differentiation, in *Molecular Breeding of Woody Plants*, Edited by Morohoshi, n. and Komamine, A., Elsevier Science B. V., 19-28.
- 4) Sato, Y., Sederoff, R. and Whetten, R.: Analyses of the laccase genes, *Lac1* and *Lac2*, expressed in differentiating xylem of loblolly pine, *J. Plant Res.*, 114(supplement), 127.

11. 研究員名簿および業績

井上幹生 (理学部生物地球圏科学科)

- 1) M. Inoue and S. Nakano: Fish abundance and habitat relationships in forest and grassland streams, northern Hokkaido, Japan, *Ecological Research*, 16, 233-247.
- 2) S. Sone, M. Inoue and Y. Yanagisawa: Habitat use and diet of two stream gobies of the genus *Rhinogobius* in southwestern Shikoku, Japan, *Ecological Research*, 16, 205-219.
- 3) A. Doi, T. Iwata, M. Inoue, H. Miyasaka, M. S. Sabki and S. Nakano: A collection of freshwater fishes in the Rayu basin of western Sarawak, Malaysia, *The Raffles Bulletin of Zoology*, 49, 13-17.

山口正隆 (工学部環境建設工学科)

- 1) 山口正隆・畑田佳男・大福 学・中野浩一：瀬戸内海西部海域における台風9918号時の風・波浪特性, 愛媛大学工学部紀要, 20, 179-188.
- 2) Hatada, Y., Yamaguchi, M. and M. Ohfuku: One-year comparison of wave hindcasts by backward ray tracing model and WAM, *Mem. of Fac. of Eng., Ehime Univ.*, XX, 189-199.
- 3) Yamaguchi, M. and Y. Hatada: Effect of coastal topography on wave climate in shallow water, *Proc. 11th Int. Offshore and Polar Eng. Conf.*, 3, 569-574.
- 4) 山口正隆・畑田佳男・野中浩一・大福 学：極地統計解析における層別化手法の適用性の検討, 海岸工学論文集, 48, 181-185.
- 5) 野中浩一・山口正隆・畑田佳男・大福 学：東シナ海における台風時波浪の極地の推定, 海岸工学論文集, 48, 191-195.
- 6) 山口正隆・畑田佳男・大福 学・野中浩一・李 義允：韓国南西沖合地点における台風0012号時の波浪の推定, 海岸工学論文集, 48, 241-245.
- 7) Hatada, Y. and M. Yamaguchi: A system for estimating wave climate and wave extremes based on 20-year wave hindcast and its verification at the measurement stations around Japanese coasts, *Proc. of WAVES 2001*, 1, in press.
- 8) Yamaguchi, M. and Y. Hatada: Extreme value analysis model for censored sample and its application to the measurement data, *Proc. of WAVES 2001*, 1, in printing.
- 9) 畑田佳男・山口正隆・大福 学・李 敏杰・野中浩一：波浪の20年推算システムの日本沿岸における適用性, 自然災害科学 J. JSNDS, 20 (3), 307-324.

伊福 誠 (工学部環境建設工学科)

- 1) Makoto Ifuku: CONTROL OF SALINE WATER INTRUSION BY AIR BUBBLES, *Journal of Hydroscience and Hydraulic Engineering*, 19(2), 119-128.

畑田佳男 (工学部環境建設工学科)

- 1) Yoshio Hatada and Masataka Yamaguchi: A System for Estimating Wave Climate and Wave Extremes Based on 20-Year Wave Hindcast and its Verification at the Measurement Stations around Japanese Coasts *Proc., WAVES'01* (in printing).
- 2) 畑田佳男・山口正隆・大福 学・李 敏杰・野中浩一：波浪の20年推算システムの日本沿岸における適用性, 自然災害科学 J. JSNDS, 20 (3), 307-324.
- 3) 野中浩一・山口正隆・畑田佳男・大福 学：東シナ海における台風時波浪の極値の推定, 海岸工学論文集, 48, 191-195.
- 4) 山口正隆・畑田佳男・野中浩一・大福 学：韓国南西岸沖合地点における台風0012号時の波浪の推定, 海岸工学論文集, 48, 241-245.

渡辺政広 (工学部環境建設工学科)

- 1) 渡辺政広・西村文武・重田尚秀・小林康司：都市流域の不浸透流出面（屋根面，道路面）における雨水・汚濁負荷流出特性, 水工学論文集, 45, 55-60.
- 2) 神田 徹・神吉和夫・渡辺政広・前田康宏：都市小流域への SWMM の適用におけるモデル・パラメータの値について, 水工学論文集, 45, 79-84.
- 3) 渡辺政広・神田 徹・田中祐大・神吉和夫：マンホール蓋飛散の水理解析モデルと水理模型実験, 水工学論文集, 45, 907-912.
- 4) 渡辺政広・重田尚秀・小林康司：都市域の屋根面・道路面における雨天時汚濁負荷流出特性, 愛媛大学工学部

紀要, 20, 143-153.

- 5) 渡辺政広・田中祐大・岡田将人: 下水道マンホール蓋飛散の水理模型実験と水理解析モデル, 愛媛大学工学部紀要, 20, 155-166.
- 6) Watanabe, M., T. Kanda, Y. Tanaka and K. Kanki: Pressurized flow with masses of air at manholes in storm sewer pipe systems, Proc. 4th Int. Conf. on Innovative Technologies in Urban Drainage, 2, 851-858.

西村文武 (工学部環境建設工学科)

- 1) F. Nishimura: Alternation and Reduction Characteristics of Activated Sludge by Ozonation, Journal of KKNN(Advances in Asian Environmental Engineering), 1(1), 33-38.
- 2) 渡辺政広・西村文武・重田尚秀・小林康司: 都市域の不透流出面(屋根面, 道路面)における雨水・汚濁負荷流出特性, 水工学論文集, 45, 55-60.
- 3) Fumitake Nishimura and Yukinari Kobata: CHARACTERISTICS OF NITROGEN REMOVAL FROM HIGHLY CONCENTRATED WASTEWATER WITH VAN SLYKE TYPE REACTION, Proceedings of the 11th Joint KAIST-KYOTO-NTU-NUS Symposium in Environmental Engineering, 111-118.
- 4) F. Nishimura, G. Kato and T. Fujiwara: Improvement and Reduction of Activated Sludge by ozonation and its application to wastewater treatment, Proceedings of the 15th OZONE WORLD CONGRESS London 2001(I), 324-331.
- 5) F. Nishimura: Treatment characteristics and operational parameters of a reactor with airlift pump and dynamic filtration for nitrogen removal Proceedings of Water Resource Management seminar, JSPS-VCC Program on environmental science, Engineering and ethics, October 8-9, 88-95.
- 6) F. Nishimura, M. Watanabe, R. Takahashi and T. Akase: RUN-OFF CHARACTERISTICS OF NUTRIENTS FROM CITRUS FRUIT GROVE AND ITS EFFECTS ON WATER AREA, Proceedings of the 5th International Symposium on Waste management Problems In Agro-Industries, 19-26.
- 7) F. Nishimura, R. Yatabe, K. Yokota and N. Yagi: General characteristics of Landslides in Ehime Region Proceedings of the international symposium on GEOTECHNICAL & ENVIRONMENTAL CHALLENGES IN MOUNTAINOUS TERRAIN, 397-401
- 8) 西村文武: オゾンによる下水汚泥の可溶化特性と溶出物質に関する基礎的研究, 愛媛大学工学部紀要, 20, 167-172.

増田理子 (工学部環境建設工学科)

- 1) Masuda, M., Yahara, T. and Maki, M.: An Evolutionary Stable Strategy (ESS) model for the mixed production of cleistogamous and chasmogamous flowers in a facultative cleistogamous plant Evolutionary Ecology Research, 3, 429-439.
- 2) Masuda, M.: Plant invasion, status of *Coreopsis lanceolata* L. in Japan, International Symposium on Geotechnical & Environmental Challenges in Mountainous Terrain, 1, 376-382.

本田克久 (農学部生物資源学科)

- 1) 山下正純・脇本忠明・中村裕史・濱田典明・本田克久: ダイオキシン類削減型小型焼却炉の実証試験, 環境化学, 11 (3), 549-556.

竹内一郎 (農学部生物資源学科)

- 1) Takeuchi, I., Takahashi, S., Tanabe S. and Miyazaki N.: Caprella watch, a new approach for monitoring butyltin residues in the ocean, Marine Environmental Research, 52(2), 97-113.
- 2) Takeuchi, I., Watanabe, K., Tanimura, A. and Fukuchi, M.: Assemblages of necrophagous animals off Enderby Land, East Antarctica, Polar Biology, 24, 650-656.
- 3) 竹内一郎: 日本沿岸におけるワレカラ類(甲殻綱: 端脚目)の種多様性について, 地球環境, 6(1), 61-67.
- 4) Yoshikawa, T., Takeuchi, I. and Furuya, K.: Active erosion of *Undaria pinnatifida* Suringar (Laminariales, Phaeophyceae) mass-cultured in Otsuchi Bay in the northeastern Japan, Journal of Experimental Marine Biology and Ecology, 266, 51-65.

井内国光 (地域共同研究センター)

- 1) 井内国光・柿沼忠男: 砂モデル実験による海岸地下水の非定常挙動, 陸水学雑誌, 62 (1), 41-50.

12. 客員研究員名簿および業績

(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規定(13章参照)に基づき委嘱された学外の協力研究者)

12. 1 客員研究員名簿

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
磯田 豊	北海道大学大学院水産科学研究科	助教授	沿岸域の流動とモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
原島 省	独立行政法人国立環境研究所水圏環境研究領域	室長	瀬戸内海のモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
門谷 茂	北海道大学大学院水産科学研究科	教授	瀬戸内海の栄養塩動態に関する研究	環境動態解析分野
塚本 秀史	弓削商船高等専門学校情報工学科	助教授	燧灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
橋本 俊也	広島大学生物生産学部	助教授	生態系モデルに関する研究	環境動態解析分野
高橋 暁	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター海洋資源環境研究部門	主任研究員	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析分野
森本 昭彦	水産大学校海洋生産管理学科	助手	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析分野
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所力学シミュレーションセンター	教授	沿岸海域の物質循環に関する研究	環境動態解析分野
松野 健	九州大学応用力学研究所海洋大気力学部門	教授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析分野
磯辺 篤彦	九州大学大学院総合理工学研究院	助教授	周防灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
市川 香	九州大学応用力学研究所	助教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析分野
清水 学	九州大学応用力学研究所	助手	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
藤田 正一	北海道大学大学院獣医学研究科	教授	野生動物の薬物代謝機能と有害物質の毒性影響	生態環境計測分野
原 彰彦	北海道大学大学院水産科学研究科	教授	海産魚類における内分泌攪乱物質の影響	生態環境計測分野
宮崎 信之	東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター	教授	海棲哺乳類の生活史とその環境	生態環境計測分野
新井 崇臣	東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター	助手	サケ科魚類を用いた環境モニタリング	生態環境計測分野
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域	室長	多環芳香族炭化水素, 有機スズ化合物, 重金属類および POPs 関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	生態環境計測分野
功刀 正行	独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域	主任研究員	有害化学物質による海洋汚染の動態解明	生態環境計測分野
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域	主任研究員	巻貝類の内分泌攪乱の実態及び機構の解明	生態環境計測分野
森 千里	千葉大学大学院医学研究院環境生命医学領域	教授	内分泌攪乱物質の人体汚染における生殖機能や次世代に対する影響	生態環境計測分野
小宮山正敏	千葉大学大学院医学研究院環境生命医学領域	助手	GFP マウスを用いた精子形成障害評価法の開発と生殖障害のメカニズムの解析	生態環境計測分野

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	研 究 長	鯨類と海洋生態系における環境化学物質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関する研究	生態環境計測分野
高田 秀重	東京農工大学農学部環境資源科学科	助教授	東南アジア地域における微量有機汚染物質の分布・発生源・動態の解明	生態環境計測分野
井口 泰泉	岡崎国立共同研究機構統合バイオサイエンスセンター	教 授	内分泌攪乱物質	生態環境計測分野
松井 三郎	京都大学地球環境学大学院	教 授	世界の湖沼環境管理のための国際協力のありかた	生態環境計測分野
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究院生物機能科学部門	助教授	水生生物における化学物質の影響	生態環境計測分野
有菌 幸司	熊本県立大学環境共生学部環境共生科	教 授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	生態環境計測分野
吉水 守	北海道大学大学院水産科学研究科	教 授	海洋生物のウイルス性疾病の制御に関する研究	生態系解析分野
中村 泰男	国立環境研究所海洋環境研究室	主 任 研究員	沿岸域海洋生態系における物質循環	生態系解析分野
小池 勲夫	東京大学海洋研究所	教授／所長	海洋中の生元素動態に関する研究	生態系解析分野
古谷 研	東京大学大学院農学生命科学研究科	教 授	プランクトンの生態と基礎生産過程	生態系解析分野
木暮 一啓	東京大学海洋研究所海洋生態系動態部門	教 授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析分野
千浦 博	国際基督教大学教養学部理学科	準教授	海洋中での遺伝情報伝播機構と生物進化に関する研究	生態系解析分野
永田 俊	京大大学生態学研究センター	教 授	水圏における溶存態有機物の動態に関わる微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析分野
川端善一郎	京大大学生態学研究センター	教 授	水圏微生物の実験生態学的研究	生態系解析分野
田中 克	京都大学大学院農学研究科	教 授	有明海の海産生物に関する研究	生態系解析分野
今井 一郎	京都大学大学院農学研究科	助教授	有害有毒プランクトンの生活史と生理生態学	生態系解析分野
上 真一	広島大学生物生産学部生産海洋学	教 授	海洋動物プランクトンの生産生態学的研究	生態系解析分野
大塚 攻	広島大学生物生産学部附属水産実験所	助教授	カイアシ類の分類および形態学的研究	生態系解析分野
高橋 正征	東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系	教 授	プランクトン生態系の構造と環境変動に対する生態系応答	生態系解析分野
深見 公雄	高知大学農学部栽培漁業学科	教 授	海洋物質循環における微生物の役割と相互作用に関する研究	生態系解析分野
木下 泉	高知大学海洋生物教育研究センター	教 授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生態系解析分野
立石 雅昭	新潟大学理学部地質科学科	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
松岡 篤	新潟大学理学部地質科学科	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—プランクトンに関する研究—	環境影響評価予測分野
金井 豊	独立行政法人産業技術総合研究所深部地質環境研究センター地球化学チーム	研 究 チーム 長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
西村 清和	独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門	主 任 研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
斉藤 文紀	独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門沿岸環境保全研究グループ	グループ 長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野

12. 客員研究員名簿および業績

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
池原 研	独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門海洋地質研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
星加 章	独立行政法人産業技術総合研究所 中国センター海洋資源環境研究部門生態系環境修復創造研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野
三島康史	独立行政法人産業技術総合研究所 中国センター海洋資源環境研究部門生態系環境修復創造研究グループ	主任研究官	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野
高杉由夫	独立行政法人産業技術総合研究所 中国センター海洋資源環境研究部門海洋動態モニタリング研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
公文富士夫	信州大学理学部物質循環学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
横田喜一郎	滋賀県琵琶湖研究所滋賀県琵琶湖環境部	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野
吉川周作	大阪市立大学大学院理学研究科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
三瓶良和	島根大学総合理工学部地球資源環境学教室	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
高安克己	島根大学汽水域研究センター	教授/センター長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
長谷川修一	香川大学工学部安全システム建設工学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
仲谷英夫	香川大学工学部安全システム建設工学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
松岡數充	長崎大学水産学部海洋資源動態科学講座	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—プランクトンに関する研究—	環境影響評価予測分野
本座栄一	熊本大学大学院自然科学研究科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
前田広人	鹿児島大学水産学部資源利用科学講座	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野
山田 格	国立科学博物館 動物研究部	室長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	環境影響評価予測分野

12. 2 客員研究員業績

磯田 豊 (北海道大学大学院水産科学研究科)

- 1) 森 康輔・磯田 豊・村上 敬・大谷清隆：津軽海峡南西海域における深層流の長周期変動，海の研究，10，1-13.
- 2) Azumaya, T., Y. Isoda and S. Noriki: Modeling of the spring bloom in Funka Bay, Japan, Contin. Shelf Res., 21, 473-494.
- 3) Shimizu, M., Y. Isoda and K. Baba: A late winter hydrography in Hidaka Bay south of Hokkaido, Japan, J. Oceanogr., 57, 385-395.
- 4) 舘澤 寛・磯田 豊：津軽海峡東方 PH 線上における 26.7~26.8σθ 水の季節・経年変化，海と空，77，25-33.

原島 省 (独立行政法人国立環境研究所水圏環境研究領域)

- 1) 原島 省・Jae-Ryoung Oh・Sun-Hyung Kahng：フェリーによる環境モニタリングの現状と課題，沿岸海洋研究，38，80-91.
- 2) Harashima, A.: Near real-time monitoring of biochemical parameters in the ocean, Proceedings of Abstract for 5th IOC/WESTPAC International Scientific Symposium, August, Seoul, (with extended abstract contained in CDROM Version of the Proceedings), 154.
- 3) 原島省: アジア沿岸海域の環境モニタリングと (N, P) /Si 問題，地球環境研究，6 (1)，国際環境研究協会，93-104.

門谷 茂 (北海道大学大学院水産科学研究科)

- 1) Okazaki, K., Iwaoka, T., Murakami, N., Ichimi, K. and Montani, S.: Production of monoclonal antibody against *Scrippsiella trochoidea* cysts and its application to analysis during cyst formation and enzyme-liked immunosorbent assay, *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 65, 470-473.
- 2) Tutsumi, H., Wainright, S., Montani, S., Saga, M., Ichihara, S. and Kogure, K.: Exploitation of a chemosynthetic food resource by the polychaete, *Capitella* sp. I, *Marine Ecology Progress Series*, 216, 119-127.
- 3) 多田邦尚・濱田健一郎・門谷 茂・山田真知子: 過栄養海域 (北九州市・洞海湾) における植物プランクトン群集のサイズ組成, *海と空*, 77, 9-15.
- 4) 小濱 剛・門谷 茂・梶原葉子・山田真知子: ムラサキガイ及びビコウロエンカワヒバリガイの個体群動態と過栄養海域における環境との関係, *日本水産学会誌*, 67, 664-671.
- 5) Tada, K., Morishita, M., Yamada, M. and Montani, S.: Primary productivity in a hypereutrophic enclosed bay, Dokai Bay, Japan, *Marine Pollution Bulletin*, 42, 1178-1187.
- 6) Ichimi, K. and Montani, S.: Effects of deposit feeder ingestion on the survival and germination of marine flagellate cysts, *Fisheries Science*, 67, 1179-1181.
- 7) Chaiyanate, N. and Montani, S.: Response of macrobenthic community to seasonal sediment environmental parameter changes in tidal estuary of the Seto Inland Sea, Japan, *La mer*, 39, 163-171.

その他

- 8) 門谷 茂: 5 章海洋環境への影響, 河口・干潟域, 地球温暖化の日本への影響, 環境省地球温暖化問題検討委員会, 温暖化影響評価ワーキンググループ, 271-275.
- 9) 門谷 茂: 英和和英水産学用語辞典 (海洋環境部門の項目), 日本水産学会編, 恒星社厚生閣, 463.

塚本秀史 (弓削商船高等専門学校情報工学科)

- 1) 塚本秀史・多田光男, 秋山秀樹, 緒方純俊: 来島海峡南東部の潮汐フロント形成場所と地形影響の検証, *航海学会誌*, 104.
- 2) 塚本秀史・多田光男: GPS と海水ポンプを利用した海面水温の観測, *弓削商船要*.
- 3) 塚本秀史・清田耕司・世登順三・多田光男・二村 彰: 2000年夏季における燧灘の水温・塩分 DO および潮流の観測, *広島商船紀要*.
- 4) 塚本秀史・柳 哲雄: 瀬戸内海の赤外・海色画像, *沿岸海洋研究*.

橋本俊也 (広島大学生物生産学部)

- 1) 橋本俊也・柳 哲雄・石坂丞二・小田原主尚・松浦瑞恵: 海色画像による赤潮監視の可能性, *沿岸海洋研究*, 39, 15-19.
- 2) Yamamoto, T., T. Seike, T. Hashimoto and K. Tarutani: Modelling the population dynamics of the toxic dinoflagellate *Alexandrium Tamarense* in Hiroshima Bay Japan, *J. Plankton Res.*, 24, 33-47.

森本昭彦 (水産大学校海洋生産管理学科)

- 1) A. Morimoto and T. Yanagi: Variability of sea surface circulation in the Japan Sea, *J. Oceanography*, 57 (1), 1-13.
- 2) 森本昭彦: 海面高度計による海表面流動場の推定, *沿岸海洋研究*, 39 (1), 27-37.
- 3) 森本昭彦: 複数衛星高度計データを用いた日本海の潮汐調和定数推定方法の研究, 九州大学応用力学研究所共同研究報告, 88-90.
- 4) A. Morimoto and T. Yanagi: Sea surface current in the Japan (East) Sea derived from satellite altimetric data, *Proc. of the 11th PAMS/JECSS*, 105-108.

柳 哲雄 (九州大学応用力学研究所力学シミュレーションセンター)

- 1) Yanagi, T., G. Onitsuka, N. Hirose and J. H. Yoon: A numerical simulation on the mesoscale dynamics of the spring bloom in the Sea of Japan, *J. Oceanogr.*, 57, 617-630.
- 2) Yanagi, T., S. Sachoemar, T. Takao and S. Fujiwara: Seasonal variation of stratification in the Gulf of Thailand, *J. Oceanogr.*,

57, 461-470.

- 3) Yanagi, T.: Ocean circulation in the Asian marginal seas, ICIWP'99, 1-10.
- 4) 林 美鶴・柳 哲雄: 数値生態系モデルによる大阪湾奥部におけるリン循環過程の解析, 海の研究, 10, 203-217.
- 5) 柳 哲雄: 海洋環境モニタリングと情報ネットワーク, 沿岸海洋研究, 38, 99-102.
- 6) 柳 哲雄・山田真知子・中嶋雅孝: 洞海湾と博多湾の富栄養化の比較, 海の研究, 10, 275-283.
- 7) 万田敦昌・柳 哲雄: 八代海における高潮の発生要因—台風9119号と9918号の比較—, 海の研究, 10, 285-295.
- 8) 清水 学・柳 哲雄・野村宗弘・古川恵太: 東京湾の大潮—小潮期における残差流変動, 海の研究, 10, 413-422.
- 9) 鬼塚 剛・柳 哲雄・広瀬直毅・尹 宗煥: 衛星画像を用いた沿岸海況予測, 沿岸海洋研究, 39, 39-50.
- 10) 万田敦昌・磯辺篤彦・松野 健・柳 哲雄・韓 仁盛・神尾光一郎: 東シナ海における黒潮前線渦周辺の水塊分布及び流動構造の時空間分布, 沿岸海洋研究, 39, 57-67.
- 11) 塚本秀史・柳 哲雄: 瀬戸内海の赤外・海色画像, 沿岸海洋研究, 39, 9-13.
- 12) 橋本俊也・柳 哲雄・石阪丞二・小田原主尚・松浦瑞穂: 海色画像による赤潮監視の可能性, 沿岸海洋研究, 39, 15-19.
- 13) 陣矢大助・門上希和夫・岩村幸美・濱田建一郎・山田真知子・柳 哲雄: 閉鎖性内湾—洞海湾における化学物質の分布と挙動, 水環境学会誌, 24, 441-446.

磯辺篤彦 (九州大学大学院総合理工学研究院)

- 1) Han, I-S., K. Kamio, T. Matsuno, A. Manda and A. Isobe: High frequency current fluctuations and cross-shelf flows around the pycnocline near the shelf break in the East China Sea, *Journal of Oceanography*, 57, 235-249.
- 2) Isobe, A. and T. Namba: The circulation in the upper and intermediate layers of the South China Sea, *Journal of Oceanography*, 57, 93-104.
- 3) 万田敦昌・磯辺篤彦・松野 健・柳 哲雄・韓 仁盛・神尾光一郎: 黒潮前線波動周辺の水塊分布及び流動構造の時空間変動, 沿岸海洋研究, 39, 57-67.
- 4) 神蘭真人・池内 仁・杉野浩二郎・本田清一・佐藤利幸・磯辺篤彦: 福岡湾の窒素・リン収支, 沿岸海洋研究, 38, 131-138.

市川 香 (九州大学応用力学研究所)

- 1) K. Ichikawa: Variation of the Kuroshio in the Tokara Strait induced by meso-scale eddies, *J. Oceanogr.*, 57(1), 55-68.

清水 学 (九州大学応用力学研究所)

- 1) 清水 学・柳 哲雄・野村宗弘・古川恵太: 東京湾の大潮—小潮期における残差流変動, 海の研究, 10 (5), 413-422.
- 2) Shimizu, M., Y. Isoda and K. Baba: A Late Winter Hydrography in Hidaka Bay, South of Hokkaido, Japan, *J. Oceanogr.*, 57 (4), 385-395.
- 3) 松野 健・柳尾茂文・清水 学・秋重祐章・吉村 浩・高木保昌: 東シナ海陸棚縁辺部の黒潮に貫入する低塩分水層, 23 (3), 九州大学大学院総合理工学報告, 311-317.
- 4) Matsuno, T., I. S. Han, M. Shimizu, A. Valle-Levinson, A. Isobe and T. Yanagi: Short time scale variability of the Kuroshio front in the East China Sea, *Proc. 11th PAMS/ JECSS*, 59-62.

原 彰彦 (北海道大学大学院水産科学研究科)

- 1) Naoshi Hiramatsu, Haruhisa Fukuda, Craig V. Sullivan and Akihiko Hara: Simple and sensitive detection of vitellogenin receptor(s) in Sakhalin taimen (*Hucho perryi*), *Bull. Fish. Sci., Hokkaido Univ.*, 52(1), 5-9.
- 2) 飯島憲章・植松一眞・下川真理子・石井裕子・大嶋雄治・藤井一則・橋本伸哉・原 彰彦・山田 久: 瀬戸内海周防灘及び広島湾のマコガレイに対するエストロゲン様内分泌攪乱物質の影響実態, 環境毒性学会誌, 4 (1), 45-53.
- 3) Haruhisa Fukuda, Ayumu Haga, Toshiaki Fujita, Naoshi Hiramatsu, Craig V. Sullivan and Akihiko Hara: Development and validation of chemiluminescent immunoassay for vitellogenin in five salmonid species, *Comp. Biochem. Physiol.*, A130, 163-170.
- 4) Shiya Mizuno, Kazuhiro Ura, Yoshifumi Onodera, Haruhisa Fukuda, Naoyuki Misaka, Akihiko Hara, Shinji Adachi and Ko-

- hei Yamauchi: Changes in transcript levels of gill cortisol receptor during smoltification in wild masu salmon, *Oncorhynchus masou*. *Zool. Sci.*, 18, 853-860.
- 5) Naoshi Hiramatsu, Haruhisa Fukada, Makito Kitamura, Munetaka Shimizu, Hirotooshi Fuda, Kunihiko Kobayashi and Akihiko Hara: Serum immunoglobulin M (IgM) in Sakhalin taimen (*Hucho perryi*), Purification, characterization, circulating levels, and specific IgM production by the parasitic *Salmincola stellatus*, *Suisanzoshuku*, 49(3), 374-355.
 - 6) Yorihiro Yamamoto, Akio Fujisawa, Akihiko Hara and Walter C. Dunlap: An unusual vitamin E constituent (α -tocomonoenol) provides enhanced antioxidant protection in marine organisms adapted to coldwater environments, *PNAS*, 98 (23), 13144-13148.
 - 7) Ayumu Haga, Haruhisa Fukuda, Toshiaki Fujita, Naoshi Hiramatsu and Akihiko Hara: Estimation of baseline vitellogenin level in male salmonid serum, *Environmental Sci.*, 8(2-3), Myu, Tokyo, 173.
 - 8) Shigeru Mihara, Kazuaki Iguchi, Minoru Hoshino, Masahiko Hirai, Hiroyoshi Fujino and Akihiko Hara: Development and validation of a sensitive ELISA for vitellogenin in salmonids, *Environmental Sci.*, 8(2-3), Myu, Tokyo, 197.
 - 9) Hiroyoshi Fujino, Norihisa Oda and Akihiko Hara: Development of an SRID plate kit for salmonid vitellogenin. *Environmental Sci.*, 8(2-3), Myu, Tokyo, 198.
 - 10) Akihiko Hara: Vitellogeni in male fish as a biomarker for estrogenic contamination of the aquatic environment, *Proceedings of the Japan Society for Comparative Endocrinology*, 16, 1. Abstracts of the 26th annual meeting and the 26th symposium on "The Present State of and New Trends in Studies of Endocrine Disruptors" and "Comparative Aspects of Biophylaxis" Tokyo, Dec. 1-2.
 - 11) Akihiko Hara, Naoshi Hiramatsu, Kiyoshi Soyano and Takahiro Matsubara: Vitellogenin in male fish as a bio-marker for estrogenic contamination of the aquatic environment, *Papers and Proceedings, Inauguration conference and first academic symposium, CLARINET*, 8-9, Kangnung, Korea, 159-161.
 - 12) 原 彰彦: 魚類の卵形成と雌特異蛋白質ピテロジェニン-環境ホルモンのバイオマーカー, *化学と生物*, 39 (1), 29-36.
 - 13) 原 彰彦: 魚類卵黄タンパク質前駆物質に関する免疫生化学的研, *Nippon Suisan Gakkaishi*, 67 (3), 405-408.
 - 14) 原 彰彦, 清水宗敬, 藤田敏明: 卵膜蛋白の血中前駆体による免疫生化学的雌雄判別及び他の血中雌蛋白の検索, 平成10年度生態系保全型種苗生産技術開発研究成果の概要, 水産庁, 113-123.
 - 14) 原 彰彦・千葉仁志: 環境ホルモンのバイオマーカーとしての魚類ピテロジェニンに関する研究, 秋山記念生命科学振興財団 研究成果報告集 <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~a-found/>平成10年度一般助成, 1-7.

荒井嵩臣 (東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター)

- 1) Arai Takaomi, Aoyama Jun, Ishikawa Satoshi, Miller Michael J., Otake Tsuguo, Inagaki Tadashi and Tsukamoto Katsumi: Early life history of tropical *Anguilla leptocephali* in the western Pacific Ocean, *Marine Biology*, 138, 887-895.
- 2) Arai Takaomi, Limbong Daniel, Otake Tsuguo and Tsukamoto Katsumi: Recruitment mechanisms of tropical eels, *Anguilla* spp., and implications for the evolution of oceanic migration in the genus *Anguilla*, *Marine Ecology Progress Series*, 216, 253-264.
- 3) Marui Miho, Arai Takaomi, Miller Michael J., Jellyman Donald J. and Tsukamoto Katsumi: Comparison of early life history between New Zealand temperate eels and Pacific tropical eels revealed by otolith microstructure and microchemistry, *Marine Ecology Progress Series*, 213, 273-284.
- 4) Tsukamoto Katsumi and Arai Takaomi: Facultative catadromy of the eel, *Anguilla japonica*, between freshwater and seawater habitats, *Marine Ecology Progress Series*, 220, 265-276.
- 5) Sugeha Hagi Yulia, Shinoda Akira, Marui Miho, Arai Takaomi and Tsukamoto Katsumi: Validation of otolith daily increments in the tropical eel *Anguilla marmorata*, *Marine Ecology Progress Series*, 220, 291-294.
- 6) Sugeha Hagi Yulia, Arai Takaomi, Miller Michael J., Limbong Daniel and Tsukamoto Katsumi: Inshore migration of the tropical eels *Anguilla* spp. recruiting to the Poigar River estuary on north Sulawesi Island, *Marine Ecology Progress Series*, 221, 233-243.
- 7) Arai Takaomi and Miyazaki Nobuyuki: Use of otolith microchemistry to estimate the migratory history of the Russian sturgeon, *Acipenser guldenstadti*, *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 81, 709-710.
- 8) 櫻井 真・新井崇臣: 岩手県大槌湾産ウミタナゴ科3種の出産時期, *魚類学雑誌*, 48, 121-124.

- 9) Arai Takaomi, Marui Miho, Miller Michael J and Tsukamoto Katsumi: Early life history and inshore migration of the tropical eel, *Anguilla marmorata* in the Pacific, Proceedings of the International symposium "ADVANCES IN EEL BIOLOGY", 119-121.
- 10) Shinoda Akira, Arai Takaomi and Tsukamoto Katsumi: Recruitment of *Anguilla japonica* glass eels to the coastal waters of East Asia, Proceedings of the International symposium "ADVANCES IN EEL BIOLOGY", 116-118.
- 11) Sugeha Hagi Yulia, Watanabe Shun, Arai Takaomi, Aoyama Jun, Limbong Daniel and Tsukamoto Katsumi: Inshore migration of tropical glass eels (*Anguilla* spp.) to the Poso River, Central Sulawesi Island, Indonesia, Proceedings of the International symposium "ADVANCES IN EEL BIOLOGY", 122-124.
- 12) Kotake Aya, Arai Takaomi, Ozawa Takakazu, Nojima Satoshi and Tsukamoto Katsumi: Migratory history of *Anguilla japonica* collected in coastal waters of the Amakusa Islands, Japan, inferred from otolith Sr/Ca ratios, Proceedings of the International symposium "ADVANCES IN EEL BIOLOGY", 140-142.

柴田康行 (独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域)

- 1) A. Chatterjee, Y. Shibata, A. Tanaka and M. Morita: Determination of selenoethionine by flow injection hydride generation-atomic absorption spectrometry/hydride generation-high performance liquid chromatography-high power nitrogen-microwave induced plasma mass spectrometry, *Anal. Chim. Acta.*, 436, 253-263.
- 2) A. Chatterjee, Y. Shibata and M. Morita: Determination of selenomethionine by high performance liquid chromatography direct hydride generation atomic absorption spectrometry, *Microchem. J.* 69, 179-187.
- 3) A. Z. M. Shaifullah Chowdhury and Y. Shibata: Synthesis of fused pyrimidines with N-S-heterocyclic moieties by double-annulation reaction, *J. Heterocyclic Chem.*, 38, 743-747.
- 4) A. Z. M. Shaifullah Chowdhury and Y. Shibata: Synthesis and transformations of prido(4, 3-d)-pyrimidines with N-heterocycles moieties, *Heterocycles*, 55, 115-125.
- 5) A. Z. M. Shaifullah Chowdhury and Y. Shibata: Synthesis of new fused pyrimidines by isocyanate and isothiocyanate, *Chem. Pharm. Bull.*, 49, 391-395.
- 6) 陸 明・堀口敏広・白石寛明・柴田康行・安保 充・大久保明・山崎素直: ガスクロマトグラフィー/質量分析法による海産巻貝類におけるステロイドホルモンの同定と定量, *分析化学*, 50, 247-255.
- 7) Y. Yamaoka, M. L. Carmona, J. M. Oclarit, K. Jin and Y. Shibata: Arsenic compounds in marine sponge (*Haliclona permolis*, *Halichondria japonica*, *Halichondria okadai* and *Haliclona* sp. White) from Seto Inland Sea, Japan, *Appl. Organomet. Chem.*, 15, 261-265.
- 8) A. Chatterjee, Y. Shibata, J. Yoshinaga and M. Morita: Estimation of arsenobetaine in the NIES candidate certified reference material No. 18 human urine by HPLC-ICP-MS using different chromatographic conditions, *Appl. Organomet. Chem.*, 15, 306-314.
- 9) Y. Tani, K. Yoshi, N. Ito, F. Nara, M. Soma, A. Tanaka, Y. Soma, M. Yoneda, M. Hirota and Y. Shibata: Distribution of photosynthetic pigments and other biogenic compounds in the sediments from the southern basin of Lake Baikal, *Russian Geol. Geophys.*, 42, 206-212.
- 10) H. Sakai, Sh. Nomura, S. Akira, K. Kashiwaya, Y. Tani, Y. Shibata, T. Kawai, V. A. Kravchinskii, J. Peck and J. King: Magnetic susceptibility of the surface sediments of Lake Baikal and Lake Biwa, *Russian Geol. Geophys.*, 42, 339-347.
- 11) A. Z. M. Shaifullah Chowdhury, Y. Shibata, M. Morita, K. Kaya and T. Sano: One pot synthesis of fused pyrimidines from 2-[N-(methylthiothiocarbonyl)amino] acetate, *Heterocycles*, 55, 1747-1757.
- 12) A. Chatterjee, Y. Shibata, M. Yoneda, R. Banerjee, M. Uchida, H. Kon and M. Morita: Identification of volatile selenium compounds produced in the hydride generation system from organoselenium compounds, *Anal. Chem.*, 73, 3181-3186.
- 13) A. Z. M. Shaifullah Chowdhury, Y. Shibata, M. Morita, K. Kaya and T. Sano: Synthesis of new heterocondensed pteridines, *J. Heterocyclic Chem.*, 38, 1173-1177.
- 14) K. Matsumoto, K. Kawamura, M. Uchida, Y. Shibata, and M. Yoneda: Compound specific radiocarbon and $\delta^{13}\text{C}$ measurements of fatty acids in a continental aerosol sample, *Geophys. Res. Lett.*, 28, 4587-4590.
- 15) M. Yoneda, M. Hirota, M. Uchida, K. Uzawa, A. Tanaka, Y. Shibata and M. Morita: Marine radiocarbon reservoir effect in the Western North Pacific observed in archaeological fauna, *Radiocarbon*, 43, 465-471.
- 16) M. Uchida, Y. Shibata, K. Kawamura, Y. Kumamoto, M. Yoneda, K. Ohkushi, N. Harada, M. Hirota, H. Mukai, A. Tanaka,

M, Kusakabe and M. Morita: Compound-specific radiocarbon ages of fatty acids in marine sediments from the Western North Pacific, *Radiocarbon* 43, 949-956.

堀口敏広 (独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域)

- 1) Lu, M., Horiguchi, T., Yamazaki, S. and et al (4): Discrepancy of analytical values of steroid hormones in marine gastropods between GC/MS and ELISA, *Anal. Sci. Suppl.*, in press.
- 2) 陸 明・堀口敏宏・白石寛明, 柴田康行, 安保 充, 大久保明, 山崎素直: ELISA 法によるイボニシ中のテストステロンの個体別分析, *分析化学*, 印刷中.
- 3) 陸 明・堀口敏宏・白石寛明・柴田康行・安保 充・大久保明・山崎素直: ガスクロマトグラフィー/質量分析法による海産巻貝類におけるステロイドホルモンの同定と定量, *分析化学*, 50, 247-255.
- 4) Horiguchi, T., Kojima, M., Kaya, M., Matsuo, T., Shiraishi, H., Morita, M. and Adachi, Y.: Tributyltin and triphenyltin induce spermatogenesis in ovary of female abalon, *Haliotis gigantea*, *Mar. Environ. Res.*, in press.
- 5) 柴田康行, 堀口敏宏: 有機スズの環境残留性, 内分泌かく乱物質研究の最前線, 224 (50), 日本化学会編, 学会出版センター, 193-198.
- 6) 堀口敏宏: 巻貝類に見られる生殖異常, *環境ホルモン 文明・社会・生命*, 1, 12-29.
- 7) 綿貫礼子・阿部照男・上見幸司・貴邑富久子・堀口敏宏・松崎早苗・吉岡 齊・白木博次: いま, 環境ホルモン問題をどうとらえるか, *環境ホルモン 文明・社会・生命*, 1, 111-163.
- 8) 堀口敏宏: 雌の腹足類の雄性化に関する研究, 有機スズ汚染によるインポセックスの誘導機構, 平成12年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日英共同研究報告書, 10-13.
- 9) Horiguchi, T.: Studies on Masculinization of female gastropods, Induction mechanism of imposex caused by organotin contamination, UK-Japan Research Cooperation on Endocrine Disrupting Chemicals, Edited by Overseas Environmental Cooperation Center Japan, Ministry of the Environment of Japan, 9-10.
- 10) Horiguchi, T.: Imposex in gastropods, endocrine disruption as irreversible masculinization of females, caused by tributyltin (TBT) and triphenyltin (TPhT) from antifouling paints, *Proceeding of the 1st U. S. -Japan Workshop on Endocrine Disrupting Chemicals and Their Toxicological Evaluation*, 74-78.
- 11) Horiguchi, T., Cho, H. S., Shiraishi, H., Morita, M. and Shimizu, M.: Contamination of organotin compounds and endocrine disruption in gastropods, *Otsuchi Marine Research Center, Ocean Research Institute, The University of Tokyo*, 26, 61-63.
- 12) Horiguchi, T., Cho, H.S., Shiraishi, H., Kojima, M., Kaya, M., Morita, M., Shimizu, M.: Contamination by organotin (tributyltin and triphenyltin) compounds from antifouling paints and endocrine disruption in marine gastropods, *Focused on New Trends in Bio-Trace Elements Research*, 35, 9-11.
- 13) 堀口敏宏: 2. 内分泌攪乱の発現メカニズムの解明に関する研究 (1) 分子レベルでの内分泌攪乱の発現メカニズムの解明 ④巻貝の性転換の機構の解明, 内分泌攪乱化学物質による生殖への影響とその作用機構に関する研究 (平成10~12年度) 成果報告書, 356-368.
- 14) 堀口敏宏: 3. 生物界における内分泌攪乱物質の実態の解明に関する研究 (1) 野生生物等における内分泌攪乱の実態の解明 ③巻貝等における内分泌攪乱の実態の解明, 内分泌攪乱化学物質による生殖への影響とその作用機構に関する研究 (平成10~12年度) 成果報告書, 444-455.
- 15) Horiguchi, T., Uno, S., Shimizu, M., Shiraishi, H. and Morita, M.: Contamination of organotin compounds and imposex in molluscs from Vancouver, Canada, *PICES SCIENTIFIC REPORT*, 16, 53-56.
- 16) Cho, H. S. and Horiguchi, T.: Endocrine disruption in mollusks, case studies on the rock shell, the ivory shell and the giant abalone, linking with organotin contamination in Korea and Japan, *International Symposium on Environmental Endocrine Disrupters 2001*, 173-178.
- 17) 堀口敏宏: 環境ホルモン問題の解決のために, 月刊「機」, 114, 16-17.

森 千里 (千葉大学大学院医学研究院環境生命医学領域)

- 1) Shibayama, T., Fukata, H., Sakurai, K., Adachi, T., Komiyama, M., Iguchi, T. and Mori, C.: Neonatal exposure to genistein reduces expression of estrogen receptor alpha and androgen receptor in testes of adult mice, *Endocrine . J.* 48, 655-633.
- 2) Rockett, J.C., Mapp, F.L., Garges, J.B., Luft, J.C., Mori, C. and Dix, D.J.: The effects of hyperthermia on spermatogenesis, apoptosis, gene expression and fertility in adult male mice, *Biology of Reproduction*, 65, 229-239.

- 3) Mori, C.: Possible effects of endocrine disruptors on male reproductive function, *Acta Anatomica Nippon*, 76, 361-368.
- 4) 森 千里: 環境ホルモン ヒトへの影響と対策の方向性, *Journal of Endocrine Disruptor*, 1, 203-212.
- 5) 森 千里: 内分泌かく乱物質と男性生殖機能, そして日本人胎児の複合汚染, 内分泌かく乱物質の生体影響に関する国際ワークショップ横浜99報告書, EED 国際ワークショップ横浜実行委員会・横浜市立大学環境ホルモンプロジェクト, 103-108.
- 6) 足達哲也・櫻井健一・深田秀樹・小宮山政敏・芝山孝子・井口泰泉・森 千里: 植物エストロゲンおよび内分泌攪乱物質の精子形成への影響評価に対する DNA マイクロアレイを用いた判定法, *千葉医学*, 77, 151-158.
- 7) 森 千里・櫻井健一: 妊孕性にかかわる諸問題, 環境因子と生殖, 新女性医学体系, 11, プライマリケア部門 リプロダクティブヘルス・武谷雄三編, 中山書店, 160-174.

小宮山政敏 (千葉大学大学院医学研究院環境生命医学領域)

- 1) Khan, M. M. and Komiyama, M.: The second EF-hand is responsible for the isoform-specific sorting of myosin essential light chain, *Cell Struct. Func.*, 26, 243-251.
- 2) Shibayama, T., Fukata, H., Sakurai, K., Adachi, T., Komiyama, M., Iguchi, T. and Mori, C.: Neonatal exposure to genistein reduces expression of estrogen receptor alpha and androgen receptor in testes of adult mice, *Endocrine. J*, 48, 655-633.
- 3) 足達哲也・櫻井健一・深田秀樹・小宮山政敏・芝山孝子・井口泰泉・森 千里: 植物エストロゲンおよび内分泌攪乱物質の精子形成への影響評価に対する DNA マイクロアレイを用いた判定法の開発, *千葉医学雑誌*, 77, 151-158.

藤瀬良弘 (財団法人日本鯨類研究所)

- 1) 藤瀬良弘: 第8章日本が行っている調査とその結果, くじら紛争の真実, 小松正之監修, 地球社, 161-203.
- 2) Fujise, Y., Zenitani, R. and Goto, M.: Utility of non-genetic information for stock identification-The case of the western North Pacific minke whale-, Paper SC/53/SD5 presented to the Workshop to Review the Japanese Whale Research Programme under Special Permit for North Pacific Minke Whales (JARPN), July, 9.
- 3) Fujise, Y., Pastene, L. A., Tamura, T., Bando, T., Murase, H., Kawahara, A., Watanabe, H., Ohizumi, H., Mogoe, T., Kiwada, H., Nemoto, K. and Narita, H.: Progress report of the feasibility study of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the western North Pacific, Phase II (JARPN II) in 2000, Paper SC/53/O10 presented to the Workshop to Review the Japanese Whale Research Programme under Special Permit for North Pacific Minke Whales (JARPN) July, 77.
- 4) Zenitani, R., Kato, H. and Fujise, Y.: Year to year trends of some biological parameters of Antarctic minke whales from the viewpoint of population monitoring, SC/53/IA13, 16.
- 5) 藤瀬良弘: 鯨類捕獲調査が目指すもの (特集 鯨類の持続的利用は可能か), *海洋と生物*, 23 (3), 234-244.

高田秀重 (東京農工大学農学部環境資源科学科)

- 1) Zakaria, M. P., Okuda, T. and Takada, H.: Polycyclic Aromatic Hydrocarbon (PAHs) and Hopanes in Stranded Tar-balls on the Coasts of Peninsular Malaysia, Applications of Biomarkers for Identifying Sources of Oil Pollution, *Mar. Pollut. Bull.*, 42, 1357-1366.
- 2) 益永茂樹・姚 元・高田秀重・桜井健郎・中西準子: 東京湾のダイオキシン汚染, 組成と汚染源推定, *地球化学*, 35, 159-168.
- 3) Isobe, T., Nishiyama, H., Nakashima, A. and Takada, H.: Distribution and behavior of nonylphenol, octylphenol, and nonylphenol monoethoxylate in Tokyo metropolitan area-their association with aquatic particles and sedimentary distributions-, *Environ. Sci. Technol.*, 35, 1041-1049.
- 4) Mato, Y., Isobe, T., Takada, H., Kanehiro, H., Ohtake, C. and Kaminuma, T.: Plastic Resin Pellets as a Transport Medium of Toxic Chemicals in the Marine Environment, *Environ. Sci. Technol.*, 35, 318-324.

井口泰泉 (岡崎国立共同研究機構統合バイオサイエンスセンター)

- 1) 井口泰泉: 内分泌かく乱物質問題について, 歯科医展望増刊号, 180-183.
- 2) 井口泰泉: 解説, 奪われし未来, 増補改訂版, 翔泳社, 435-466.
- 3) 井口泰泉: 環境ホルモンの実体と21世紀の選択, *農林年金*, 3, 10-18.

- 4) 井口泰泉：溢れる化学合成物質, *Scientia*, 3, 5-7.
- 5) 井口泰泉：書評, *がんと環境*, 化学, 71, 659-660.
- 6) 井口泰泉：環境ホルモン（内分泌攪乱化学物質）の最新事情, *教育出版高等学校理学ニューズレター*, 教育出版, 1-6.
- 7) 井口泰泉・鷲見 学・有菌幸司：内分泌攪乱化学物質研究の最新動向, *生活と環境*, 46, 11-19.
- 8) 井口泰泉：環境ホルモンと野生動物の異変, *少年写真新聞社*, 61.
- 9) 足立哲也・櫻井健一・深田秀樹・小宮山政敏・芝山孝子・井口泰泉・森 千里：植物エストロゲンおよび内分泌攪乱物質の精子形成への影響評価に対するDNAマイクロアレイを用いた判定法の開発, *千葉医学*, 77, 151-158.
- 10) 井口泰泉：環境ホルモン（内分泌攪乱化学物質）問題から見た科学, *科学*, 71, 1567-1569.
- 11) Iguchi, T., H. Watanabe and Y. Katsu: Developmental effects of estrogenic agents on mice, fish and frogs, a mini review, *Horm. Behav.*, 40, 248-251.
- 12) Yamamura, Y., Y. Ohta, T. Iguchi and A. Matsuzawa: Metallothionein expression and apoptosis in pregnancy-dependent and -independent mouse mammary tumors, *Anticancer Res.*, 21, 1145-1150.
- 13) Yamamura, Y., M. Tamano, T. Iguchi and Y. Ohta: Metallothionein expression and tumor growth in the transplantable pregnancy-independent mouse mammary tumor, *J. Vet. Med. Sci.*, 63, 687-689.
- 14) Okada, A., T. Sato, Y. Ohta, D. L. Buchanan and T. Iguchi: Effect of diethylstilbestrol on cell proliferation and expression of epidermal growth factor in the developing female rat reproductive tract, *J. Endocrinol.*, 170, 539-554.
- 15) Shibayama, T., H. Fukata, K. Sakurai, T. Adachi, M. Komiyama, T. Iguchi and C. Mori: Neonatal exposure to genistein reduces expression of estrogen receptor and androgen receptor in testes of adult mice, *Endocr. J.*, 48, 655-663.
- 16) Watanabe, H., D. L. Buchanan, H. Handa and T. Iguchi: Global analysis of gene expression induced by environmental endocrine disruptors, *Perspective in Comparative Endocrinology, Utility and Diversity*, Goos, H. J. Th., Rastogi, R. K., Vaudry, H. and Pierantoni, R. (eds.) *monduzzi Editore*, 147-151.

松井三郎（京都大学地球環境学大学院）

- 1) 松井三郎：環境ホルモンによる水質汚染の現状と今後の課題, *水理科学*, 44 (1).
- 2) 松井三郎：下水道から水・資源循環道への転換, *下水道協会誌*, 38 (459), 31-32.
- 3) 松井三郎：地球環境から見た水・農業の結節点—尿尿の窒素, リン, カリ資源回収の重要性, *エネルギー・資源*, 22 (6), 407-414.
- 4) 松井三郎：特別企画 下水道におけるPRTR微量化学物質の生態毒性, *下水道協会誌*, 38 (463), 35-39.
- 5) 松井三郎：特集 あなたが考える科学とは 環境科学は科学なのか?, *科学*, 71 (4/5).
- 6) 松井三郎：特集 水, 21世紀の課題と展望 微量有害物質対策と処理技術, 用水と廃水, 43 (1), 37-41.
- 7) 松井三郎：エコロジカル・サニテーション運動—合併浄化槽批判, 尿尿処理場の未来, 下水道の改善につながる原理的運動が世界に広まりつつある, *水*, 1, 18-21.

大嶋雄治（九州大学大学院農学研究院生物機能科学部門）

- 1) Yokota, H., Morita, H., Nakano, N., Kang, J., Tadokoro, H., Oshima, Y., Honjo, T. and Kobayashi, K.: Development of an ELISA for determination of the hepatic vitellogenin in medaka (*Oryzias latipes*), *Jpn. J. Environ. Toxicol.*, 4, 87-98.
- 2) Omura, M., Ogata, R., Kubo, K., Shimasaki, Y., Aou, S., Oshima, Y., Tanaka, A., Hirata, M., Makita, Y. and Inoue, N.: Two-generation reproductive toxicity study of tributyltin chloride in male rats, *Toxicol. Sci.*, 64, 224-232.
- 3) Yokota, H., Seki, M., Maeda, M., Oshima, Y., Tadokoro, H., Honjo, T. and Kobayashi, K.: Life cycle toxicity of 4-nitrophenol to medaka (*Oryzias latipes*), *Environ. Toxicol. Chem.*, 20, 2552-2560.
- 4) 飯島憲章・植松一真・下川真理子・石井裕子・大嶋雄治・藤井一則・山田 久・橋本伸哉・原 彰彦：瀬戸内海周防灘及び広島湾のマコガレイに対するエストロゲン様内分泌攪乱物質の影響実態, *環境毒性学会誌*, 4, 45-53.
- 5) Miyake, K., Tachida, H., Oshima, Y., Arai, R., Kimura, S., Imada, N. and Honjo, T.: Genetic variation of the cytochrome b gene in the rosy bitterling, *Rhodeus ocellatus* (Cyprinidae) in Japan, *Ichthyol. Res.*, 48, 105-110.
- 6) Imada, N., Honjo, T., Kim, D. I. and Oshima, Y.: Transfer of *Heterocapsa circularisquama* with shellfish consignments and the possibility of its establishment in new area, *ITE Letters*, 2, 264-267.
- 7) Ogata, R., Omura, M., Shimasaki, Y., Kubo, K., Oshima, Y., Aou, S. and Inoue, N.: Two-generation reproductive toxicity stu-

12. 客員研究員名簿および業績

- dy of tributyltin chloride in female rats, *J. Toxicol. Environ. Health.*, A63, 127 - 144.
- 8) Shimasaki, Y., Kitano, T., Oshima, Y., Imada, N. and Honjo, T.: Masuclinization caused by tributyltin in fish, *Environ. Sci.*, 8, 126.
 - 9) Oshima, Y., Yamaguchi, T., Kang, IJ., Imada, N. and Honjo, T.: Suppression of sexual behavior in male Japanese medaka, *Oryzias latipes*, by 17 β -estradiol. *Environ. Sci.* 8, 152.
 - 10) Kang, IJ., Yokota, H., Oshima, Y., Tsuruda, Y., Hano, T., Maeda, M., Imada, N., Tadokoro, H. and Honjo, T.: The effect of 4-nonylphenol on reproduction and sexual behavior of medaka, *Oryzias latipes*, *Environ. Sci.*, 8, 155.
 - 11) Kang, IJ., Yokota, H., Oshima, Y., Tsuruda, Y., Yamaguchi, T., Maeda, M., Imada, N., Tadokoro, H. and Honjo, T.: The relationship between reproduction and induction of vitellogenin in medaka, *Oryzias latipes*, exposed to 17 β -estradiol, *Environ. Sci.*, 8, 208.
 - 12) Tsuruda, Y., Kang, IJ., Yokota, H., Seki, M., Oshima, Y., Maeda, M., Tadokoro, H., Nakazono, A. and Honjo, T.: Production and position of testis/ova in the gonads of Japanese medaka exposed to Bisphenol A, *Environ. Sci.*, 8, 237.
 - 13) Omura, M., Ogata, R., Kubo, K., Shimasaki, Y., Aou, S., Oshima, Y. and Inoue, N.: Tributyltin is a possible aromatase inhibitor in male rats, *Environ. Sci.*, 8, 263.
 - 14) Oshima, Y., Tsukawaki, H., Ishizu, K., Wakamatsu, Y., Yasuno, M., Ozato, K. and Honjo, T.: Construction of medaka ToxiNet, a platform for toxicological research, *Environ. Sci.*, 8, 307.

吉水 守 (北海道大学大学院水産科学研究科)

- 1) 笠井久会・渡辺研一・吉水 守：流水式海水電解装置による飼育排水の殺菌，*日水誌*，67，222-225.
- 2) 渡辺研一・吉水 守：電解海水による飼育器具の消毒，*日水誌*，67，304-305.
- 3) 渡辺研一・吉水 守：マツカワのウイルス性神経壊死症原因ウイルス遺伝子の検出に及ぼす PCR 条件の検討，*水産増殖*，49，85-90.
- 4) 笠井久会・渡辺研一・吉水 守：バッチ式海水殺菌装置の魚類病原細菌およびウイルスに対する殺菌効果，*水産増殖*，49，231-241.
- 5) Yoshimizu, M., Y. Hori, Y. Yoshinaka, T. Kimura and Jo-Ann Leong: Evaluation of methods used to detect the prevalence of infectious haematopoietic necrosis (IHN) virus in the surveillance and monitoring of fish health for risk assessment, *Proceedings of OIE Conference of Risk Analysis in Aquatic Animal Health.*, OIE, Paris, 276-281.
- 6) 笠井久会・吉水 守：ヒラメ胚体由来細胞2株の樹立，*北大水産集報*，52，67-70.
- 7) Aso, Y., J. Wani, D. A. S. Klenner and M. Yoshimizu: Detection and identification of *Oncorhynchus masou* virus by polymerase chain reaction (PCR), *Bull. Fac. Fish. Hokkaido Univ.*, 52, 111-116.
- 8) Yoshimizu, M. and T. Nomura: *Oncorhynchus masou* virus: Epidemiology and its control strategy, *Bull. Natl. Res. Inst. Aquacult.*, Suppl., 5, 11-14.
- 9) 笠井久会・吉水 守：オゾンによる魚類飼育用水の殺菌法—特に海水への応用—，*日本医療・オゾン研究会報*，8，2-6.
- 10) 吉水 守：ワクチン以外の予防対策，シンポジウム「我が国における魚類ワクチン開発の現状」，*魚病研究*，36，113.
- 11) 笠井久会・吉水 守：海水電解装置による魚類飼育用水と排水の殺菌，*アクアネット*，4 (4)，52-55.
- 12) 吉水 守：水供給・処理システム検討のための水質条件調査，*砂原漁港・衛生管理型漁港設計・設計条件検討調査結果報告書*，1-10.
- 13) 吉水 守：効果的なリンホスチス病ウイルス不活化ワクチンの実用化研究，平成12年度日本水産資源保護協会受託研究結果報告書，145-152.
- 14) 吉水 守・中村哲士・中村暢之・笠井久会：有珠山噴火が洞爺湖水の細菌数および細菌叢に及ぼした影響について，平成12年度ホクサイテック財団研究開発支援事業研究成果報告書，57-64.
- 15) 吉水 守・中村哲士・中村暢之・笠井久会：有珠山噴火が洞爺湖水の細菌数および細菌叢に及ぼした影響について，有珠山噴火に伴う環境と生物資源の変動に関する学際的プロジェクト研究，平成12年度教育改善推進費研究成果報告書，北海道大学，57-64.

中村泰男 (国立環境研究所海洋環境研究室)

- 1) Nakamura, Y.: Autoecology of the heart urchin, *Echinocardium cordatum*, in the muddy sediment of the Seto Inland Sea, Japan, *J. Mar. Biol. Ass. U. K.*, 81, 289-297.
- 2) Nakamura, Y.: Filtration rates of the Manila clam, *Ruditapes philippinarum*, dependence on prey items including bacteria and picocyanobacteria, *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.*, 266, 181-192.

古谷 研 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

- 1) Ramaiah, N., T. Yoshikawa and K. Furuya: Temporal variations in transparent exopolymer particles (TEP) associated with diatom spring bloom in a subarctic ria in Japan, *Marine Ecology Progress Series*, 212, 79-88.
- 2) Aranami, K., S. Watanabe, S. Tsunogai, M. Hayashi, K. Furuya and T. Nagata: Biogeochemical variation in dimethylsulfide, phytoplankton pigments and heterotrophic bacterial production in the subarctic North Pacific Ocean during summer, *Journal of Oceanography*, 57, 315-322.
- 3) Hayashi, M., Ken Furuya and H. Hattori: Spatial heterogeneity in distributions of chlorophyll a derivatives in the subarctic North Pacific during summer, *Journal of Oceanography*, 57, 323-331.
- 4) 平澤 亮・鈴木光次・岸野元彰・古谷 研・田口 哲・齊藤誠一・才野敏郎・松本和彦・播本孝史・佐々木宏明・藤木徹一・古原真一・柏 俊行: QFT 法及び現場型水中分光光度計による植物プランクトンの光吸収スペクトル測定プロトコル, *海の研究*, 10, 471-484.
- 5) 石川 輝・藪下泰史・古谷 研・増田 健: 東シナ海大陸棚上に分布する珪藻類休眠期細胞のブルーム発生における潜在的重要性, *日本プランクトン学会誌*, 48, 85-94.
- 6) Yoshikawa, T., I. Takeuchi and K. Furuya: Active erosion of *Undaria pinnatifida* Suringar (Laminariales, Phaeophyceae) mass-cultured in Otsuchi Bay in northeastern Japan, *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 266, 51-65.
- 7) Furuya, K., V. Gunbua, M. Miki, T. Boonphakudee and Y. Yamaguchi: Pigments and phytoplankton assessment in the Bangpakong Estuary in the inner Gulf of Thailand, *Proceedings of the 11th JSPS-NRCT Joint Seminar on Marine Science*, 22-27.
- 8) 岸野元彰・古谷 研・田口 哲・平澤 亮・鈴木光次・田中昭彦: 海水の光吸収係数の測定, *海の研究*, 10, 537-560.

千浦 博 (国際基督教大学教養学部理学科)

- 1) S. Suzuki, S-I. Kitamura and H. X. Chiura: Aquabirnavirus widely distribute in the ocean, providing a dissolved RNA pool, *Microb. Environ.*, 16, 191-196.

川端善一郎 (京大学生態学研究センター)

- 1) Matsui, K., Honjo, M. and Kawabata, Z.: Estimation of the fate of dissolved DNA in thermally stratified lake water from the stability of exogenous plasmid DNA, *Aquatic Microbial Ecology*, 26(1), 95-102.
- 2) Nakano, S., Manage, P. M., Nishibe, Y. and Kawabata, Z.: Trophic linkage among heterotrophic nanoflagellates, ciliates and metazoan zooplankton in a hypereutrophic pond, *Aquatic Microbial Ecology*, 25, 259-270.
- 3) Matsui, K., Ishii, N. and Kawabata, Z.: Survival of genetically modified *Escherichia coli* carrying extraneous antibiotic resistance gene through microbial interactions, *Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology*, 66(2), 139-145.
- 4) Fuma, S., Takeda, H., Miyamoto, K., Yanagisawa, K., Inoue, Y., Ishii, N., Sugai, K., Ishii, C. and Kawabata, Z.: Ecological evaluation of gadolinium toxicity compared with other heavy metals using an aquatic microcosm, *Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology*, 66(2), 231-238.
- 5) Tomaru, Y., Kawabata, Z. and Nakano, S.: Mass mortality of Japanese pearl oyster, *Pinctada fucata martensii*, in relation to water temperature, chlorophyll a and phytoplankton composition, *Diseases of Aquatic organisms*, 44(1), 61-68.
- 6) Manage, P. M., Kawabata, Z. and Nakano, S.: Dynamics of cyanophages-like particles and algicidal bacteria causing *Microcystis aeruginosa* mortality, *Limnology*, 2, 73-78.
- 7) Nishii, K., Nakano, S., Tamada, M., Manage P. M., Nishibe, Y. and Kawabata, Z.: Microbial decomposition of dissolved organic matter in a hypereutrophic pond, *Limnology*, 2, 207-212.
- 8) Matsui, K., Jun, M-S., Ueki, M. and Kawabata, Z.: Functional succession of bacterioplankton based on the carbon source utilization ability by BIOLOG plate, *Ecological Research*, 16, 91-98
- 9) 中野伸一・外丸裕司・川端善一郎・鈴木 聡: 宇和海のアコヤガイ漁場における微生物生態, 餌微生物と病原微生物, *地球環境*, 6 (1), 39-45.

田中 克 (京都大学大学院農学研究科)

- 1) 田中 克: 川と遡る有明海のスズキ稚魚, 稚魚の自然史, 千変万化の魚類学, 千田哲資, 南 卓志, 木下 泉編, 北海道大学図書刊行会, 札幌, 210-221.
- 2) 堀田又治・有瀧真人・太田健吾・田川正朋・田中 克: ホシガレイの仔稚魚期における消化系の発達と変態関連ホルモンの動態, *Nippon Suisan Gakkaishi*, 67 (1), 40-48.
- 3) 有瀧真人・太田健吾・堀田又治・田中 克: ホシガレイ飼育仔稚魚の形態発育と成長, *Nippon Suisan Gakkaishi*, 67 (1), 58-66.
- 4) 原田慈雄・木下 泉・西田 睦・田中 克: ウキゴリ属仔稚魚の黒色素胞分布様式における適応側面と系統的側面, 月刊海洋抜刷, 24 (号外), 194-202.
- 5) 堀田又治・有瀧真人・田川正朋・田中 克: ホシガレイの初期生活史, 飼育実験による変態・着底過程の解明, *Saibai Giken*, 29 (1), 59-72.
- 6) 堀田又治・有瀧真人・田川正朋・田中 克: 水温を換えて飼育したマガレイの変態期における甲状腺ホルモンの動態 (短報), *Nippon Suisan Gakkaishi*, 67 (6), 1120-1121.
- 7) Alicia Estevez, Toyoji Kaneko, Tadahisa Seikai, Masatomo Tagawa and Masaru Tanaka: ACTH and MSH production in Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*) larvae fed arachidonic acid-enriched live prey, *Aquaculture*, 192, 309-319.
- 8) Jun Shoji, Tsutomu Maehara, Mitsuhiro Aoyama, Hiroshi Fujimoto, Akio Iwamoto and Masaru Tanaka: Daily ration of Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* larvae, *Fisheries Science*, 67, 238-245.
- 9) Yuko Kamisaka, Geir K. Totland, Masatomo Tagawa, Tadahide Kurokawa, Tohru Suzuki, Masaru Tanaka and Ival Roostad: Ontogeny of Cholecystokinin-Immunoreactive Cells in the digestive Tract of Atlantic Habut, *Hippoglossus Hippoglossus*, Larvae, *General and Comparative Endocrinology*, 123, 31-37.
- 10) Yoh Yamashita, Masaru Tanaka, John M. Miller: Ecophysiology of juvenile flatfish in nursery grounds, *Journal of Sea Research*, 45, 205-218.
- 11) Nozomi Okada, Yasuaki Takagi, Tadahisa Seikai, Masaru Tanaka, Masatomo Tagawa: Asymmetrical development of bones and soft tissues during eye migration of metamorphosing Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*, *Cell Tissue Res.*, 304, 59-66.
- 12) Alicia Estevez, Toyoji Kaneko, Tadahisa Seikai, Robert M. Does, Masatomo Tagawa and Masaru Tanaka: Ontogeny of ACTH and MSH cells in Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*) in relation to albinism, *Aquaculture*, 202, 131-143.
- 13) Yuji Hotta, Masato Aritaki, Masatomo Tagawa and Masaru Tanaka: Changes in tissue thyroid hormone levels of metamorphosing spotted halibut *Verasper variegatus* reared at different temperatures, *Fisheries Science*, 67, 1119-1124.
- 14) W. S. Gwak and M. Tanaka: Developmental change in RNA, DNA ratios of fed and starved laboratory-reared Japanese flounder larvae and juveniles, and its application to assessment of nutritional condition for wild fish, *Journal of Fish Biology*, 59, 902-915.

今井一郎 (京都大学大学院農学研究科)

- 1) Kobayashi, S., N. Kojima, S. Itakura, I. Imai and K. Matsuoka: Cyst morphology of a chain forming unarmored dinoflagellate *Gyrodinium impudicum* Fraga et Bravo, *Phycol. Res.*, 49, 61-65.
- 2) Kondo, R. and I. Imai: Polymerase chain reaction primers for highly selective detection of algicidal Proteobacteria, *Fisheries Sci.*, 67, 364-366.
- 3) 今井一郎: シャットネラ・アンティカ, マリーナ, 養殖, 38 (5), 140.
- 4) Imai, I., T. Sunahara, T. Nishikawa, Y. Hori, R. Kondo and S. Hiroishi: Fluctuations of the red tide flagellates *Chattonella* spp. (Raphidophyceae) and the algicidal bacterium *Cytophaga* sp. in the Seto Inland Sea, Japan, *Mar. Biol.*, 138, 1043-1049.
- 5) 今井一郎: ヘテロシグマ・アカシオ, 養殖, 38 (9), 140.
- 6) 今井一郎: 沿岸海洋の富栄養化と赤潮の拡大, 海と環境—海が変わると地球が変わる—, 海洋学会編, 講談社, 東京, 203-211.
- 7) Maki, T. and I. Imai: Relationships between intracellular bacteria and the bivalve killer dinoflagellate *Heterocapsa circularisquama* (Dinophyceae), *Fisheries Sci.*, 67, 794-803.
- 8) Maki, T. and I. Imai: Effects of harmful dinoflagellate *Heterocapsa circularisquama* cells on the growth of intracellular bac-

teria, *Microb. Environ.*, 16, 234-239.

- 9) 今井一郎・杉岡 光・西谷 豪：ディノフィシス属の出現生態と下痢性貝毒原因生物の探査—陸奥湾におけるディノフィシス属と微小プランクトンの動態，海水中の微小プランクトン画分の毒性，及び微小プランクトン培養株の毒性，平成12年度二枚貝等貝毒安全対策事業報告書，水産庁，15.

上 真一（広島大学生物生産学部生産海洋学）

- 1) Godhantaraman N. and S. Uye: Geographical variations in abundance, biomass and trophodynamic role of microzooplankton across an inshore-offshore gradient in the Inland Sea of Japan and adjacent Pacific Ocean, *Plankton Biol. Ecol.*, 48, 19-27.
 2) 上 真一：紫外線の増加が水産重要魚類の再生産に及ぼす影響に関する研究，（財）アサヒビール学術振興財団，研究紀要，14，115-124.
 3) Lacuna, D. G. and S. Uye: Effect of mid-ultraviolet (UVB) radiation on the physiology of the planktonic copepod *Acartia omorii* and the potential role of photoreactivation, *J. Plankton Res.*, 23, 143-155.
 4) 上 真一・梁 棟：内湾性浮遊カイアシ類の個体群動態と生産—瀬戸内海中央部，福山港におけるそれらの特性，月刊海洋，特別号27，105-110.

齊藤文紀（独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門沿岸環境保全研究グループ）

- 1) Liu ZX, Li TG, Li PY, Huang QY, Berne S, Saito, Y., Cheng ZB, Wei GJ, Liu LJ, Li Z: The paleoclimatic events and cause in the Okinawa Trough during 50 kaBP, *Chinese Science Bulletin*, 46(2), 153-157.
 2) Wang, L., Saito, Y., Oba, T., Jian, Z., Wang, P.: High-resolution records of thermocline in the Okinawa Trough since about 10000 aBP. *Science in China, Ser. D.*, 44(3), 193-200.
 3) 齊藤文紀：島弧における陸域から深海への物質輸送研究，月刊地球号外，32，22-25.
 4) 齊藤文紀：黒部川ファンデルタの堆積作用，月刊地球号外，32，56-60.
 5) 平 朝彦・齊藤文紀・棚橋 学・徳山英一・木村 学：プレート沈み込み帯における物質循環—付加体の役割—，月刊地球号外，32，5-12.
 6) 小栗一将・松本英二・齊藤文紀・本多牧生・原田尚美・日下部正志：東シナ海陸棚斜面における過去18,000年間の環境変化について，名古屋大学加速器質量分析計業績報告書 (XIII)，185-192.
 7) 齊藤文紀：デルタ，地球温暖化問題検討委員会影響評価ワーキンググループ編「地球温暖化の日本への影響2000」，地球温暖化問題検討委員会影響評価ワーキンググループ，5-21-5-24.
 8) Saito, Y.: Deltas in Southeast and East Asia, Their evolution and current problems, *Proceedings of APN/SURVAS/LOICZ Joint Conference on Coastal Impacts of Climate Change and Adaptation in the Asia-Pacific Region*, APN, Kobe, Japan, 185-191.
 9) Song, C., Sun, X and Saito, Y.: Paleoenvironmental information recorded by pollen in B-3GC gravity core in Okinawa Trough, *Chinese Science Bulletin*, 46(11), 938-942.
 10) Liu, B., Saito, Y., Yamazaki, T., Abdeldayem, A., Oda, H., Hori, K. and Zhao, Q.: Paleocurrent analysis for the Late Pleistocene-Holocene incised-valley fill of the Yangtze delta, China by using anisotropy of magnetic susceptibility, *Marine Geology*, 176, 175-189.
 11) Hori, K., Saito, Y., Zhao, Q., Cheng, X., Wang, P., Sato, Y., Li, C.: Sedimentary facies of the tide-dominated paleo-Changjiang (Yangtze) estuary during the last transgression, *Marine Geology*, 177, 331-351.
 12) Saito, Y., Yang, Z. and Hori, K.: The Huanghe (Yellow River) and Changjiang (Yangtze River) deltas, a review on their characteristics, evolution and sediment discharge during the Holocene, *Geomorphology*, 41, 219-231.
 13) Hori, K., Saito, Y., Zhao, Q., Wang, P. and Li, C.: Progradation of the Changjiang River delta since the mid-Holocene, *Science in China, Series B, supplement*, 87-91.
 14) Yang, S., Li, C., Zhao, Q., Saito, Y. and Hori, K.: Element geochemistry of Holocene sediment and paleoenvironmental change in the Changjiang Estuary, *Science in China, Series B, supplement*, 40-46.
 15) Hori, K., Saito, Y., Zhao, Q., Cheng, X., Wang, P., Sato, Y. and Li, C.: Sedimentary facies and Holocene progradation rates of the Changjiang (Yangtze) delta, China, *Geomorphology*, 41, 233-248.
 16) Ta, T. K. O., Nguyen, V. L., Tateishi, M., Kobayashi, I. and Saito, Y.: Sediment facies and diatom and foraminifer assemblages of Late Pleistocene-Holocene incised-valley sequence from the Mekong River Delta, Bentre Province, Southern Vi-

12. 客員研究員名簿および業績

- etnam, the BT2 core, *Journal of Asian Earth Sciences*, 20, 83-94.
- 17) 郭 峰・楊 作升・劉 振夏・郭 志剛・范 徳江・Saito, Y.・Berne, S.: 末次盛冰期以来沖繩海槽中段岩心中粘土粒級沈積物地球化学特征及物質来源の階段性, *海洋学報*, 23, 117-126.
 - 18) Guo, F., Yang, Z., Liu, Z., Guo, Z., Fax, D., Saito, Y. and Berne, S.: Geochemical characteristics of sediments from the middle Okinawa Trough since the latest pleniglacial period and periodic characteristics of its sediment sources, *Acta Oceanologica Sinica*, 23, 117-126, In Chinese with English abstract.
 - 19) 斎藤文紀: 沿岸環境問題における IGBP-LOICZ の活動, 海津正倫, 平井幸弘編「海面上昇とアジアの海岸」, 古今書院, 東京, 178-187.
 - 20) 斎藤文紀: 堆積構造, 堆積相, 堆積システム, 産業技術総合研究所地質調査総合センター「地質学ハンドブック」, 朝倉書店, 65-77.
 - 21) 斎藤文紀: シーケンス層序学, 産業技術総合研究所地質調査総合センター「地質学ハンドブック」, 朝倉書店, 100-104.
 - 22) 斎藤文紀: 大陸と日本の間, 東シナ海, 町田 洋, 太田陽子, 河名俊男, 森脇 広, 長岡信治編, 「日本の地形7, 九州・南西諸島」東京大学出版会, 311-314.

公文富士夫 (信州大学理学部物質循環学科)

- 1) Adhikari, D. P. and Kumon, F.: Climatic changes during the past 1300 years as deduced from the sediments of Lake Nakatsuna, central Japan, *Limnology*, 2, 157-168.
- 2) 公文富士夫, 梅澤貴司: 御手洗川支流松山谷に分布する手取層群の堆積相, *地球科学*, 岐阜県荘川村, 55, 321-328.

吉川周作 (大阪市立大学大学院理学研究科)

- 1) 吉川周作・山崎秀夫・井上 淳・三田村宗樹・長岡信治・兵頭政幸・平岡義博・内山 高, 内山美恵子: 長崎県西山水源池堆積物に記録された原爆の「黒い雨」, *地質学雑誌*, 107, 535-538.
- 2) 加 三千宣・吉川周作・里口保文・小倉博之: 岐阜県谷汲村深坂湿原の最終氷期以降の珪藻群周変化と古環境変遷, *地質学雑誌*, 107, 451-460.
- 3) Kataoka, K., Nagahashi, Y. and Yoshikawa, S.: An extremely large magnitude eruption close to the Plio-Pleistocene boundary, reconstruction of eruptive style and history of the Ebisutoge-Fukuda tephra, central Japan, *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, 107, 47-69.
- 4) 岡橋久世・吉川周作・三田村宗樹・兵頭政幸・内山 高・内山美恵子・原口 強: 三重県鳥羽市相違の湿地堆積物から見いだされた東海地震津波の痕跡, *第四紀研究*, 40, 193-202.
- 5) Chowdhury, M. E. K., Naruse, T., Yoshikawa, S. and Toyoda, S.: Eolian Dust Deposition in the Last Glacial Stage (43-12ka) in Tanigumi Moor, Gifu Prefecture, Central Japan, *The Quaternary Research*, 40, 211-218.
- 6) 小林 岳・三田村宗樹・吉川周作: 深層ボーリングコアからみた神戸地域第四系の岩相変化と堆積速度, *地球科学*, 55, 131-143.
- 7) 内山美恵子・三田村宗樹・吉川周作: 大阪平野における基盤ブロックの運動と上町断層の変位速度, *地質学雑誌*, 107, 228-236.
- 8) 井上 淳・高原 光・吉川周作・井内美郎: 琵琶湖高島沖ボーリングコアの微粒炭分析による植物燃焼史, *第四紀研究*, 40, 97-104.
- 9) Irizuki, T., Masuda, F., Miyahara, B., Hirotsu, J., Ueda, S. and Yoshikawa, S.: Vertical Change of Holocene Ostracodes in Bore Hole Cores from off Kobe, Related to the Opening of the Straits and Relative Sea Level Change in Western Japan, *The Quaternary Research*, 40, 105-120.
- 10) 稲野伸哉・山崎秀夫・三田村宗樹・吉川周作: 長崎県西山水源池堆積物からみた重金属汚染の歴史, *Proceedings of the 11th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics*, 141-144.
- 11) 中垣玲子・加 三千宣・広瀬孝太郎・吉川周作: 長崎県西山水源池堆積物の珪藻群集, *Proceedings of the 11th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics*, 145-148.
- 12) 三田村宗樹・岡橋久世・廣瀬孝太郎・吉川周作・内山美恵子・中村俊夫・原口 強: 鳥羽市相違の湿地堆積物に見出されるイベント堆積物と14C年代, *Proceedings of the 11th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics*, 321-326.

- 13) 廣瀬孝太郎・後藤敏一・吉川周作・三田村宗樹・岡橋久世：鳥羽市相差沿岸低湿地堆積物中の珪藻遺骸群に記録された宗新世の環境変遷—イベント堆積物に関して—, *Proceedings of the 11th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics*, 327-332.
- 14) 小林 岳・三田村宗樹・吉川周作：六甲山地南麓，神戸市東部地域の垂直及び水平岩相変化と礫層の発達について，*Proceedings of the 11th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics*, 389-394.
- 15) 吉川周作・加 三千宣：琵琶湖堆積物から見た過去約40万年間の高精度火山灰編年，*月刊地球*, 23, 594-599.
- 16) 井上 淳・吉川周作：兵庫県神戸市学園都市高塚山地域の大坂層群と高塚山層，*第四紀*, 33, 143-152.

三瓶良和（島根大学総合理工学部地球資源環境学教室）

- 1) Sampei, Y. and Matsumoto, E.: C/N ratios in a sediment core from Nakaumi lagoon, southwest Japan — usefulness as an organic source indicator —, *Geochemical Journal*, 35, 189-205.
- 2) 三瓶良和（分担執筆）：「汽水域の底質特性—”ヘドロ”と湖底環境—，汽水域の科学，たたら書房，米子，38-47.

高安克己（島根大学汽水域研究センター）

- 1) 高安克己：序章（水産環境）と第1章（穴道町の地質）を分担執筆，*穴道町史・通史編*，穴道町教育委員会，穴道町.
- 2) 高安克己：編集・分担執筆，*中海・穴道湖を例として，汽水域の科学*，たたら書房，米子.
- 3) 宇野誠高・田中秀典・大塚泰介・高安克己・鮎川和泰：中海中浦水道における水質動向，*LAGUNA（汽水域研究）*, 8, 15-22.
- 4) 佐野祐司・松永恒雄・高安克己・國井秀伸・中村幹雄・六川修一：衛生リモートセンシングによる穴道湖の一次生産量モニタリングの試み，*LAGUNA（汽水域研究）*, 8, 23-30.
- 5) 高田裕行，高安克己：汽水域奥部に優先する特異な底生有孔虫群，*月刊海洋*, 33 (6), 425-430.
- 6) 佐野祐司・松永恒雄・六川修一・高安克己・國井秀伸・中村幹雄：多時期 SPOT HRV データによる穴道湖表層の総一次生産量モニタリング，*日本リモートセンシング学会誌*, 21, 141-149.
- 7) Ishida, H., Ohtsuka, S., Takayasu, K., Kobayashi, I., Lee, Y-G., Seto, K., Tanaka, H., Tamura, K., Go, A. and Nakaguchi, K.: Preliminary Faunistic Survey of Ophiuroids in the Westernmost Part of the Sea of Japan, *Jour. Fac. Appl. Biol. Sci., Hiroshima Univ.*, 40, 1-14.

長谷川修一（香川大学工学部安全システム建設工学科）

- 1) 目代邦康・千木良雅弘・長谷川修一：急傾斜する地層のトップリングにより出現した斜面変形—小規模な山向き小崖とその内部構造—，*地形*, 22 (5), 837-856.
- 2) Hasegawa, S. and Sawada, T.: Large-scale rock mass slides along the Median Tectonic Line in Eastern Shikoku, SW Japan, *Proc. of International Symposium on Geotechnical and Environmental Challenge in Mountainous Terrain (GENSYN)*, 429-438.
- 3) Hasegawa S., Tamura E., and Sawada T.: Effect of Middle Miocene hydrothermal alteration on landslides along the Median Tectonic Line in Shikoku, SW Japan. *Proc. of International Symposium on Geotechnical and Environmental Challenge in Mountainous Terrain (GENSYN)*, 439-448.
- 4) 長谷川修一・田村栄治・大野裕記・鶴田聖子：四国の中央構造線沿いの中期中新世熱水変質作用，*日本応用地質学会中国四国支部平成13年度研究発表会論文集*, 7-12.
- 5) 柳田 誠・長谷川修一：地すべり地形の年齢—地すべり地形の形成から消失するまでの時間—，*日本地すべり学会地すべり地塊とその変遷過程に関する研究論文集*, 29-38.
- 6) 矢田部龍一・横田公忠・須賀幸一・長谷川修一：降雨による斜面の崩壊機構，豪雨時の斜面崩壊のメカニズムと予測に関する論文集，*地盤工学会四国支部*, 13-22.
- 7) 長谷川修一・田村栄治・大野裕記：スメクタイトを伴い破碎帯と伴わない破碎帯，*第36回地盤工学研究発表会講演概要集*, 14-42.
- 8) 池田倫治・長谷川修一・大野裕記・藤川 聡：松山市南西部の中央構造線活断層系本郡断層の活動履歴，*四国総合研究所研究期報*，*四国電力*, 76, 48-57.
- 9) 長谷川修一・寺林 優・仲谷英夫・松本直通：学生実験による香川県花崗岩類の基本物性，*土木学会四国支部*

第7回技術研究発表会講演概要集, 186-187.

松岡數充 (長崎大学水産学部海洋資源動態科学講座)

- 1) Matsuoka, K.: Further evidence for a marine dinoflagellate cyst as an indicator of eutrophication in Yokohama Port, Tokyo Bay, Japan, Comments on a discussion by B. Dale, The Science of the Total Environment, 264, 221-233.
- 2) Yang, Z. B., Takayama, H., Matsuoka, K. and Hodgkiss, IJ.: *Karenia digitata* sp. nov. Gymnodiniales, Dinophyceae), a new harmful algal bloom species from the coastal waters of west Japan and Hong Kong. Phycologia, 39, 463-470.
- 3) Cho, H. J. and Matsuoka, K.: Distribution of dinoflagellate cysts in surface sediments from the yellow Sea and East China Sea., Mar. Micropal., 42, 103-123.
- 4) Cho, H. J., Matsuoka, K., Lee, J. B. and Moon, C. H.: Dinoflagellate cyst assemblage in the surface sediments from the north-western East China Sea, Journal of Fisheries Science and Technology, 4, 120-129.
- 5) Cho, H. J., K. Matsuoka, J. B. Lee and C. H. Moon: Dinoflagellate cyst assemblages in the surface sediments from the North-western East China Sea, Journal of Fisheries Science and Technology, 4, 120-129.
- 6) Kobayashi, S., Kojima, N., Itakura, S., Imai, I. and Matsuoka, K.: Cyst morphology of a chain-forming unarmored dinoflagellate *Gymnodinium impudicum* Frage et Bravo, Phycological Research, 49, 61-65.
- 7) 林 正男・松岡數充: 渦鞭毛藻シスト群集変化からみた閉鎖系海域の富栄養化—西九州・大村湾での1980～1981年と1998年の比較, 月刊海洋, 33, 387-398.
- 8) 藤井理香, 松岡數充, 林 正男: 西日本沿岸域に出現する有毒渦鞭毛藻 *Gymnodinium catenatum* の来歴, 月刊海洋, 33, 381-386.
- 9) 松岡數充・吉田 誠: 日本近海における麻痺性貝毒原因渦鞭毛藻の地理的分布, 月刊海洋, 33, 695-699.
- 10) 吉田 誠・松岡數充・福代康夫: 麻痺性貝毒原因渦鞭毛藻の種同定, 月刊海洋, 33, 689-694.
- 11) 福代康夫・松岡數充・古谷 研: 有害微細藻類の分布拡大とその原因, 日本プランクトン学会報, 48 (1), 51-54.
- 12) 松岡數充・北里 洋・野村律夫: 生態系の改変と地質学・古生物学, 月刊海洋, 33, 379-381.

本座栄一 (熊本大学大学院自然科学研究科)

- 1) 徳山英一・本座栄一・他: 日本周辺海域中新世最末期以降の構造発達史, 海洋調査技術, 13, 27-53.

前田広人 (鹿児島大学水産学部資源利用科学講座)

- 1) 前田広人: 洪沢湖, 増補改訂版 世界の湖, 滋賀県琵琶湖研究所編, 人文書院, 京都, 44-47.
- 2) 前田広人・奥西将之・吉村直晃: ピコプランクトンの知見, 日本プランクトン学会報, 48 (2), 126.
- 3) Iwamoto Kouzou, Takeshi Yoshikawa, Taizo Sakata and Hiroto Maeda: Phylogenetic analysis of marine algicidal filamentous bacteria inferred from SSU rDNA and intergenic spacer regions, Microbes and Environments, 16 (4), 213-221.
- 4) 前田広人: 鹿児島湾の過去と現在, 鹿児島学のプロフィール, 鹿児島大学「新しい鹿児島学」事務局編, 斯文堂, 鹿児島, 14-17.
- 5) 前田広人: 鹿児島湾の水質, Bulletin of marine resources and environment, Kagoshima University, 9, 2-7.

13. 運営委員会



委員長	武岡 英隆	沿岸環境科学研究センター教授
委員	丹下 晴喜	法文学部教授
委員	家山 博史	教育学部教授
委員	柳澤 康信	理学部教授
委員	堀内 正嗣	医学部教授
委員	山口 正隆	工学部教授
委員	脇本 忠明	農学部教授
委員	田辺 信介	沿岸環境科学研究センター教授
委員	井内 美郎	沿岸環境科学研究センター教授
委員	鈴木 聡	沿岸環境科学研究センター教授
委員	上田 拓史	沿岸環境科学研究センター助教授
委員	中野 伸一	沿岸環境科学研究センター助教授
委員	大森 浩二	沿岸環境科学研究センター助教授
委員	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター助教授
委員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター助教授
委員	大和田和平	総務部長 (官職指定)

14. センター規程および運営委員会規程



愛媛大学沿岸環境科学研究センター規程

平成11年4月14日

規則第111号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学学則第8条の2第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究分野)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究分野を置く。

- (1) 環境動態解析分野
- (2) 生態環境計測分野
- (3) 生態系解析分野
- (4) 環境影響評価予測分野

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学学術審議会（以下「学術審議会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学の専任教授のうちから学術審議会が推薦し、学長が選考する。

- 2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、学術審議会が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。
- 3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
- 3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は1年以内とし、再任を妨げない。

(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(中島マリンステーション)

第13条 センターに、附属施設として中島マリンステーション(以下「施設」という。)を置く。

2 施設に関する規程は、別に定める。

(研究生)

第14条 センターは、研究生を受け入れることができる。

2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第15条 センターに関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成11年4月14日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

2 この規程の施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第7条第2項の規定にかかわらず、平成13年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成11年4月14日

規則第105号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規程第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター(以下「センター」という。)の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) センターの専任講師以上の専任教員
 - (3) 各学部の専任教員 各1人
 - (4) 総務部長
 - (5) その他委員長が必要と認めた者
- 2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。

14. センター規程および運営委員会規程

- 3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。
- 4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成11年4月14日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

2 この規程の施行後最初に任命される第3条第1項第3号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成13年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

発行 2002年6月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町3番
TEL (089) 927-8961
FAX (089) 927-8905

印刷 創風社出版

表紙デザイン：大森浩二

裏表紙写真：西海町の養殖場

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。



3 BUNKYO-CHO, MATSUYAMA, EHIME 790-8577, JAPAN